

昭和 57 年 度  
事 業 報 告 書

自 昭和57年 4 月 1 日  
至 昭和58年 3 月31日

(社) 日 本 病 院 会

# 目 次

## 昭和57年度事業報告

第 1	会務報告	1
第 2	会 議	3
第 3	広 報	25
第 4	委 員 会	32
第 5	医療従事者無料職業紹介事業	49
第 6	定例研究会	50
第 7	内科臨床協議会	60
第 8	全国研究会	62
第 9	第一線リーダー研修会	75
第10	病院視察研究会	77
第11	診療録管理通信教育	78
第12	メディカルクラーク通信教育	81
第13	事務長養成課程通信教育	83
第14	セミナー	85
第15	病院幹部医会	89
第16	海外視察研究会	91
第17	調 査 室	92
第18	病 院 大 会	93
第19	第 8 回日本病院学会	95
第20	第23回人間ドック学会	98
第21	第 6 回日本診療録管理学会	100
第22	'82国際モダンホスピタルショウ	101
第23	老人保健法施行にともなう診療報酬等改定説明会	103
第24	病院防災セミナー	104
附録	要 望 書	105
	役 員 名 簿	135
	委員会委員名簿	140
	会 員 状 況	146

# 第 1. 会 務 報 告

57年

- 4月3日 原価割れ診療報酬の是正に向け、強力な運動を展開すべく職能団体を含む全国病院団体を構成する推進会議発足
- 4月16日 日本病院会は、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会とともに、四団体連名で医療法の一部改正は、民間医療機関の健全な発展を阻害するものとして、反対意見をまとめ国会社労委員・自民党社会部会・厚生省など関係方面へ意見書を提出
- 4月21日 内藤会長など正副会長と財津代議員会議長ほか役員11名が日医執行部と懇談、日医側は、花岡会長をはじめ大西、小池両副会長、常任理事6名を合わせ9名の幹部が出席
- 5月10日 日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会の四団体は医療法一部改正問題と臨調がとりあげている地方税特別措置廃止の問題で厚生省医務局山内総務課長を招き病院税制問題懇談会を開催
- 5月13日、  
5月16日、  
5月16日、  
5月21日、  
5月29日、  
6月14日、  
7月15日、  
7月17日、  
7月24日、  
7月27日、  
8月10日、
- ’82国際モダンホスピタルショウ開催、病院関係者 11,500 人、一般入場者 50,000 人延べ総数 60,000 人強の見学者を集める
- アジア病院連盟スタディツアー(ソウルを中心に韓国で開催)に日本から内藤会長、河野、吉岡、村田各副会長ら幹部と病院関係者合わせて32名が参加
- 病院診療報酬適正化推進会議の中央・地方代表者会議が開かれ 100 万人署名運動の実施、病人によるハガキ陳情を厚生省当局など関係先に実施することを決めた。  
当日は中医協支払側委員一木氏が診療報酬問題について講演し、入院料・技術料の適正評価、薬価算定方式の新しい考え方を示すなど次回改定に向けて内容ある意見交換を行う
- 四団体(日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神病院協会)は昭和58年度税制改正について国税関係5、地方税関係1、計6項目の要望事項をまとめ、厚生省、大蔵省、税調関係、自民党社会部会など関係方面へ提出
- 第8回日本病院学会開幕  
来賓に厚生省・石野事務次官、日医・花岡会長、アジア病院連盟から趙会長を招く、ほかにA H Fから11名来日
- 当日開催の常任理事会で日医・社会保険研究委員会委員に諸橋芳夫常任理事を推せん  
日本病院会が刊行する英文誌“Japan Hospitals”が創刊され、海外90か国余りの医療機関を中心に約1,000部配布
- 病院診療報酬適正化推進会議が実施してきた、署名運動について推進委員会を開催集計報告と8～10月段階の行動計画について協議
- 日病・内藤会長、河野副会長、公私病連五十嵐会長らが厚生省石野事務次官と原価割れ是正のための今後の状況などについて意見の交換を行う

- 8月23日 会員バッヂ制定
- 8月24日 日病・内藤会長、河野、村田、吉岡各副会長、有澤、大野、池谷、高山、4名の常任理事が毎日、東京、サンケイ、日経、時事通信等報道5社の編集長クラスと医療費問題について懇談会を開催
- 9月2日 第6回日本診療録管理学会開幕  
3日
- 9月9日 日本病院会主催の第23回人間ドック学会開幕  
10日
- 9月17日 病院診療報酬適正化推進会議は「原価割れ診療報酬の是正要求書」の作成と今後の運動の取り組み方などについて推進委員会を開き協議する
- 9月20日 本会など四団体で構成する「病院税制・医療法問題懇談会」は国税庁直税部長にパート医師の給与所得に対する源泉徴収税額表の適用区分について照会を行う
- 9月27日 病院四団体(日病・全日病・医法協・日精協)で構成する「病院税制・医療法問題懇談会」のメンバー、本会からは河野副会長、有澤常任理事らが衆議員第一会館の社会党政策審議室をたずね、この4月関係各方面に提出した医療法改正の政府原案に対する反対意見書を示しながらその真意をきくべく話し合いを行う
- 10月15日 病院診療報酬適正化推進会議(代表委員内藤会長・五十嵐公私病連会長)は、地方代表者と職能団体代表者を集めて全体会議を開き「原価割れ診療報酬の是正要求書」をまとめるとともに11月16日に東京第一生命ホールにて「全国病院大会」開催を決定
- 10月27日 病院四団体(日病・全日病・医法協・日精協)は臨調第四部会(加藤寛部長)で廃止の方向で検討がすすんでいるとされている医療金融公庫の存続を求める要望書をまとめ、臨調委員関係国会議員など各方面に提出
- 11月15日 四病院団体(日病・全日病・医法協・日精協)で構成する「病院税制・医療法問題懇談会」は当日開いた会議により今後4病院団体連絡協議会と名称を改める
- 11月16日 病院診療報酬適正化推進会議(代表委員・内藤日病会長・五十嵐公私病連会長)は全国46団体の賛同を得、東京有楽町の第一生命ホールで病院医療費原価割れ是正全国大会開催
- 11月24日 厚生省から大谷医務局長を招きNHK行天氏・高山常任理事により「今後どうなる医療の方向」について座談会を行う
- 12月17日 会員病院あてに医療費領収書の発行状況についてアンケート実施
- 1月1日 3月31日の役員任期満了に伴い役員選挙告示をする
- 1月12日 医療制度委員会で病院活動の原則を指示する「勤務医師マニュアル」まとめる
- 1月24日 京都・東京で老人保健法と一般診療報酬の一部改正など2月から実施される新診療報酬の説明会開催  
25日
- 1月24日 四病院団体連絡協議会は老人診療報酬の設定など今回の診療報酬改定内容を検討、意見を集約作成し、厚生省・中医協等関係方面へ提出

- 2月15日 日本病院会と全国公私病院連盟が昨年6月合同実施した「病院運営実態・分析調査」の経  
営収支状況の概要がまとめ、合同調査委員会の席上で中間報告として発表される
- 2月22日 「勤務医師マニュアル」を朝日、毎日、日経、各新聞で取り上げ反響大
- 2月23日 「勤務医師マニュアル」発送開始、8,000部を配布・頒布
- 2月28日 日本病院会が行っている「医療従事者無料職業紹介事業」の実績(2月まで)についてニュ  
ースに発表
- 3月12日 教育委員会の研究会委員長会議開催

## 第 2. 会 議

### 総 会

#### 第16回総会

5月15日(土) 東京ホテル浦島

- 1) 昭和56年度事業報告に関する件  
原案どおり承認
- 2) 昭和56年度収支決算に関する件  
原案どおり承認
- 3) 会員増強に関する件  
会員増強のため努力していくことで承認

#### 第17回総会

3月26日(土) ダイヤモンドホテル

- 1) 昭和58年度事業計画(案)に関する件  
原案どおり承認
- 2) 昭和58年度会費値上げに関する件  
原案どおり承認
- 3) 昭和58年度予算(案)に関する件  
原案どおり承認

### 代 議 員 会

#### 第19回代議員会

5月15日(土) 東京ホテル浦島

- 1) 昭和56年度事業報告に関する件  
原案どおり承認
- 2) 昭和56年度収支決算に関する件  
原案どおり承認
- 3) 会員増強に関する件  
( 討議のみ )

#### 第20回代議員会

3月26日(土) ダイヤモンドホテル

- 1) 昭和58年度事業計画(案)に関する件  
原案どおり承認

2) 昭和58年度会費値上げに関する件

原案どおり承認

3) 昭和58年度予算(案)に関する件

原案どおり承認

## 理 事 会

### 第1回理事会

4月24日(土) 日病会議室

1. 昭和56年度事業報告に関する件

原案どおり承認

2. 昭和56年度収支決算に関する件

原案どおり承認

3. 理事会運営に関する件

第4土曜日に開催することで承認

4. 会員の入退会について

正会員11件、賛助会員16件の入会

を承認

正会員17件、賛助会員10件の退会

5. 病院税制問題懇談会開催結果について

報告どおり承認

6. 医療法の一部改正による規制強化反対意見書、関係先提出について

報告どおり承認

7. 医療機関に対する事業税の取扱いに対する陳情書、関係先提出について

報告どおり承認

8. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果並びに推進委員会開催結果について

推進委員会委員選任については正副会長に一任することで承認

9. 医療費対策特別委員会開催結果について

報告どおり承認

10. 代議員会、総会における声明について

声明書を関係先に提出した旨の報告を承認

11. 日本医師会との打合せについて

日医より委員派遣依頼があった旨の報告を承認

12. 医療金融公庫と他公庫との統合案に対しての要望書について

臨時行政調査会等へ要望書を提出した旨の報告を承認

13. 病院長セミナー代替座談会開催結果について  
報告どおり承認
14. 自衛消防隊組織検討委員会の開催結果について  
自衛消防組織の整備(案)を検討した旨の報告を承認
15. 通信教育のスクーリング、試験について  
報告どおり承認
16. 病院部門別原価計算講習会開催について  
5月14日講習会を開催する旨の報告を承認
17. 公私病院連盟との57年度合同調査について  
取り決め書を交した旨の報告を承認
18. 各委員会の開催結果について  
報告どおり承認
19. 元毎日新聞編集局長畑山 博氏との懇談結果について  
同氏の意見を声明書に盛りこんだ旨を報告
20. ライフサイエンスについて  
報告どおり承認
21. 理事会終了後の懇談会開催について  
報告どおり承認

## 第2回理事会

7月14日(水) 日病会議室

1. 日本病院学会開催呼称改正について  
通算回数とすることで承認
2. 第33回日本病院学会の開催地について  
静岡県で開催することで承認
3. 人間ドック学会会則改正案について  
改正案を承認
4. 老人保健法案に関する要望について  
法案に関する中間答申を承認
5. 会員増強対策委員会の設置及び委員の委嘱について  
報告どおり承認
6. 臨床予防医学委員会委員長の交代について  
二本杉皎大阪赤十字病院長を承認
7. 会員の入退会について

- 正会員 9 件、賛助会員 6 件の入会  
正会員10件、賛助会員 6 件の退会 <sup>を承認</sup>
8. 各委員会、研究・研修会の開催結果について  
報告どおり承認
  9. 昭和57年度社会貢献表彰候補者の推せんについて  
5 名を推せんすることを承認
  10. 医療費対策特別委員会（中間）答申について  
請願、陳情先については次回常任理事会で検討することで承認
  11. 第二薬局の規制対応について  
技術料、処方せん料の格差をなくすことを基本姿勢とすることを承認
  12. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果及び診療報酬再引き上げの声明について  
報告どおり承認
  13. 病院税制問題懇談会の開催結果について  
報告どおり承認
  14. 全国公私病院連盟との合同調査委員会開催結果について  
11月に講習会を開催することを承認
  15. 日本病院学会評議員の追加について  
5 名の追加を承認
  16. A H F スタディー ツアーの開催結果について  
報告どおり承認
  17. 病院部門別原価計算講習会開催結果について  
報告どおり承認
  18. 病院輪番制補助金について  
提案を了承

### 第 3 回理事会

11月27日(土) 日病会議室

1. 昭和58年度事業計画に関する件  
報告どおり承認
2. (社)日本病院会役員選挙に関する件  
4 月 1 日選挙をすることで承認
3. 定款施行細則に関する件  
現状を維持することで承認
4. 日本病院学会の日本医学会加盟に関する件

- 担当役員として村田副会長・高山常任理事を承認
5. (社)福岡県病院協会の声明及び(社)愛知県病院協会の提唱に関する件  
報告どおり承認
  6. 事務局長採用に伴う書面審議結果について  
理事会の承認を得た旨の報告を承認
  7. 職員再雇用嘱託就業給与規定について  
57年12月1日から施行することで承認
  8. 昭和58年度アジア病院連盟スタディーツアーについて  
報告どおり承認
  9. 会員の入退会について  
正会員6件、賛助会員9件の入会  
正会員4件、賛助会員1件の退会  
を承認
  10. 短期人間ドック及び自動化健診施設指定病院について  
短期人間ドック5件、自動化健診指定施設1件を承認
  11. 昭和57年度末賞与支給について  
12月8日に支給することで承認
  12. 会員の入退会について  
正会員16件、賛助会員12件の入会  
正会員5件、賛助会員8件の退会  
を承認
  13. 各委員会、研究会、セミナーの開催結果について  
報告どおり承認
  14. 短期人間ドック及び自動化健診施設指定病院について  
短期人間ドック5件、自動化健診指定施設2件を承認
  15. 現行医療法の見直しについて  
第19条の見直しを各団体に呼びかけていくことで承認
  16. 室料差額について  
原価割れ診療報酬の実情を厚生省に訴えていくことで承認
  17. 病院診療報酬適正化推進会議の活動について  
報告どおり承認
  18. 病院税制－医療法問題懇談会（4団体）の開催結果について  
四病院団体連絡協議会を改称し四部会構成をすることを承認
  19. 第一四半期会計報告及び監査報告について  
報告どおり承認

20. (社)日本医師会委員会への委員就任について  
    本会より3名が委員となった旨の報告を承認
21. 退職等に伴う役員の退任について  
    役員10名の欠員があるが現状維持をすることで承認
22. 内保連の要望について  
    12月3日、各関係先に要望書を提出することで承認
23. 第8回日本病院学会の開催結果について  
    報告どおり承認
24. 第35回(昭和60年)日本病院学会の開催地について  
    三重県とすることで承認
25. 日本病院学会評議員の移動について  
    2名の追加と1名の退任を承認
26. 第6回日本診療録管理学会の開催結果について  
    報告どおり承認
27. 第23回人間ドック学会の開催結果について  
    報告どおり承認
28. '83国際モダンホスピタルショウの共催名義について  
    承諾することで承認
29. 診療録管理料の要望について  
    厚生大臣等に要望書を提出した旨の報告を承認
30. 会員バッチの配布について  
    報告どおり承認及び会旗の作成を承認
31. 第二次韓国医療実務研修団来日結果について  
    報告どおり承認
32. 昭和57年度の叙勲受章に伴う記念品について  
    表彰規定を作成し、次回常任理事会に提出することで承認
33. (財)日本顕彰会主催「昭和57年度社会貢献表彰者」決定について  
    報告どおり承認
34. 部門別原価計算講習会の開催結果について  
    報告どおり承認

#### 第4回理事会

2月26日(土) 日本病院会会議室

1. 昭和58年度事業計画に関する件

新規事業に、33周年記念事業に関する事項を入れ原案どおり承認

2. 昭和58年度会費徴収に関する件  
原案どおり承認
3. 昭和58年度予算(案)に関する件  
原案どおり承認
4. 老人保健法の施行に関する件  
委員会を設置し、メンバーとしては、正副会長および6～7人で検討することで承認
5. 医療費領収書発行に関する件  
調査結果の報告で了承
6. 社団法人日本病院会役員選挙に関する件  
定款、選挙規定に基づき代議員、理事、監事を選出することで了承
7. 代議員会、総会の運営要領に関する件  
代議員会開催時に総会出席者も参席させて開催することで了承
8. 役員旅費規定の臨時措置一部解除について  
臨時措置を一部解除することが承認
9. 定款施行細則の一部改正について  
会費値上げの承認に伴い一部改正
10. 社団法人日本病院会会員の慶事規定の一部追加について  
勲三等以上については、記念品を贈呈とし、その他については祝電とすることで了承
11. 日本病院学会の日本医学会加盟申請について  
3月31日付で、加盟申請をすることで了承
12. 日本病院会会旗製作について  
会員バッヂのデザインに基づき作成することで了承
13. 日本病院会創立30周年記念事業について  
式典、年史の編集等を実施することで了承
14. 国際病院連盟理事任期満了に伴う後任推せんについて  
河野副会長を推せんすることで了承
15. 短期人間ドック実施指定について  
群馬県 福島病院 285床(判定4床)
16. 会員の入退会について  
入会(正会員4件、賛助会員3件)、退会(正会員4件)が承認
17. 会員の入退会について  
11月28日～1月22日までの常任理事会承認分を報告。

18. 各委員会、研究会の開催について  
報告を了承
19. 3月26日常任理事会開催について  
開催することです承
20. 国際病院連盟留学奨学基金の協力依頼について  
22,000ポンドの基金が集った時点でIHFに送金することです承
21. 第3四半期会計報告及び監査報告について  
報告を了承
22. 老人保健法の施行に伴う説明会開催結果について  
京都府、東京都でもって開催延べ1,000名参加
23. 4病院団体連絡協議会の活動状況について  
報告を了承
24. 病院診療報酬適正化推進会議の活動状況について  
報告を了承
25. 建築基準法一部改正(案)について  
報告を了承
26. 昭和58年度社会貢献表彰候補者の推せんについて  
5月31日の締切りに間に合うよう提出することです承
27. (社)日本医師会医療経営委員会の報告について  
報告を了承

## 常任理事会

### 第1回常任理事会

4月24日(土) 日本病院会会議室

1. 昭和56年度事業報告に関する件  
報告を了承
2. 第9回日本病院学会開催地に関する件  
長崎県開催が延期となり、福岡県と交渉し次回報告することです承認
3. 昭和56年度収支決算について  
報告どおり承認
4. 会員の入退会について  
正会員6件、賛助会員10件の入会と正会員13件、賛助会員5件の退会承認  
また、会員増強対策委員会新設を承認

5. 日本診療録管理学会の評議員の委嘱について  
大島 升（大阪通信病院）・神尾守房（大阪通信病院）を承認
6. 病院税制問題懇談会開催結果について  
医療法改正による規制強化反対意見書等の検討を行った旨の報告を承認
7. 医療法一部改正による規制強化反対意見書、関係先提出について  
厚生省・大蔵省等に提出した旨の報告を承認
8. 医療機関に対する事業税の取り扱いに対する陳情書、関係先提出について  
厚生省・自民党税制調査会等に行った旨の報告を承認
9. 広報委員会委員の交代について  
新任 { 後藤 清（駿河台日大病院）  
益田 啓作（横浜赤十字病院） } を承認
10. 日本病院学会評議員の追加について  
安東三郎（神戸市立西市民病院）・白井 潤（神戸掖済会病院）・西村和夫（西脇市立西脇病院）を承認
11. 委員会開催結果について  
報告どおり承認
12. 代議員会、総会における声明について  
会員宛送付した旨の報告を承認
13. 日本医師会との打ち合せについて  
4月21日(水)花岡日医会長他新執行部と懇談会を持った旨の報告を承認
14. 病院部門別原価計算の講習会開催について  
5月14日(金)ホテル浦島で公私連と共催で講習会を開催する旨の報告を承認
15. 通信教育（事務長養成課程・メディカルクラーク・診療録管理）のスクーリング・試験について  
報告どおり承認
16. 医療費対策特別委員会開催結果について  
老人保健法に関する意見を早急に取りまとめることで承認
17. 病院診療報酬適正化推進会議開催結果並びに推進委員会の委員選出について  
推進委員6名及び幹事の委嘱は正副会長に一任することで承認
18. 全国公私病院連盟との57年度合同調査について  
報告どおり承認
19. ベルギー T・C（チームコンサルタント(株)）社長来日、病院視察について  
報告どおり承認

20. 元、毎日新聞編集局長畑山 博氏との懇談結果について

本会の運営につきアドバイスをうけた旨の報告を承認

## 第2回常任理事会

5月25日(火) 日本病院会会議室

1. 会員の入退会について

正会員3件、賛助会員2件の入会と正会員10件、賛助会員2件の退会が承認

2. 昭和57年度社会貢献表彰候補者の推せんについて

5名を推せんすることで承認

3. 臨床予防医学委員会委員長の交代について

新委員長 二本杉 皎(大阪赤十字病院長)を承認

4. 野村常任理事文書の発送先等について

次回常任理事会において、今後の日本病院会の方針を協議することで承認

5. 医療費対策特別委員会(中間)答申について

病院会ニュース、雑誌へ掲載することとし、関係方面へ提出することで承認

6. 会員増強対策委員会委員の委嘱について

河野・榊原・大野・池谷・有沢・榎本の各氏を承認

7. 人間ドック学会会則変更(案)について

再度臨床予防医学委員会で検討することで承認

8. モダンホスピタルショウ開催結果及びシステム展示出展社(約60社)への感謝状について

入場者約五万人であり盛会であった、また出展社へ感謝状を送ることが承認

9. 夏期賞与の支給について

提案どおり承認

10. 第11回日本病院設備学会併設展示'82病院設備展に対する協賛名義使用について

提案どおり承認

11. 損害保険普通物件火災保険料率のうち消火設備割引の適用に関する要望の件

火災保険料率のうち消火設備割引の適用を大蔵省・消防庁等へ要請することで承認

12. 各委員会開催結果について

報告どおり承認

13. 病院診療報酬適正化推進会議について

5月29日(土) 中央・地方代表者会議を開催することで承認

14. 病院税制問題懇談会の開催結果について

5月7日(金)厚生省医務局総務課長と懇談を行った旨の報告があり承認

15. 部門別原価計算講習会の開催結果について  
5月14日(金)212名の参加者を得てホテル浦島で開催した旨の報告を承認
16. 公私病院連盟との合同調査委員会開催結果について  
病院運営実態分析調査を57年5月～58年2月、病院部門別原価計算調査を57年5月～57年9月に行うことを承認
17. A H Fスタディーツアー結果について  
韓国・ソウルで開催され日本より35名が参加した旨の報告を承認
18. I H F関係について  
6月18日・19日ロンドン会議に吉岡副会長出席を承認
19. 支部の活動状況について  
報告どおり承認

### 第3回常任理事会

6月26日(土) 日本病院会会議室

1. 日本病院学会回数呼称改正に関する件  
通算回数とすることで承認
2. 第9回(33回)日本病院学会の開催地に関する件  
静岡県・浜松市、中山耕作(聖隷浜松病院長)学会長とすることで承認
3. 人間ドック学会会則改正案に関する件  
諸規定検討委員会で再検討することで承認
4. 第二薬局の規制対応に関する件  
日本医師会と連絡をとり、本会の基本姿勢を打ち出すことで承認
5. 老人保健法案に関する要望について  
老人保健審議会の項目を削除し、各保険医療審議会等に病院団体推せんの代表者を参加させることの項目を追加、日医の見解の中に地域医師会と病院団体との協調による保健事業を検討してもらうことで承認
6. 日本病院会運営の検討について  
協議必要なし(既に結論が出ているので)との提案があり承認
7. 会員の入退会について  
正会員6件、賛助会員4件の入会と、賛助会員4件の退会が承認
8. 日本病院学会評議員の追加について  
安田 宏(大田市立病院長)・中山耕作(聖隷浜松病院長)・河井 博(河井病院長)・高橋政夫(大森赤十字病院長)・大畠 襄(東京慈恵会医科大学助教授)を承認
9. 富士写真フイルム(株)主催のマイクロセミナー協賛名義について  
協賛することで承認

10. (社)山口県病院協会・日本病院会主催による講演会開催について  
会員増強の一環として開催することを承認
11. 第21回日本医学総会運営協議会(仮称)への委員派遣について  
提案どおり承認
12. 内保連追加要望事項について  
初診料、再診料、基準看護を追加要望した旨の報告を承認
13. 病院管理委員会防災対策小委員会委員委嘱について  
上林三郎(聖路加国際病院)・倉持一雄(自治医科大学)・石山 稔(聖路加国際病院)  
中鉢美津子(慶応義塾大学病院)を承認
14. 各委員会、研究・研修会の開催結果について  
報告どおり承認
15. 病院診療報酬適正化推進会議の開催結果について  
100万人署名運動・文書陳情につき再依頼することで承認
16. 病院税制問題懇談会開催結果について  
報告どおり承認
17. 日本病院学会 A H F 関係来日者の取り扱いについて  
補正予算を組むことで承認
18. 事務長養成課程通信教育後期試験結果について  
7月17日半蔵門会館で認定証授与式を行う旨の報告を承認
19. 58年度 A H F スタディーツアーについて  
準備のため委員会を設置することで承認

#### 第4回常任理事会

7月24日(土) 日本病院会会議室

1. 現行の医療法の見直しに関する件  
医療制度委員会に委員追加をし、12月迄に答申文作成のうえ関係省庁に提出することで承認
2. (社)日本医師会・社会保険研究委員会の委員推せんに関する件  
諸橋常任理事を推せんすることで承認
3. アジア病院連盟スタディーツアーに関する件  
9月10日(土)～12日(月)、テーマ「病院管理に関して」とし、浜松・富士五湖・箱根・東京において、実施することで承認
4. 会員の入退会について  
正会員4件、賛助会員4件の入会が承認

5. 短期人間ドック実施指定病院について  
大久保病院 兵庫県（指定2床）承認
6. 日本病院学会評議員の追加について  
財津 晃（長浜赤十字病院長）氏を承認
7. 各委員会・研究会の開催結果について  
報告どおり承認
8. 第8回日本病院学会の開催結果について  
7月15日(木)～17日(土)、日本都市センターにおいて参加者4千名であった旨の報告承認
9. (社)日本医師会長との面談結果について  
4団体の活動状況につき説明した旨の報告を承認
10. 病院税制問題懇談会（4団体）開催結果について  
4団体顧問に日医会長の快諾を得た旨の報告を承認
11. 内保連への要望書提出について  
報告どおり承認
12. 病院診療報酬適正化推進会議100万人署名運動について  
報告どおり承認
13. 事務長養成課程通信教育第3回認定式について  
7月17日(土) 東京半蔵門会館で10名の認定を行なった旨の報告で承認
14. (社)日本病院会東京都支部の活動について  
報告どおり承認

## 第5回常任理事会

8月28日(土) 日本病院会会議室

1. 昭和58年度春の叙勲及び賜杯並びに褒章受章候補者の推せんについて  
提案どおり承認
2. 病院長セミナーについて  
テーマ「病院経営の理論武装と実践」と題し、吉岡・村田両副会長・高山常任理事の3氏で企画することで承認
3. 会員の入退会について  
正会員2件、賛助会員4件の入会と正会員3件、賛助会員2件の退会が承認
4. 事務局長の退職に伴う書面審理について  
事務局長の退職を承認
5. 短期人間ドック及び自動化健診施設指定病院について

- ① 短期人間ドック指定病院  
佐々病院（東京） 指定2床
- ② 自動化健診指定施設  
仙台市立病院（宮城県）  
静岡健診クリニック（静岡県）を承認
6. 日本病院学会評議員の異動について  
岩淵 勉（国立横須賀病院）追加・多賀一郎（富山県立中央病院）退任を承認
7. 第11回日本病院設備学会後援名義使用について  
後援することで承認
8. '83国際モダンホスピタルショウ共催名義について  
共催することで承認
9. 各委員会、研修会の開催結果について  
報告どおり承認
10. (社)日本医師会社会保険研究委員会について  
国保と健保の審査の違いにつき検討した旨の報告を承認
11. 内保連診療報酬改正案について  
内保連に改正案を提出した旨の報告を承認
12. 第一四半期会計報告及び監査報告について  
報告どおり承認
13. 長崎及び10号台風の被害調査について  
報告どおり承認
14. 病院診療報酬適正化推進委員会開催結果について  
病院大会及び国会議員への働きかけ等につき検討した旨の報告を承認
15. 病院税制並びに医療法問題懇談会開催結果について  
今後、各党議員との懇談会を実施することで承認
16. 一般紙五社の編集局長との懇談について  
報告どおり承認
17. 防災セミナー開催について  
9月28日(火)、29日(水)セミナーを開催することで承認
18. 会社付属病院への行政指導について  
報告どおり承認
19. 派遣医の給与の取り扱いについて  
細部についてはセミナー等で指導することで承認

## 第6回常任理事会

9月25日(土) 日本病院会会議室

1. 日本病院会役員選挙に関する件  
選挙に対する意見を次回常任理事会に提出することで承認
2. 室料差額に関する件  
病院診療報酬原価割れの実態を厚生省に提出することで承認
3. 第2次韓国病院医療保険実務研修団の来日に関する件  
厚生省病院管理研究所等を視察する旨の報告で承認
4. 病院診療報酬適正化推進会議開催結果および病院大会開催に関する件  
10月中旬全体会議、11月中旬病院大会を開催したい旨の報告を承認
5. 第35回(昭和60年)日本病院学会の開催地に関する件  
三重県で開催することで承認
6. 病院長セミナーの開催について  
名称を病院管理者セミナーとして徳島県で開催することで承認
7. 会員の入退会に関する件  
正会員6件、賛助会員3件の入会と正会員2件、賛助会員6件の退会が承認
8. 短期人間ドック実施指定について  
武田病院(京都府)判定3床・原病院(福岡県)判定8床を承認
9. 日本診療録管理学会会則変更について  
修正の上承認
10. 診療録管理料の要望について  
外来患者新患1名につき5点、入院患者一入院ごとに20点とすることとし要望書を提出することで承認
11. 事務局長人事について  
理事会の書面審理を得ることで承認
12. 委員会、研修会の開催結果について  
報告どおり承認
13. 第6回日本診療録管理学会の開催結果について  
9月2日(木)・3日(金)福岡大学医学部に参加者約1,000名を集め盛会であった旨の報告を承認
14. 第23回人間ドック学会の開催結果について  
9月9日(木)・10日(金)青森市民文化ホールにおいて開催した旨の報告を承認
15. 公取委の調査について

9月20日迄に報告することで承認

16. 合同調査委員会の開催結果について  
報告どおり承認
17. (社)日本医師会委員就任について  
有澤源蔵常任理事、医療経営委員会・河崎 茂理事、診療報酬検討委員会を承認
18. 派遣医給与所得源泉徴収についての照会について  
9月20日付で国税庁宛照会を行った旨の報告を承認
19. 第22回病院視察研究会について  
11月17日(木)～20日(土)広島・山口で開催する旨の報告を承認
20. (社)日本医師会社会保険研究委員会の報告について  
国保・社保の審査の統一等の検討を行った旨の報告を承認

#### 第7回常任理事会

10月23日(土) 日本病院会会議室

1. 日本病院学会の日本医学会加盟に関する件  
加盟申請することとし、学会関係者に根廻しすることで承認
2. 昭和58年度事業計画及び会費徴収に関する件  
次回常任理事会までに(案)を提出することで承認
3. 定款施行細則に関する件  
次回理事会で再検討することで承認
4. 役員選挙に関する件  
理事会に(案)を提出することで承認
5. 福岡県病院協会の声明及び愛知県病院協会の提唱に関する件  
主旨に賛同する旨の文書を出すことで承認
6. 優生保護法改正反対の協力に関する件  
協力することで承認
7. 会員の入退会について  
正会員1件、賛助会員1件の入会が承認
8. 事務局長の書面審理結果について  
55名中全理事の承認を得た旨の報告を承認
9. 短期人間ドック実施指定について  
本島病院(群馬県)判定5床を承認
10. 日本診療録管理学会会則変更(案)についての疑義提出により再承認の件  
第2条目的、第6条退会を追加した修正案を次期評議員会に提出することで承認

11. 賛助会員新年賀詞交歓会について  
本年度は中止することで承認
12. 職員再雇用嘱託就業規則および給与規定について  
職員の意見等を聞き次回再提出することで承認
13. 各委員会、研究会の開催結果について  
報告どおり承認
14. 昭和57年度病院概況調査の実施について  
提案どおり承認
15. 病院診療報酬適正化推進会議の活動について  
11月16日病院大会を開催することを承認
16. 病院税制－医療法問題懇談会（4団体）の開催結果について  
9月27日医療法問題等について、衆議院会館で懇談会を開催した旨の報告を承認
17. 病院防災セミナーの開催結果について  
138名を集め大東京火災保険研修所で開催した旨の報告を承認
18. 第2次韓国医療実務研修団来日結果について  
10月4日～13日、厚生省病院管理研究所等の視察を終了した旨の報告を承認
19. (財)日本顕彰会主催の昭和57年度社会貢献表彰者決定について  
下記2名の決定を報告  
小原 ケイ            ロザリオの元后会理事長  
遠藤 香苗            (社)日本病院会理事
20. 退職等に伴う役員の退任について  
10月23日(土)現在10名の退任がある旨の報告を承認
21. 「部門別原価計算」講習会開催について  
提案どおり承認
22. 内保連の要望について  
11月末日迄に各学会から改定要望事項を集め日医・厚生省等へ提出することを承認
23. 医療金融公庫の廃止に伴う要望について  
10月25日開催の四団体で協議することで承認
24. 病院管理者セミナーの開催について  
参加、協力願いたい旨の要請を承認

## 第8回常任理事会

12月25日(土) 日本病院会会議室

1. 昭和58年度事業計画に関する件

58年度研究研修会・セミナーについては本会主催とし研究会の数の整理、合同開催を考慮することで承認

2. 昭和58年度会費徴収に関する件

原案どおり承認

3. 昭和58年度予算(案)に関する件

予算を組みなおし次回常任理事会へ提出することで承認

4. 日本病院学会の日本医学会加盟申請に関する件

次回常任理事会で再協議することで承認

5. (社)日本病院会会員の慶事規定の一部追加に関する件

現会員施設であって叙勲者が退職等により会員資格を失った場合でも会員に準ずること  
で承認

6. 日本病院会30年史発行に関する件

事業計画に追加することを承認

7. 医療秘書認定のための実務技能検定に関する件

諸般の事情により否決

8. 会員の入退会について

正会員1件、賛助会員1件の退会を承認

9. (社)岡山県病院協会研修会の後援名義使用について

提案どおり承認

10. 第25回成人病予防週間の後援名義使用について

提案どおり承認

11. I H F 留学奨学基金について

現在800万円集まっている旨を承認

12. 各委員会、研究会の開催結果について

報告どおり承認

13. 第2四半期会計報告及び監査報告について

報告どおり承認

14. 四病院団体連絡協議会の活動状況について

医療法一部改正についての意見等を厚生省に提出した旨の報告を承認

15. 病院診療報酬適正化推進会議の活動について

報告どおり承認

16. 社会保険研究委員会の開催結果について

報告どおり承認

17. 内保連の要望について  
報告どおり承認
18. IHF特別視察研究会について  
提案どおり承認

## 第9回常任理事会

1月22日(土) 日本病院会会議室

1. 昭和58年度事業計画(案)に関する件  
原案どおり承認
2. 昭和58年度予算(案)に関する件  
原案どおり承認
3. 老人保健法の施行に関する件  
正副会長会議で医療基準委員会(仮称)の設置、運営等について検討することで承認
4. 医療費領収証発行に関する件  
領収証発行の状況を日病ニュースに掲載することで承認
5. 日本病院学会の日本医学会加盟申請に関する件  
日本医学会加盟のため根廻しをすることで承認
6. 30年史編集に関する件  
30年史編集委員長に小野田顧問に依頼することで承認又、30周年記念行事については年度内に実施できるよう委員会で検討することで承認
7. 会員の入退会について  
正会員2件の入会と正会員5件、賛助会員3件の退会が承認
8. 定款施行細則の改正について  
正会員会費改正に伴う定款施行細則第3条の改正を承認
9. 老人保健法の施行に伴う説明会の実施について  
1月24日京都・25日東京で開催することを承認
10. 日本病院会会旗製作について  
50万の予算で製作することで承認
11. 各委員会開催結果について  
報告どおり承認
12. 四病院団体連絡協議会の活動状況について  
報告どおり承認
13. 日本病院会ニュースについて  
「社説」を3月より実施することで承認

14. 勤務医師マニュアルについて  
2 月中に出来上る旨の報告を承認
15. 日本病院会ニュースの宛名について  
3 部以上の宛名を病院長・事務長・総婦長とすることで承認
16. レセプト様式の統一要望書について  
病院情報センター運営委員会で再検討することで承認
17. 国際病院連盟理事任期満了に伴う後任理事の推せんについて  
河野副会長を推せんすることで承認
18. 第 8 回日本病院学会の収支決算報告について  
報告どおり承認
19. 英文誌の原稿について  
原稿協力依頼を承認

#### 第10回常任理事会

3月26日(土) 日本病院会会議室

1. 社団法人日本病院会役員選挙に関する件  
今後調整していくことで承認
2. 会員の入退会について  
正会員 2 件、賛助会員 4 件の入会、正会員 6 件、賛助会員 4 件の退会を承認
3. 昭和61年第36回日本病院学会の開催地について  
神奈川県で開催することで承認
4. 事務局職員の出向について  
報告どおり承認
5. 退職手当積立金繰入れの増額について  
1,000 万円とすることで承認
6. 4 月定期昇給について  
提案どおり承認
7. 短期人間ドック実施指定病院について  
1 件を承認
8. 各委員会、研究会の開催結果について  
報告どおり承認
9. 日本医学会加盟申請について  
3月31日付で提出する旨を承認
10. '83国際モダンホスピタルショウ準備状況について  
報告どおり承認

11. 四病院団体連絡協議会の動きについて
  - 医療法一部改正は今国会で通過する見込みである
  - 相続・継続問題については中小企業承継税制の中で運用すべく運動中である等の報告を承認
12. 愛媛県における組織拡大運動について  
報告どおり承認
13. 医療紛争セミナー（日本病院会共催）開催結果について  
報告どおり承認
14. 通信教育（事務長養成、メディカルクラーク、診療録管理）募集案内準備について  
報告どおり承認
15. 顧問・参与の委嘱に関する件  
提案どおり承認

### 第 3. 広 報

#### 日本病院会ニュース

号数	発行日	主 な 記 事 内 容
213号	4月10日	1) 声明・転換期に立つ国民医療、日医執行部政選に向け発表 2) 「推進会議」結成さる。原価割れ是正運動を展開 3) 代議員会・総会、57年度事業計画・予算を承認 4) 病院情報の共同利用とシステム化、大阪府病院協会の事例 牧 安孝 5) 「ブラ」 木村千枝子 6) 心身障害児総合医療療育センター訪問記(病院診療所) 7) 病院幹部医総会・セミナー開催報告
214号	4月25日	1) 医療法全体を見直せ、全日病等と4団体で改正反対、民間の健全発展阻むもの 2) 第8回日本病院学会、マラソンシンポ等演題・演者決まる。7月15日～17日、都市センター 3) 薬価基準改訂の動きによせて(上) 吉岡観八 4) 57年度事業計画 5) 第23回人間ドック学会開催にあたって 大内清太 6) 人開ドック学会・診療録管理学会、演題・講師など決まる 7) PHCと我が国の保険制度について 平 和夫 8) 57年度日本病院会上期研究会予定表(5月～9月)
215号	5月10日	1) 病院の2/3が赤字経営、56年度見込決算、推進会議で発表 2) 5月13日～16日東京・晴海、ホスピタルショウ開幕へ、出品102社、講習、講演会も 3) 「私はこう思う」医療維新の嵐の中で 野村秋守 4) 薬価基準改訂の動きによせて(中) 吉岡観八 5) 板挟みになるか時の氏神になるか 真田幸良
216号	5月25日	1) 代議員会・総会開く 56年度収支決算を承認 2) 推進委スタート、ハガキ陳情・百万人署名実施へ 3) 医療法・税制等で意見交換、4団体、医務局総務課長と

- 4) 医療費対策特別委「出来高払い」守れ、老人保健法案等で答申
- 6) ホスピタルショー、一般含め6万人入場
- 7) 薬価基準改訂の動きによせて(下) 吉岡観八
- 8) 家庭と職業 内田卿子
- 9) 国立病院医療センター訪問記(病院診療研)
- 10) ホテル火災と減塩運動 宇井美代子

- 217号 6月10日
- 1) 百万人署名・ハガキ陳情、全国規模で実施、中医協一木委員「入院料技術料適正評価が次の課題」原価割れ是正代表者会議開く
  - 2) 健保導入等で共同宣言、AHFツアーに32名参加
  - 3) 診療報酬適正化に関する見解(答申)(医療費対策特別委員会)
  - 4) 女性の意識について 財津 晃
  - 5) 大石、橋本議員など「制度と医療」の演者決定
  - 6) 登録者1,500名に、看護協会都支部ナースバンク
  - 7) 民間医療職員のベアについて 太田清一

- 218号 6月25日
- 1) 7月15日～17日第8回病院学会開幕へ、プログラム決まる
  - 2) パート医師源泉10%適用など、6項目に総力、4団体、58年度税制改正を要望
  - 3) 第8回日本病院学会、プログラム・日程表
  - 4) 准陰での二賢人 村田 勇
  - 5) 医療費の長期的展望とその適正化について(解説)(医療費対策特別委員会)

- 219号 7月10日
- 1) 法と現場の矛盾を衝く薬剤・看護部門座談会
  - 2) 第8回日本病院学会、15日から幕開き、日医花岡会長が祝辞
  - 3) 第5回日本病院学会、プログラム、日程表
  - 4) ナースバンク 内田卿子
  - 5) 病院の日 宮本祥郎
  - 6) 保険証盗難にご注意! 東京都内で連続2件発生

- 220号 7月25日
- 1) テーマ「医療倫理」めぐり、第8回日本病院学会開幕、石野次官、花岡会長迎え開会式
  - 2) 9月2・3日福岡市、第6回診療録管理学会プログラム決まる
  - 3) 日医花岡会長に協力要請、4団体「病院税制等懇談会」
  - 4) 医療の“信頼確保”を問う 石野事務次官、唾棄すべき“乱療乱獲者”

日医花岡会長、学会開会式祝辞

- 5) 訪韓こぼれ話 河野 稔
- 6) 似て非なるもの 遠山 美知

- 221号 8月10日
- 1) 日本病院学会のあゆみ、回数通算し来年は33回、浜松で
  - 2) 諸橋常任理事を推せん、日医・社会保険研究委員に
  - 3) シンポ・パネルなどに成果、第8回日本病院学会終わる
  - 4) 訪韓こぼれ話(下) 河野 稔
  - 5) 味覚 中野博光
  - 6) A H Fから11名来日、第8回病院学会など参加
  - 7) 「受講病院はつぶれない」事務長通教3回生、10名卒業

- 222号 8月25日
- 1) 9月9・10日、青森市、人間ドック学会、プログラム決まる
  - 2) 一般・指定合わせ56題、福岡、診療録管理学会開幕へ
  - 3) 署名11万超える、厚生省石野次官とも懇談、推進会議
  - 4) 英文雑誌創刊さる、海外向け中心に1,000部配布
  - 5) 私と禁煙 中村了生
  - 6) 河野・有澤氏が出席、山口県病で講演・懇談会

- 223号 9月10日
- 1) 全国研活発化、機能向上と経営危機脱却求め
  - 2) 病院諸団体の英智と力を結集せよ、共通の組織樹立を、福岡県病が「声明」
  - 3) 制度など意見交換、報道5社編集局長クラスと
  - 4) 日本病院会57年度9月～3月研究会予定表
  - 5) 第8回日本病院学会印象記、一地方会員の感想 八家正俊
  - 6) 無財の七施、若い看護婦さんへ 澁沢みさえ
  - 7) くじら・イルカ 池谷 亘

- 224号 9月25日
- 1) 青森・ドック学会終わる、「日本人間ドック学会」へ新展開
  - 2) 一般・指定合せ56題発表、福岡・診療録管理学会も閉幕
  - 3) 原価割れは正要求へ、部門別調査を加味し、推進会議
  - 4) 会員バッヂを判定
  - 5) 人間ドック学会会則の改訂にあたって 鈴木豊明
  - 6) 第6回診療録管理学会に参加して 石本良之、金子裕子
  - 7) 木曾の留山 小野田敏郎

- 225号 10月10日
- 1) “医療法改悪”許さず、社会党(改正案)の真意さく、税制第4団体
  - 2) 病院職能団体も参加、15日全体会議開催へ、推進会議
  - 3) パート医師源泉税問題、月額表適用を了承、国税庁、厚生省も徴収税低率化の意見
  - 4) 日本人間ドック学会会則
  - 5) 第23回人間ドック学会顧末記 金沢鉄男
  - 6) 月山 江本俊秀
  - 7) 「病院管理者セミナー」11月徳島開催
  - 8) 韓国から研修団来日、医療制度等・5日から各地へ
- 226号 10月25日
- 1) 原価割れデコボコ是正を要求、全国病院大会11月16日開催へ、推進会議
  - 2) 原価割れ診療報酬の是正要求書(項目)
  - 3) リレー放談、病院危機を乗り越える、コ・メディカルの立場から
  - 4) 研修意欲旺盛に、韓国から病院視察団来日
  - 5) 果物に思う(多情者・律義者・不妊症) 遠藤香苗
  - 6) 「せっかく勉強したのだから」メディカルクラーク通教32名卒業
- 227号 11月10日
- 1) 16日・東京、推進会議、病院大会開催へ、全国45団体が賛同
  - 2) 医療金融公庫存続せよ、4団体で再度臨調等へ要望
  - 3) パート医師源泉税問題“月額表適用”を回答、国税庁、4団体の照合に
  - 4) 日母協会の見解を支持、優性保護法改正問題で
  - 5) 日本の医療界の未来一つの提案 河野 稔
  - 6) 前号掲載「リレー放談」の感想、“危機”の中の患者に心よせて 須谷照子
  - 7) 6月スイス、国際病院学会など、IHF58年度事業計画を発表
- 228号 11月25日
- 1) 危機はね返す熱気あふれ、全国病院大会開く、46団体が賛同、750名参加、推進会議主催
  - 2) 「4病院団体連絡協議会」に、税制、医療法問題懇を改組
  - 3) 79名参加、2日間有意義に、徳島で病院管理者セミナー
  - 4) 新住宅雑見 平野 明
  - 5) 薬剤師ノート、優雅な白衣が灰色に見えて、リレー放談をよんで 斉木初子
  - 6) 原価計算講習会開く、219名参加、病院大会資料に
  - 7) 診療録管理料新設を要望、外来5点入院20点

- 229号 12月10日
- 1) 勤務医師マニュアル作成へ、病院活動の原則を指示、基本的姿勢、診療実務など
  - 2) 来年6月池袋サンシャイン、ホスピタルショウ説明会開く
  - 3) 部門別に多角的分析、「病院原価計算調査」発刊、公私病連と協力調査
  - 4) パート医師源泉税問題、月額で欄、早見表を作成、送付
  - 5) 新厚相に林義郎氏
  - 6) 「勤務医師マニュアル」について 左奈田幸夫
  - 7) 厚生年金基金、山口県で発足
  - 8) 日本最後の仇討ちは奇しくも赤穂藩 遠藤香苗
  - 9) 患者から、改善要求出したいけれど、リレー放談をよんで 杉本文雄
  - 10) 6～7月3コースを計画、スイスで23回国際病院学会
- 230号 1月1日
- 1) 年頭所感、現行医療諸制度の矛盾点の早期改正を提言する 内藤景岳
  - 2) 薬価4.9%下げ1月実施、分離断行し技術料振替えも否定
  - 3) 基準看護の抜本改正等、内保連へ病院学会案まとむ
  - 4) 森下前厚相退任挨拶に
  - 5) 医師の基本的勤務要領「勤務医師マニュアル」(案)から
  - 6) 役員選挙告示(1月1日)
  - 7) 座談会、新年をむかえて(前)、今後どうなる医療の方向
  - 8) 東西両雄が激突、新春暮会、池谷、小原、戦
  - 9) 「五省」と私 西能正一郎
- 231号 1月25日
- 1) 老人診療報酬2月から実施、病院には厳しい内容、一般医科は0.29%の微調整
  - 2) 良心的病院を滅ぼすな 諸橋芳夫
  - 3) 緊急項目に“当面の意見”、医療法改正、相続税関連含め
  - 4) 特例許可・許可外老人病院、20日取扱い通知など各県に
  - 5) 勤務医師マニュアル、2月始め完成会員等配布へ
  - 6) 新診療報酬の解説、老人特掲診療料の新設、一般の医科診療報酬改正 諸橋芳夫
  - 7) 座談会、新年をむかえて(後)、今後どうなる医療の方向
  - 8) 第24回日本人間ドック学会、特別講演・シンポ等決まる
  - 9) 私と現在 益田啓作
  - 10) 一般人の声、患者さんから学ぶ 沖田弘子、思いこみはないか T・K

11) A H F スタディツアー日本で開催、9月浜松の病院学会に合わせ

- 232号 2月10日
- 1) 基準看護等の制度見直しを提言、新診療報酬に対し申入れ、4病連
  - 2) 京都・東京で1,000人参加、改定説明会開く
  - 3) 会員アンケート、入院・外来ほぼ100%実施、領収書・明細書の発行で
  - 4) 勤務医師マニュアル完成、一般にも大きな反響
  - 5) 主潮、老健法に望むこと(N)
  - 6) 新診療報酬説明会での質疑応答
  - 7) 一部負担金の扱いに関して質疑応答、厚生省作成
  - 8) 看護管理研、医療と新聞の接点、報道人が講演、経営問題も
  - 9) 鷲と烏と、囲碁随想 真鍋真之
  - 10) 来年4月、日本で開催、I H F 特別視察研を了承
  - 11) 6・17~19、池袋サンシャインシティ、出品締切りは3月末、ホスピタルショウ準備すすむ

- 233号 2月25日
- 1) 速報、病院経営収支の実態、危機一段と深刻化、赤字病院が7割を占める、公私病連と合同調査、集計954、総収支率は107.0
  - 2) 58年度役員会等の日程(案)
  - 3) 絵画、写真等の出品を、ホスピタルショウで展示
  - 4) 昭和58年3学会の案内
  - 5) 病院管理総合研、老人看護の諸問題、現場ナース達で活発討議
  - 6) 病院破綻、今後は労務倒産、中型・大型病院も直面へ、事務長セミナー川原氏が講演
  - 7) 走る風景 財津 晃
  - 8) 一般人の声、患者の願いは?
  - 9) 中間監督者向け実践論、「病院職員読本」共済会が発刊

- 234号 3月10日
- 1) 9月・浜松、学会テーマ、激動する病院の光と影、第33回日本病院学会、プログラム骨子決まる、地域医療計画など興味の演題
  - 2) 時代を見据えた学会に 中山耕作学会長
  - 3) 新しい日病会長に望むこと 憂志会員より
  - 4) 主潮、病院倫理と経営基盤(W)
  - 5) 一般演題募集始まる、10月大阪、診療録管理学会
  - 6) 高齢化病院 村田 勇

- 7) I H F 海外留学派遣事業、協力基金集まる
- 8) 台北市から病院視察に、13日間、関西・四国まで

- 235号 3月25日
- 1) 無料職業紹介事業、年間40人超す就職者、医師過剰時代への世相反映か、求人側は“良い医師”を選定
  - 2) 医師の急増とその対策 有澤源蔵
  - 3) 教育の使命を再認識、57年度延べ79回、5,400名参加、研究会総括
  - 4) 新代議員110氏が確定
  - 5) 各方面と折衝続く、医療法改正案国会上程へ
  - 6) 57年度研究会総括、各部門の活動報告、研究会委員長会議から
  - 7) 腹がたつこと 宮本祥郎
  - 8) 1,019施設の経営データ収載、病院運営実態分析調査発刊迫る!
  - 9) 58年度社会貢献表彰者、日本顕彰会から推せん通知

## 第4. 委 員 会

### 1. 教育委員会

1. 開催回数 教育委員会 3回  
研究会委員長会議 3回
2. 延出席者数 教育委員会 8名  
研究会委員長会議 49名
3. 協議項目
  - 1) 昭和57年度上半期研究会開催結果について
  - 2) 昭和57年度下半期研究会開催について
  - 3) 昭和58年度研究会活動方針について
  - 4) 昭和58年度教育研究活動調整について
  - 5) 昭和57年度研究会活動結果について
  - 6) 昭和58年度研究会活動について
4. 総 評

昭和57年度は、定例研究会延開催回数56回、全国研究会延開催回数16回、セミナー延開催回数4回、第一線リーダー研修会延開催回数3回を実施し、定例研究会は3,324名、全国研究会は1,724名、セミナーは271名、第一線リーダー研修会は77名のそれぞれ延参加者数を集め盛会に終了できた。

本年度の研究会は昨年度のような合同研究会としては開催せず、従来どおり単独開催として実施し、各研究会の尽力により、大きな成果を上げた。

今後も本来の勉強会の主旨に従い、自主性をもった研究会として運営していくよう努力したい。なお各研究会間の協力体制は、今まで以上に密に取り、合同開催等も考慮する必要性を感じた。以上の事項をふまえ、昭和58年度は、定例研究会については、従来どおり関東地区において開催する。また、全国研究会、セミナー等については、各研究会で計画立案し、合同開催できるものについては、相互に調整をはかり、収支相償なうよう努力し、開催地についても、原則として大都市を中心とした場所の選定を行ない、より多くの参加者を集めることとした。

### 2. 臨床予防医学委員会

1. 開催回数 5回(小委員会4回を含む)
2. 延出席者数 34名
3. 協議項目
  - 1) 樫田委員長辞任にともない、後任についての善後策の検討

- 2) 日本人間ドック学会会則改正(案)について
- 3) 第25回(昭和59年度)日本人間ドック学会会長候補について
- 4) 56年度人間ドック現況報告
- 5) 日本人間ドック学会監事の選出
- 6) 日本人間ドック学会会則新規発効による理事、評議員の人選に関して
- 7) 58年度短期人間ドック健診料及び自動化健診料の健保連に対するオファーについて
- 8) 糖負荷試験方法並びに判定基準の変更の件
- 9) 胆のう検査の造影剤ビロプチン使用禁止に伴い超音波(エコー)の使用方向での検討
- 10) 短期人間ドック検査項目見直しの件

### 3. 医療制度委員会

1. 開催回数 12回
2. 参加人数 66名
3. 議 題 (1)病院と勤務医師について  
(2)勤務医師マニュアルについて  
(3)国民医療推進のために病院の立場から現行医療制度の諸問題について  
(4)勤務医師マニュアルの頒布状況について  
(5)継続中の討議事項について

### 4. 総 評

病院と勤務医師をめぐる諸問題について検討をはじめた。

まず、勤務医師の実態把握を行うため文献等資料を研究、勤務医師の定義と分類、服務規程、勤務評定、職業倫理、勤務条件、研究研修、地域医療への協力、公共サービス、教育、専門知識技能評価、主治医権、医療責任、業務災害補償、医事紛争、報酬等、あらゆる面から討議を重ねた結果をまとめ、医師の基本的勤務要領をはじめとした6章からなる「勤務医師マニュアル」を作成、出版した。

全国の会員病院に配布したところ大きな反響を呼び、マスコミを通じてのPRの影響もあって58年3月現在1万1千冊を頒布した。

なお、現行医療制度の諸問題についての意見を会長へ提出した。引続き委員会においての討議課題として次の事項があげられている。

1. 病院医療基準の作成
2. 全人性と専門性を最大限に発揮できる自由で創造的な医療制度は如何にあるべきか。

#### 4. 診療録管理通信教育委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 12名
3. 協議項目
  - 1) 卒業、進級試験の可否について
  - 2) 一部カリキュラムの検討
  - 3) 実習病院の指定について
  - 4) 開講式の挙行について
  - 5) 卒後研修について

#### 5. メディカルクラーク通信教育委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 11名
3. 協議事項

第1回 4月5日(土)於 鉄道会館ルビーホール

- 1) 昭和57年度の教育実施について
  - 実施の要領は概ね前年度と同様とする
  - 第6回認定証授与式は10月16日(土)とする
  - 第6回認定審査委員会は9月11日(土)17:00よりとする
  - 第6期生後期試験は8月22日㊦東京・京都同時に実施
  - 第7期生前期スクーリングは8月19日～25日とし東京会場は8月19日～21日、京都会場は8月23日～25日、夫々実施
  - 後期スクーリングは58年2月10日～16日とし2月10日～12日を京都、14日～16日を東京で夫々実施
  - 前期試験は2月13日、東京・京都で同時に実施
- 2) 前期及び後期スクーリングの時間割り決定

第2回 9月11日(土)於 鉄道会館ルビーホール

- 1) 第6回認定審査
  - 第6回認定者 32名(内延長生1名)  
不合格者：4名
  - 第6回認定証授与式  
10月16日(土)17:00～20:00 東京半蔵門ふくおか会館
- 2) 第7期生の前期試験・後期スクーリングの時間割の確認

## 6. 事務長養成課程通信教育委員会

1. 開催回数 1回
  2. 出席者数 8名
  3. 協議事項
- 4月21日(水)於日本病院会会議室
- 1) 昭和57年度の教育実施について
    - 実施の要領は概ね前年度と同様とする
    - 第3回生最終試験：6月19日(土)京都堀川会館とする
    - 第3回終了認定式：7月17日(土)東京都内とする
    - 7月の試験○スクーリング：7月8日～24日の間に実施
- 試験日：7月8日(土)第4回生第一年次後期試験  
スクーリング：7月9日～14日第4回生第2年次前期  
7月19日～24日第5回生第1年次前期
- 会場：いずれも聖路加国際病院第2記念館を使用
- 2) 7月のスクーリング時間割りは再調整の上確認する
  - 3) 「給食管理」榊田博先生交替希望については適任者を推せんしていただくことにするが、可能な限り継続を依頼する
  - 4) 第3回生前期末受験者2名についての追試は5月22日(土)日本病院会で実施

## 7. 学術委員会

1. 開催回数 10回
2. 延出席者数 66名
3. 協議項目
  - 1) 日本病院会雑誌 '82 6月号～ '83 5月号の編集
  - 2) 日本病院会雑誌 '82 7月号～ '83 6月号の企画
4. 雑誌57年度('82.4～'83.3)主要掲載記事
  - (4月号)  
グラフ・東京慈恵会医科大学附属病院  
第7回日本病院学会—教育講演  
医療法改正私案 井上昌彦
  - (5月号)  
グラフ・伊勢市立伊勢総合病院  
立ち遅れた日本の診療録の現状——その問題解決—— 日野原重明  
これからの病院経済 伊藤 研他

(6月号)

グラフ・'82国際モダンホスピタルショウ

医の倫理をめぐる諸問題 河井 博

病院における不採算部門の検討について 内藤景岳

(7月号)

グラフ・'82アジア病院連盟韓国スタディツアー

病院の管理 石原信吾

無次産業を別次産業と仮称替すること—空次元の提唱— 蘭部雅一

Listen to me 長石忠三

(8月号)

グラフ・第21回病院視察研究会

診療報酬点数の改正(昭和56. 6. 1)による新旧点数比較の結果について 内藤景岳

銷夏随筆24編

(9月号)

グラフ・第8回日本病院学会

第8回日本病院学会特集号—学会長講演・一般演題・座談会

(10月号)

グラフ・聖隷浜松病院

第8回日本病院学会—講演・パネルディスカッション

都道府県別・人口当り一般病床数のバラツキについて 井上昌彦

(11月号)

グラフ・東京通信病院

再び療養環境管理料について 左奈田幸夫

第8回日本病院学会—マラソン・シンポジウム

(12月号)

グラフ・第6回日本診療録管理学会

医療法の改正を望む 諸橋芳夫

第6回日本診療録管理学会特集—講演・シンポジウム・指定課題・一般演題

(1月号)

グラフ・第22回病院視察研究会

激動下における病院経営 川原邦彦

死の社会学 森 幹郎

世界の医療制度からみた日本の医療 行天良雄

(2月号)

グラフ・西ヨーロッパの病院

病院防災セミナー・特別論稿・病院等における民事・刑事法上の失火責任について 加藤 了

シンポジウム・誰が守る病院の建物

勤務医師マニュアル 医療制度委員会

これからの病院の課題 佐分利輝彦

(3月号)

グラフ・米国の中西部・東部病院

第24回人間ドック学会シンポジウムⅠ、Ⅱ及び一般演題抄録No.1～48

医療の構造不況と医の倫理の限界について 吉岡観八

日本病院会新執行部に望むこと 井上昌彦

## 8. 広報委員会

1. 開催回数 6回

2. 延出席者数 50名

3. 協議項目

1) 57年度ニュース発行方針について

2) 無影灯、エッセイなど新紙面づくりについて

3) ニュース保存版の製作について

4) 座談会の開催

①リレー放談「病院危機を乗り越える」コ・メディカルの立場から ②新年をむかえて、  
今後どうなる医療の方向

5) 新年号の企画について

6) 58年度の計画について

7) 次期引継ぎまでの委員会任期・活動問題について

8) “社説らん”の設置について

9) ニュース配布先の見直しについて

10) ニュース宛先の変更について

11) 過去3年間の総括

12) ニュースの活用の仕方について

13) ニュース原稿に対する謝礼について

14) 次期委員会へ申し送り事項(無影灯、主潮、エッセイなど)

#### 4. 総 評

日病ニュースは新しい企画も相当取り入れ、内容が整備されて読みやすくなった。無影灯、エッセイともシリーズものとして定着、好評をえている。社説らん「主潮」はスタートしたばかりで、今後に期待したい。病院で働く多くの人に読まれるニュースとして、よい紙面づくりに努力するとともに、発送の宛名を従来の院長あてから、院長・事務長・総婦長あてとし連記するようにした。57年度一年間をみると、医療環境がさらに厳しくなっているおり、病院団体の団結へとすすみ、4病院団体連絡協議会及び公私病連との推進会議、合同調査などとおした活動が目立った。また「勤務医師マニュアル」が時機をえて大きく報道されたが、これらを主体に、ニュース紙面とおした広報活動を行った。

#### 9. 情報センター委員会

##### 1. 開催回数

1) 病院情報センター運営・技術協力委員会 9回

##### 2. 延出席者数 87名

##### 3. 協議事項

- 1) '83モダンホスピタルショウへのパネル展示について
- 2) コンピュータゼミの開催について
- 3) 病院におけるコンピュータ利用状況について
- 4) セミナー運営の具体的方法について
- 5) 昭和58年度セミナー開催について
- 6) 老人保健法に係わる要望書作成について

##### 4. 総 評

昭和56年度に実施した「病院におけるコンピュータ利用状況調査」がまとまり、発表の段階となっているが、諸般の事情により多少遅れている。

また、本年2月に行われた、老人保健法施行、一般診療報酬改定等につき、レセプトのフォーマットの問題が生じ、昭和58年度は本会医事研究会委員の協力を得検討を重ねていくこととなっている。

##### コンピュータゼミ

「病院における効果的なコンピュータの使い方」

1. 日 時 昭和57年10月23日(土)

10月24日(日)

2. 会 場 大東京火災海上保険(株)中央研修所

3. 参加者数 78名

#### 4. 演 題

- 1) 日本の病院におけるコンピュータ利用の現状
- 2) グループディスカッション
  - ㊦ 中小規模病院の利用計画
  - ㊧ 中小規模病院の利用上の問題と拡大計画
  - ㊨ 中規模以上の病院での利用計画
  - ㊩ 中規模以上の病院での利用拡大計画

#### 総 評

今回のコンピュータゼミは「病院における効果的なコンピュータの使い方」と題し病院規模別・利用状況別に分け開催したところ、導入前の未利用部門において種々の問題が提出され、再度未利用部門についての説明会を開催する必要があると思われる。

### 10. 社会保険委員会

1. 開催回数 3回
2. 延出席者数 15名
3. 協議事項
  - 1) 診療報酬点数の改正要望について
  - 2) 内保連への要望書について
  - 3) 老人保健法に係わる諸問題について
  - 4) その他
4. 総 評

本年度は、内保連への要望書を日本病院学会として提出することとなり、社会保険委員会で検討を行い、病院診療報酬原価割れ是正要求書を基に要望書を作成し提出した。

なお、諸橋委員長が8月より、日本医師会社会保険研究委員会委員となり、「自浄責任」についての報告・検討を行った。

### 11. 医療経済委員会

1. 開催回数 2回
2. 延出席者数 10名
3. 協議項目
  - 1) 昭和58年度税制改正要望事項について
  - 2) 損害保険普通物件火災保険料率のうち消火設備割引の適用に関する要望について
  - 3) 四病院団体連絡協議会これまでの経過と報告
  - 4) 臨調第3部会報告原案による補助金の整理問題について
  - 5) 昭和58年度税制改正について

#### 4. 総 評

本年度は税制関係については主として四病院団体連絡協議会において検討されたため、本委員会としては税制関係以外の医療経済問題を検討し、6月に「損害保険料率の消火設備割引適用に関する要望」を提出し関係方面へ働きかけた。

#### 12. 国際委員会

1. 開催回数 6回

2. 参加人数 32名

##### 3. 議題とその報告

1) 第23回 I H F 国際病院学会に関する件

① 日本からの論文発表の件

② 統一テーマ、およびグループディスカッションのテーマの件

③ 論文発表予定者の件

2) メディカル・エシックスについての回答、吉岡副会長宛文書に関する件

3) 秋田赤十字病院・竹本院長以下 A H A アメリカ病院協会他訪問に関する件

4) 第15回台湾病院協会会議に内藤会長出席に関する件

5) A H F アジア病院連盟スタディーツアー参加状況に関する件

6) 第8回日本病院学会への招待状を A H F 加盟4カ国（韓国・台湾・インドネシア・フィリッピン）各病院協会宛出状とその回答に関する件

7) 病院共済会によるアメリカ M R L 診療録管理業務視察研究会10月開催に関する件  
コーディネータは栗田静江氏

8) 国際病院連盟・留学奨学基金への寄金に関する件

9) A H F アジア病院連盟実行委員会に関する件

① 前回委員会の報告と承認

② 次期会長の選挙

③ 1983年 A H F スタディーツアー開催国の決定の件

④ 1984年国際病院連盟地域会議（韓国開催）原案検討の件

10) 主催後援等にかかわる責任等今後の海外視察研究会のあり方に関する件

11) 1983年 I H F 国際病院学会への論文発表者と寄稿者に関する件

12) I H F 留学奨学基金について日病案提出に関する件

13) 1982年スタディーツアー結果（日本より34名参加）と1983年スタディーツアーの計画に関する件

14) 第8回日本病院学会への来ひんと行動に関する件

- 15) 1982 年海外視察研究会経過に関する件
- 16) I H F 実行委員会（1982・6・18）議事録に関する件
- 17) I H F 実行委員会開催計画（1983・4・15-16および、1983・11・11-12）に関する件
- 18) 1983 年 I H F 特別視察研究会開催計画に関する件
- 19) 英文誌ジャパンホスピタルズ第 1 号への反響に関する件
- 20) 韓国からの第 2 回病院視察団来日に関する件
- 21) イスラエルからの病院視察団来日に関する件
- 22) I H F 国際病院学会参加のための海外視察研究会計画に関する件
- 23) フィリピン病院協会の役員選挙に関する件
- 24) 1984 年 I H F 特別視察研究会（日本開催）計画に関する件
- 25) 1983 年海外視察研究会計画に関する件
- 26) I H F 国際病院学会開期中の各国病院協会代表者会議に関する件

#### I H F との交流

- 1) 第23回 I H F 国際病院学会が 1983年6月27日より7月2日までスイス・ローザンヌ・パレドボーリウにおいて開催される。病院会からは東北大学管理学・関田康慶氏が論文を発表、また、河野稔・吉岡観八両副会長が論文を提出することとなった。  
学会テーマは「病院とヘルスケアにおける効率化」をはじめとして「病院における省力化と人間性」など。病院会はこの学会のための海外視察研究会を6月24日より7月8日まで開催する。
- 2) 国際病院連盟留学奨学基金への寄金協力について同連盟より病院会に対し留学奨学事業の活発化のために協力を依頼されたため基金の提供に努力した結果、吉岡副会長が中心となって日本の企業・財団5社より合計 27,000 ポンドの基金提供を受け、ロンドン本部マクマホン会長へ送金した。
- 3) I H F 特別視察研究会日本開催の件について同連盟より病院会に対し要望があった。期間は 1984 年 4 月 15 日より 4 月 21 日まで。東京を中心とする病院視察研究会の企画担当者を選び協力することとなった。なお、同連盟は 4 月 22 日より韓国ソウルにおいて I H F 地域会議および視察研究会を開催する。

#### A H F との交流

- 1) 1982 年 A H F スタディーツアーが 5 月 17 日より 5 月 21 日までソウルにおいて開催された。日本からの参加は 34 名。内藤、河野、村田各会長副会長および、上畑事務局長が出席した。
- 2) 第 15 回台湾病院協会定例会議が昭和 57 年 5 月 1 日より 5 月 2 日まで台北市国立台湾大学病院

において開催され、内藤会長が招待出席した。

- 3) 第33回フィリピン病院協会定例学会が昭和57年11月18日より20日までマニラミッドタウンホテルにおいて開催され、内藤会長が招待出席した。
- 4) 第8回日本病院学会へのアジア病院連盟加盟国からの来賓として昭和57年7月15日より7月17日まで東京において開催された学会へ加盟国4カ国より11名の代表が参加した。韓国6名、台湾3名、インドネシア、フィリピン各1名ずつ。
- 5) 韓国より第2回病院視察団が来日。昭和57年10月4日より10月13日まで病院会事務局、厚生省病院管理研究所、杏林大学病院をはじめとして京都、大阪にわたり7病院、3施設を視察した。大韓病院協会事務局金氏以下7名。
- 6) 台湾から第1回病院視察団が昭和58年2月21日より3月5日まで国立東京第二病院、北品川総合病院をはじめとして名古屋、京都、天理、大阪、倉敷にわたり9病院を視察した。台北市立中興醫院劉院長以下7名。
- 7) 韓国馬山聖母病院洪院長が来日、桜町病院を視察した。
- 8) フィリピン病院協会役員選挙の結果、会長にジョセ・タマヨ氏が選出された。
- 9) 1983年アジア病院連盟スタディーツアーは日本病院学会会場である浜松市民会館に集合、浜松市を起点として神奈川・東京の病院他を視察する。期間は昭和58年9月10日より9月12日まで。初日には連盟加盟国5カ国の各代表による論文発表会が開催される。

#### その他諸外国との交流

- 1) イスラエルより病院長17名が昭和57年11月13日聖路加国際病院を視察、野辺地院長が対応した。
- 2) カナダオンタリオ聖ジョセフ病院理事長サミュエル・マーチン氏が昭和57年6月10日(財)沖中記念成人病研究所を視察、三好所長が対応した。

#### 海外視察研究会報告

昭和57年度は3コース開催された。

- 1) ソ連病院視察とシルクロード、モスクワ、レニングラード15日間  
6月10日～6月24日 参加16名 団長 河野 稔
- 2) 医療事情視察とアメリカ一周の旅  
6月27日～7月8日 参加10名 団長 高杉成一
- 3) 中国病院視察と中国揚子江三峡下り13日間  
10月10日～10月22日 参加21名 団長 高橋勝三

昭和58年度は3コースを計画する。

6月 スイス。 7月～8月 アメリカ。 8月 中国。

### 13. 病院診療報酬適正化推進会議

- 4月3日 「推進会議」結成集会（海運ビル） 32団体 43名  
(1) 規約 (2) 当面の行動計画 (3) 代表委員等を決定  
(4) 原価割れ診療報酬是正につき声明書発表
- 4月27日 「推進会議」幹事会（海運ビル） 11名  
(1) ハガキ・封書による陳情について  
(2) 100万人署名運動の推進等を決定
- 5月8日 「推進会議」推進委員会（農業共済会館） 8名  
(1) 地方代表者推進会議の開催  
(2) 当面の重点行動計画等を決定
- 5月24日 「推進会議」幹事会（日本病院会） 11名  
(1) 中央・地方代表者推進会議実施要領(案)等を決定
- 5月29日 「推進会議」中央・地方代表者会議（ダイヤモンドホテル） 11団体 29名  
(1) 100万人署名運動 (2) ハガキによる陳情等を決定
- 7月5日 「推進会議」幹事会（海運ビル） 13名  
(1) 今後の運動の進め方 (2) 「100万人署名」ならびにハガキ陳情運動につ  
いて (3) 部門別原価計算調査の中間報告
- 7月27日 「推進会議」推進委員会（海運ビル） 6名  
(1) 署名運動の結果報告（1978病院190,708名）  
(2) 8月～10月段階の行動計画等を決定
- 8月10日 「推進会議」代表 石野厚生省事務次官と懇談（松本楼）
- 9月17日 「推進会議」推進委員会（日本病院会） 8名  
(1) 原価割れ診療報酬是正要求書  
(2) 100万人署名運動等につき協議
- 9月30日 「推進会議」幹事会（日本病院会） 12名  
(1) 「推進会議」全体会議用開催要領  
(2) 原価割れ是正要求書  
(3) 戸沢自民党社会部会長との懇談について } 協議
- 10月5日 「推進会議」代表 戸沢党社会部会長と懇談
- 10月8日 「推進会議」代表 吉村厚生省保険局長と懇談
- 10月15日 「推進会議」全体会議（九段会館） 21団体 46名  
(1) 原価割れ診療報酬の是正要求書  
(2) 全国病院大会開催要領等につき協議

- 10月27日 「推進会議」幹事会（日本病院会） 10名  
 (1) 全国病院大会 (2) 署名運動等につき協議
- 11月5日 「推進会議」推進委員会（食糧会館） 8名  
 (1) 全国病院大会 (2) 署名運動  
 (3) 日医会長との懇談会開催等につき協議
- 11月9日 「推進会議」代表 日本医師会長と懇談
- 11月11日 「推進会議」幹事会（池之端文化センター） 13名  
 (1) 全国大会声明書等検討
- 11月16日 「病院医療費原価割れ是正全国大会」（第一生命ホール）  
 637名（別項のとおり）
- 12月7日 「推進会議」推進委員会（ダイヤモンドホテル） 11名  
 (1) 今後の活動方針について  
 (2) 全国の病院団体の活動を統一化する連合会構想について等を協議

### 病院診療報酬適正化運動推進要綱

#### 1. (目 的)

病院診療報酬の適正化をめざし、中央ならびに地方の関係団体が協力して、相互に情報、意見の交換を行い、運動を推進するため、共同行動をとることを目的とする。

#### 2. (名 称)

「病院診療報酬適正化推進会議」（仮称）と称し、その事務所を次の2カ所に置く。

- 東京都千代田区麴町2-14（〒102） 麴町パレス 2F  
 日本病院会事務所
- 東京都渋谷区神宮前2-6-1（〒150） 食品衛生センター 5F  
 全国公私病院連盟事務所

#### 3. (構 成)

会議の目的に賛同する団体を会員とし、会員は次の3種とする。

- ① 中央会員 = 全国公私病連（社）日本病院会  
 （他の中央団体が参加する場合は、別途協議する。）
- ② 地方会員 = 各府県病院協会、ならびにそれに準ずる団体。
- ③ 協賛会員 = 病院職能団体。

#### 4. (推進体制)

中央会員のなかから、次の各委員および幹事を選任する。任期は1年間とする。

- 代表委員 2 名
- 推進委員 若干名
- 幹 事 10 名

- ① 代表委員ならびに推進委員は推進委員会を構成し、業務の立案、運動の推進等にあたる。  
推進委員会は原則として、毎月1回開催する。
- ② 幹事は幹事会を構成し、推進委員会の指示により、業務を処理する。

## 5. (会 議)

必要に応じ、次の会議を開催する。

- ① 中央代表者会議
- ② 地方代表者会議
- ③ 職能代表者会議
- ④ 全 体 会 議

## 6. (運 営)

推進委員会の決定は、各団体の機関による承認を経て、各団体につき効力を発生する。ただし、急を要する場合は直ちに執行し、各団体の追認を求めることとする。

地方会員、協賛会員等への連絡は、会議の名において統一して行う。

## 7. (費 用)

推進会議の費用分担は別に定める。

## 推 進 会 議 ス ロ ー ガ ン

1. 国民医療と組織医療を守るため、全国の病院が大同団結して運動を推進しよう。
2. 病院診療報酬の原価割れ料金を緊急に是正せよ
3. 国民医療費の適正化は、原価補償料金の確立から
4. 診療報酬体系の是正は、中央医療協議会の改組から
5. 室料・看護料の原価を補償し、差額徴収・付添看護の改善を

## 14. 四病院団体連絡協議会

4月16日(金) 第5回病院税制－医療法問題懇談会 10名

1. 医療法について(日精協案、医法協案の検討)
2. 相続税について(日精協案の検討)
3. 事業税について(医法協案の検討)
4. 昭和58年度税制改正要望事項について

5月7日(金) 第6回病院税制－医療法問題懇談会	9名
1. 医療法について	
2. 事業税要望の今後について	
3. 昭和58年度税制改正要望事項について	
4. その他	
5月24日(月) 第7回病院税制－医療法問題懇談会	9名
1. 大蔵大臣秘書官との懇談	
6月14日(月) 第8回病院税制－医療法問題懇談会	9名
1. 昭和58年度税制改正要望事項について	
2. 医療法改正問題について	
3. 厚生省と懇談	
7月9日(金) 第9回病院税制－医療法問題懇談会	12名
1. 日医会長と懇談	
2. 医療法改正問題について	
3. 厚生省と懇談	
8月23日(月) 第10回病院税制－医療法問題懇談会	10名
1. 昭和58年税制改正要望事項実現へ向けての今後の方針	
2. 社会党の医療法改正案の検討	
3. 厚生省と懇談	
9月27日(月) 第11回病院税制－医療法問題懇談会	10名
1. 社会党と医療法改正問題等について懇談	
10月25日(月) 第12回病院税制－医療法問題懇談会	14名
1. 医療金融公庫存続に関する要望書について	
2. 病院税制－医療法問題懇談会の今後のあり方について	
11月15日(月) 第13回四病院団体連絡協議会	12名
1. 役員の報酬限度額について	
2. 四病院団体連絡協議会の運営について	
3. 厚生省と懇談	
12月3日(金) 四病院団体連絡協議会緊急会議	7名
1. 特別法人である医療法人に係る軽減税率の廃止について	
2. 医療用機器特別償却率の引下げ、取得価額の限度額引上げについて	
3. 厚生省医療法関係検討項目について	
12月16日(木) 四病院団体連絡協議会全体会議	18名

1. 老人保健法について
  2. 医療費について
  3. 医療法（医療法人）について
  4. 医療法施行規則について
  5. 大都市圏における室料差額の問題について
- 12月24日(金) 四病院団体連絡協議会、税制、医療経済、医療法委員会 12名
1. 昭和58年度税制改正要望の結果について
  2. 医療法改正に関する意見書の作成
  3. 老人保健法に対する要望書の作成
- 1月10日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会、医療経済委員会 11名
1. 老人保健法に対する申入書の作成
- 1月18日(火) 四病院団体連絡協議会、総合部会、医療経済、税制、医療法委員会 13名
1. 老人保健法に対する申入書の作成
  2. 医療法人の相続税問題について
  3. 医療金融公庫廃止についての声明書
- 1月24日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会、医療経済、税制委員会 12名
1. 老人保健法に対する申入書の作成
  2. 出資持分のある医療法人社団の中小企業承継税制に関する要望書の作成
- 1月26日(水) 四病院団体連絡協議会、税制委員会 8名
1. 出資持分のある医療法人社団の中小企業承継税制に関する要望書の作成
- 2月7日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会、医療法委員会 13名
1. 医療法改正案骨子(案)について
- 2月21日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会、医療法委員会 15名
1. 医療法改正案骨子(案)について
- 3月7日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会 6名
1. 中小企業承継税制に関する今後の方針
  2. 医療法人の相続税についての要望書
- 3月15日(火) 四病院団体連絡協議会、総合部会 7名
1. 医療金融公庫廃止反対の要望書について
  2. 医療法改正試案について
  3. 政治献金について
- 3月28日(月) 四病院団体連絡協議会、総合部会 11名
1. 承継税制関係陳情報告
  2. 医療法改正案の国会提出について

## 15. 合同調査委員会

1. 開催回数 3回
2. 延出席者数 16名
3. 協議項目

- 1) 57年度病院運営実態分析調査の実施について
- 2) 病院部門別原価計算調査の集計結果について
- 3) 病院運営実態分析調査の項目整理等について
- 4) 「原価計算調査報告会」の開催について

### 4. 総 評

調査について、公私病連とは昨年協力調査に関する覚え書きを取りかわしたが、本年度からは合同調査に関する覚え書きを取りかわし、病院運営実態分析調査においては、電算処理等をも合同で行った。その結果として集計病院数も1,000病院を上回り調査結果もより正確な実態が把握出来るようになった。

## 第 5. 医療従事者無料職業紹介事業

(昭和57年 4月～昭和58年 3月)

項目 職業別	求職件数	求人件数	就職件数	繰越された有効	
				求職件数	求人件数
医 師	104	80	39	21	43
看護職員	3	5	2	0	3
医師看護職員を 除く医療従業者	9	12	7	2	2
合 計	116	97	48	23	48

※ 表中繰越された有効求職件数および求人件数は、求職および求人を取り消した件数を除いた。

(総 評)

本職業紹介事業が設置されて3年が経過し、年々躍進の一途をたどっている。昭和56年11月労働大臣より再認可を得、本年が監査年に当たっているが、11月に継続申請をし、58年度は、更に求職・求人双方の期待に添うよう業務の推進に努めたい。

## 第 6. 定例研究会

### 1. 定例病院診療研究会

1. 開催回数 8回

#### 2. 開催概要

- 4月20日(火) 国立病院医療センター 8施設 11名  
① 講演 「施設概要説明」 国立病院医療センター 名誉院長 松葉卓郎  
② 施設見学
- 5月18日(火) 東京都立八王子小児病院 13施設 25名  
① 講演 「顔貌と小児の心疾患」 東京都立八王子小児病院 院長 松尾準雄  
② 施設見学
- 7月20日(火) 東京通信病院 38施設 68名  
① 講演 「P P C方式看護体制の試み」 東京通信病院 院長 北原哲夫  
② 施設見学
- 8月17日(火) (社)日本病院会会議室 30施設 37名  
① 講演 「最近の病院経営の問題点」  
東京都済生会中央病院 事務長 黒田幸男  
講演 「病院完成への道をめざして」 国保旭中央病院 院長 諸橋芳夫  
(事務管理研究会と合同で開催)
- 9月21日(火) 武蔵野赤十字病院 35施設 75名  
① 講演 「病院の改築整備についての2、3の問題点」  
武蔵野赤十字病院 院長 丹羽直久  
講演 「基本設計より完成まで」 武蔵野赤十字病院 施設係長 小峰建二  
② 施設見学
- 11月16日(火) 信愛病院 15施設 29名  
① 講演 「高齢化社会における医療と病院の役割」  
信愛病院 院長 桑名忠夫  
② 施設見学
- 1月18日(火) 河北総合病院 19施設 43名  
① 講演 「訪問看護を用いた家庭療養の効果」  
河北総合病院 院長 小笠原道夫  
② 施設見学

2月15日(火) 三楽病院

34施設

51名

① 講演 「三楽病院短期人間ドックの現況(5,000人)と歴史について」

三楽病院 健康管理科部長 望月和子

② 施設見学

## 2. 定例事務管理研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

6月16日(水) (社)日本病院会会議室

38施設

47名

「低成長下における設備投資」 聖路加国際病院 事務長 上林三郎

「医療施設の採算」 自治医科大学附属病院 施設課長 倉持一雄

「医療機器の採算」 武蔵野赤十字病院 調度課長 緒方廣一

8月17日(火) (社)日本病院会会議室

30施設

37名

「最近の病院経営の問題点」

東京都済生会中央病院 事務長 黒田幸男

「病院完成への道をめざして」 国保旭中央病院 院長 諸橋芳夫

(病院診療研究会と合同で開催)

1月27日(木) (社)日本病院会会議室

30施設

35名

「医薬品の流通と最近の諸問題」

日本大学医学部附属板橋病院 薬剤部長 幸保文治

## 3. 定例医事研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

4月21日(水) 番町共済会館

83施設

182名

「看護と医事の協調上の諸問題」

1) 「看護部から医事課に望むもの」 聖路加国際病院 総婦長 内田卿子

2) 「看護部からみた医事業務への協調」 東京警察病院 総婦長 嶋崎佐智子

3) 「医事課の看護部に期待するもの」 三井記念病院 医事課顧問 三上晃

4) 「医事サイドからみた問題の提起とその解決策」

虎の門病院 医事課係長 黒田征典

東京衛生病院 医事課長補佐 佐藤金三郎

5) パネルディスカッション 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤秀雄

聖路加国際病院	総婦長	内田 卿子
東京警察病院	総婦長	嶋崎 佐智子
三井記念病院	医事課顧問	三上 晃
虎の門病院	病棟主任	田村 茂代
日赤短大	寮監	針生 昌子
河北総合病院	医事課長	小松 茂樹

9月22日(水) 食糧会館

85施設

153名

「医事業務とコンピュータ その7」

1) 「患者登録のとらえ方」

導入前の立場から 東京警察病院 医事第一課課長補佐 日輝 勝郎

導入後の立場から 本島病院 電算室室長 中野 隆男

2) 「チェックシステム」

導入当初とその後の改善点 佼成病院 医事係長 藤田 勝義

自動算定の範囲について 越谷市立病院 医事課第二係長 染谷 光一

3) 「院内の漢字レセプト発行システムについて」

杏林大学医学部付属病院 医事課長 徳永 貴士

4) 全体討議

12月15日(水) 牛込公会堂

65施設

114名

「消化器外科手術の解明、問題点をさぐる」

— 胃、十二指腸手術を中心に実医療行為から保険点数算定まで —

1) 「胃、十二指腸手術について」

— 手術の実際と治療材料の使われ方を中心に —

三井記念病院外科部長・筑波大学講師 大谷 五良

2) 「胃、十二指腸手術における術前、術後の看護」

— 注射、処置、検査並びに治療材料を中心に —

関東通信病院 一般外科病棟婦長 小林 美喜子

関東通信病院 消化器外科病棟婦長 松本 富江

3) 「胃、十二指腸手術の基本的保険点数算定について」

— 併施手術、麻酔、処置、検査並びに治療材料を中心に —

三井記念病院 医事課顧問 三上 晃

「治療、看護、医事から手術をとらえる」 — パネルディスカッションによる —

北品川総合病院 事務部顧問 加藤 雄二

三井記念病院外科部長・筑波大学講師	大谷五良
関東通信病院 一般外科病棟婦長	小林美喜子
関東通信病院 消化器外科病棟婦長	松本富江
東京都済生会中央病院 医事課長	松尾茂
三井記念病院 医事課顧問	三上晃

2月17日(木)～18日(金)

大東京火災海上保険株式会社 中央研修所 56施設 95名

1) 基礎医学講座(第22回)

「医事課員として医療へのアプローチの必要性と限界、その学び方」

東京病院院長・東京大学第一外科 平野勉

2) グループ討議

3) 事例解答例の説明

4) 全体討議

5) 「点数改正、老人保健法の実施上の留意点」

三井記念病院 医事課顧問 三上晃

4. 定例庶務人事研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

7月2日(金) 聖路加国際病院 第二記念館 16施設 19名

1) 「院内報にのぞむこと」 聖路加国際病院 事務長 上林三郎

2) ケーススタディ「読まれる院内報づくり」

— 企画・取材・編集・レイアウト等について —

日赤病院長連盟事務局 南雲忠臣

虎の門病院 調査役 稲垣泰彦

東京衛生病院 医事課長 小川大一郎

11月26日(金) 日本病院会会議室 20施設 21名

1) 「人事考課についての考え方と手法」

元日東倉庫建物㈱ 取締役総務部長 小川秀夫

2) 「アメリカにおける看護部門の人事考課の実際」

東京衛生病院 副総婦長 根本多喜子

3) 「事例発表」 石和温泉病院 事務長 斉藤正夫

- 3月4日(金) 日本病院会会議室 34施設 39名
- 1) 「人事採用時の面接技法について」 人事院任用局試験専門官 和田博子
- 2) 「内田クレペリン精神検査の利用について」  
株式会社日本・精神技術研究所取締役 山田耕嗣

## 5. 定例用度研究会

1. 開催回数 3回

### 2. 開催概要

- 6月15日(火) (社)日本病院会会議室 38施設 50名
- 1) 講演 「病院管理と用度業務」 関川総合病院 副院長 細田健二
- 2) 事例発表「日常業務における小さな工夫」
- 3) グループ討議
- 9月21日(火) (社)日本病院会会議室 42施設 51名
- 1) 講演 「薬価問題の総括」 薬事ニュース 記者 東 栄一
- 2) 全体討議
- 3月4日(金) 東京トラック事業健保会館 65施設 74名
- 1) 「昭和57年度全国用度研アンケート報告」
- 2) グループ討議

## 6. 定例施設研究会

1. 開催回数 4回

### 2. 開催概要

- 5月20日(木) 日本病院会会議室 30施設 34名
- 「施設管理の委託業務」 — 全面・一部の利点、欠点、問題点について —
- 9月9日(木) 東京通信病院事務棟会議室 20施設 32名
- 1) 「ガス漏れ感知器設置義務づけ」
- 2) 施設見学
- 12月17日(金) 武蔵野赤十字病院 23施設 35名
- 1) 「病院設計における問題点と運用について」  
武蔵野赤十字病院 施設課宮籍係長 小峰建二
- 2) 「院内案内表示の問題点」
- 2月22日(火) 日本病院会会議室 45施設 54名

「電気設備の保守管理の諸問題」

1) 医療機器と電気設備の問題点

東京都済生会中央病院 施設課電気係長 池上 茂

2) 病院における停電時の問題点とその対策

3) 電気の省エネ対策

7. 定例会計経理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

6月17日(木) 東京都立駒込病院 32施設 38名

1) 「今後の医療費の動向」 京浜総合病院 理事長 大野 松次

2) 「減価償却費とその基準比率について」 河北総合病院 事務長 酒 泉 春 雄

3) 施設見学

2月23日(水) 日本病院会会議室 19施設 23名

1) 「病院の融資の受け方について」 医療金融公庫融資相談室長 荒 井 宏 允

2) 「最近における税務会計上の諸問題」 森会計事務所所長 森 久 雄

8. 定例労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

9. 定例看護管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

10月7日(木) 東京トラック健保会館 69施設 176名

1) 講 演 「看護業務と診療報酬」 三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃

1月27日(木) 東京トラック健保会館 52施設 123名

1) 講 演 「最近の医療情勢と看護に望むもの」

サンケイ新聞家庭文化本部 婦人面・健康面担当次長 武 井 功

## 10. 定例看護研究会

1. 開催回数 1回

### 2. 開催概要

5月27日(木) 日本薬学会館 60施設 334名

1) 講演 「看護研究論文のまとめかた」

千葉大学看護学部 助教授 金井和子

## 11. 定例薬事管理研究会

1. 開催回数 4回

### 2. 開催概要

6月24日(木) 日赤中央女子短大講堂 62施設 81名

講演 「服薬指導と問題点」 北里大学病院 薬剤部 小林輝明

東邦大学医学部付属大森病院 副薬剤部長 近藤由利子

9月21日(火) 日本赤十字社医療センター講堂 45施設 53名

講演 「薬剤事故」 東京大学病院分院 薬剤部長 岩崎由雄

12月8日(水) 東京トラック事業健保会館 58施設 65名

講演 「麻薬に関する諸問題」 厚生省薬務局麻薬課 係長 古澤康秀

2月16日(水) 日本赤十字社医療センター講堂 41施設 65名

講演 「薬剤部と看護部の接点について」

聖路加国際病院 婦長 吉井よし子

## 12. 定例栄養管理研究会

1. 開催回数 4回

### 2. 開催概要

4月12日(月) 東京都養育院附属病院講堂 46施設 65名

1) 講演 「脳の老化と栄養」

(財)東京都老人総合研究所 臨床病理部長 朝長正徳

講演 「老人食のあり方」 東京都養育院附属病院 栄養科長 松本貢子

2) 施設見学

6月22日(火) 日本栄養会館 53施設 76名

講演 「栄養士のための臨床検査＝最近のトピックスから＝」

順天堂大学医学部臨床病理学教室 講師 猪狩淳

講演 「集団給食施設における脂質分析調査結果報告」

東京都衛生局公衆衛生部保健栄養課 主事 米川 郁 毅

10月5日(火) 日本栄養会館 36施設 51名

講演 「Obesity のメカニズムと治療」

国立栄養研究所 栄養病理室長 一之瀬 幸 男

講演 「食物の見方、考え方」

東京都立衛生研究所 栄養研究科長 道 口 正 雄

2月17日(木) 栄養・調理合同研究会 日本栄養会館 56施設 86名

1) 講演 「調理のコツをみなおす」

昭和女子大学生生活科学研究室 教授 杉 田 浩 一

2) 事例報告「科内勉強会について」 東京都立墨東病院栄養科 技能長 鈴 木 善 光

東邦大学医学部附属大森病院栄養部 主任栄養士 水 沼 修 司

### 13. 定例調理研究会

1. 開催回数 4回

2. 開催概要

5月12日(水) 東京都立広尾病院会議室 55施設 95名

1) 講演 「これからの病院給食のあり方」

東京都立広尾病院 栄養科長 染 谷 愛 子

2) 施設見学

7月7日(水) 雪印乳業株式会社講堂 43施設 69名

「冷凍食品の調理法について」 雪印乳業冷凍食品部門担当者

10月7日(木) 日本調理機株式会社会議室 25施設 35名

講演 「最新の調理機具について」

日本調理機株式会社 常務取締役 高 木 貞 安

講演 「食品衛生について」 大田区蒲田保健所 主事 皆 川 武 人

2月17日(木) (栄養管理研究会との合同開催)

### 14. 定例診療録管理研究会

1. 開催回数 4回

1. 開催概要

第60回 4月10日(土) 26施設 30名 都立駒込病院 病歴室見学

- 第61回 7月10日(土) 41施設 63名 北里大学病院 病歴室見学  
 第62回 10月9日(土) 33施設 42名 東京通信病院 病歴室見学  
 第63回 1月8日(土) 37施設 47名 日大板橋病院 病歴室見学

## 15. 定例病院管理総合研究会

1. 開催回数 3回

### 2. 開催概要

- 6月17日(木) 日本病院会会議室 18施設 28名  
 「最近の医療情勢と新聞報道」  
 サンケイ新聞家庭文化本部 婦人面・健康面担当次長 武井 功
- 9月16日(木) 日本病院会会議室 21施設 35名  
 1) 「病院(法人・個人)の運営についての法的重要な基礎知識」  
 弁護士 松永 渉  
 2) 「法的に扱う変死について」(突然死(腹上死)の追跡報告)  
 東京都監察医務院 副院長 上野 正彦
- 11月25日(木) セントラル病院 17施設 33名  
 1) 講演 「老人病院について」 セントラル病院院長 安藤 明子  
 2) 老人病院(セントラル病院分院)見学

## 16. 定例放射線研究会

1. 開催回数 4回

### 2. 開催概要

- 4月23日(金) 日本病院会会議室 22施設 29名  
 1) 「全体討議」(放射線技師の卒後教育)  
 2) 「フジ・インテリジェント・ダイアグノスティック・エックスレイ・システムについて」  
 富士写真フイルム㈱  
 宮台技術開発センターF・プロジェクトチーム・リーダー 高野 正雄
- 8月20日(金) 東京通信病院 15施設 18名  
 1) 「全体討議」(小規模病院における技師の問題)  
 2) 院内施設見学
- 12月10日(金) 日本病院会会議室 20施設 31名  
 1) 「プロトンNMR映像法の現状と将来」

国立放射線医学総合研究所 臨床研究部・第二研究室長 飯 沼 武

2) 「全体討議」(放射線業務における女性技師の立場)

2月25日(金) 日本病院会会議室 20施設 31名

1) 「全体討議」(放射線技師の生活設計)

2) 骨盤腔内におけるCT画像について

癌研究会附属病院 放射線科医長 杉 山 丈 夫

## 17. 定例臨床検査管理研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催概要

6月4日(金) 日本病院会会議室 31施設 41名

1) 「臨床検査部門の医療費改訂前、後の比較説明」

関東通信病院医用情報研究所 電子応用医学研究部 部長 三 宅 浩 之

2) 「シンポジウム」(①のテーマに対する当院の現状)

三井記念病院 臨床検査科技師長 水 野 映 二

杏林大学病院 臨床検査科技師長 古 谷 信 滋

板橋中央総合病院 検査科次長 成 田 周 市

9月3日(金) 順天堂医院・新館階段教室 39施設 51名

1) 作業分析と収益性分析 (株)医総研代表取締役 菅 沼 源 二

2) 生化学検査機器導入と保守管理 板橋中央総合病院 検査科次長 成 田 周 市

3) 血液検査機器導入と保守管理 佼成病院検査科副技師長 設 楽 正 登

## 18. 定例ハウスキーピング研究会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要

6月23日(水) (社)日本病院会会議室 32施設 53名

講 演 「看護部門がハウスキーピング部門にのぞむリネンの取り扱いについて」

東海大学医学部附属病院 総婦長 前 田 マスヨ

武蔵野赤十字病院 婦 長 中 原 久 江

9月2日(木) 武蔵野赤十字病院 29施設 49名

施設見学

11月26日(金) 東京トラック事業健保会館 19施設 20名

全体討議 「ハウスキーピング業務を全面外注委託する場合の問題点について」

## 第 7. 内科臨床協議会 (Joint Conference)

		参加人員	
5月14日(金)	都立府中病院	15名	(1) 黄疸と血小板減少を呈した不明熱の1例 64才 男性 (都立府中病院) (2) 高度の肥満発熱関節痛肝臓障害を伴った1例 55才 女性 (公立昭和病院)
6月24日(木)	関東通信病院	26名	(1) 精神症状を呈したクッシング症候群の1例 34才 女性 (関東通信病院) (2) 発熱、皮疹、肝機能障害、表在リンパ節腫脹をきたした1例 (厚生中央病院) (3) 高熱、呼吸困難を呈した78才男性の1例 (北品川総合病院)
7月9日(金)	校成病院	21名	(1) 心臓へ転移した腎癌の1例 (校成病院) (2) 原発性アルドステロン症の手術例 (日赤医療センター) (3) ニュモチスチス・カリニ肺炎を合併したSLEの1例 (国立病院医療センター)
9月28日(火)	虎の門病院	20名	(1) 咳痰を主訴とし、1ヶ月の経過で急性に発せようした肺ビマン性陰影例 (2) 歩行時に反復性、一過性下肢単麻痺を来した1例 ((1)(2)虎の門病院)
10月22日(金)	国立国府台病院	16名	(1) AngiographyでPN-結節性動脈周囲炎一と診断された1症例 (都立墨東病院) (2) 縦隔腫瘍と考えられた1症例 (国立国府台病院)
11月6日(土)	国公共済立川病院	14名	(1) 当院における心のう液貯溜症例の検討 (共済立川病院) (2) 原発性肺軟骨肉腫の1例 (国立立川病院) (3) SLEの関節炎について (国立療養所村山病院) (4) 原因不明の尿閉により腎不全を来した症例 (都国保福生病院)

- |           |          |     |   |
|-----------|----------|-----|---|
| 11月18日(木) | 関東中央病院   | 27名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 局所的なSOLを認め、急速に肝不全状態を示した1例 (国立大蔵病院)</li> <li>(2) 老婦人にみられた赤痢の1例 (自衛隊中央病院)</li> <li>(3) 失神発作と顔面浮腫を主訴とした1例 (関東中央病院)</li> <li>(4) 診断が困難であった消化管出血例 (中央鉄道病院)</li> </ul> |
| 2月7日(月)   | 国立がんセンター | 34名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 縦隔腫瘍症状の1例 (三楽病院)</li> <li>(2) 急激な経過の1例 (聖路加国際病院)</li> <li>(3) 好酸球増多症の1例 (国立がんセンター)</li> </ul>  |
| 3月15日(火)  | 東京通信病院   | 16名 | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 咳嗽を初発症状とし胸水貯溜と好酸球増多を示した症例 (東京通信病院)</li> </ul>  |

## 第8. 全国研究会

### 1. 全国病院診療研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年10月15日(金)～16日(土)
3. 開催地 静岡県 ① 聖隷三方原病院  
② 聖隷浜松病院
4. 参加者数 23施設 40名

#### 5. 演題

- ① 1. 講演 「末期患者の精神的ケアと看護」

聖隷三方原病院 ホスピス所長 原 義雄

#### 2. 施設見学

- ② 1. 講演 「未熟児医療、最近の進歩と看護及び看護体制」

聖隷浜松病院 未熟児センター所長 小川 次郎

#### 2. 施設見学

#### 6. 総評

本年度の全国研究会は従来の第一日目が各種講演、二日目が施設見学という方式を改め、新しい試みとして第一日目、二日目ともに講演並びに施設見学ということで実施した。特に、昨今、現代医療の課題として脚光をあびている、ホスピスと未熟児医療に対して精力的な活動を展開している聖隷三方原病院並びに聖隷浜松病院での開催は、これからの医療を考えなおす貴重な体験を参加者に与えたものと思われた。開催の成功は、両病院の関係者各位のご援助の賜物と深く感謝するしだいである。

### 2. 全国事務管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年10月28日(木)～29日(金)
3. 開催地 長崎県 長崎県医師会館
4. 参加者数 59施設 81名

#### 5. 演題

- 1) 特別講演 「医療の現状と日本病院会のはたらき」

北品川総合病院 院長 河野 稔

- 2) 「診療報酬と病院運営」 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤 秀雄

- 3) 「病院経営と原価管理」 東京都済生会中央病院 事務長 黒田 幸男

- 4) 「看護婦定員についての考え方」 横浜赤十字病院 事務部長 益田 啓 作
- 5) 「物品管理と病院運営」 日本大学松戸歯学部 事務局次長 平野 栄 次
- 6) 「設備投資と採算」 聖路加国際病院 事務長 上林 三 郎
- 7) 特別講演 「転換を迫られる病院経営と事務長の役割」  
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原 信 吾

## 6. 総 評

本年度の勉強会は日本病院会主催の研究会としては唯一の九州地区開催という事で大変好評裡に終了できた。特に病院経営にとっては、一大転換期を迎えているなかでの開催であり、参加者の病院運営に対する危機意識の高まりが強く感じられた研修会であった。今後も時宜を得たテーマを取り上げ、病院運営の改善に役立つ研究会としたい。なお今後の課題として、総論よりも、もっと深く掘り下げた方式を取り入れ、討論の時間も多く持つ形式を検討する必要があると思われる。

## 3. 全国医事研究会

1. 開催回数 2回

2. 開催期日

(第1回) 昭和57年6月24日(木)～25日(金)

(第2回) 昭和57年10月21日(木)～22日(金)

3. 開催地

(第1回) 神戸市 川崎重工業保健会館

(第2回) 仙台市 宮城県労働福祉会館

4. 参加者

(第1回) 148施設 250名

(第2回) 105施設 169名

5. 演 題

(第1回) 1) 特別講演「病院経営危機とその対策」

学校法人東京文化学園 常任理事 落合 勝一郎

2) 「請求もれ防止対策」

① 請求もれは何故起こるか、その要因と対策

聖路加国際病院 医事課長 渡辺 勲

② 誤り易い点数算定の事例を中心に

三井記念病院 医事課係長 井上 政美

- ③ O Aシステムを利用しない小病院の請求もれ防止の一方策
- |  |      |      |      |
|--|------|------|------|
|  | 吉田病院 | 事務局長 | 杉本良一 |
|  | 吉田病院 | 医事課長 | 道信裕  |
- ④ 請求もれの調査と具体的対策
- |  |        |      |      |
|--|--------|------|------|
|  | 河北総合病院 | 医事課長 | 小松茂樹 |
|--|--------|------|------|
- 3) 「ディスポーザブル医用材料」
- ① 形成外科に使用されるディスポ材料の実態
- |  |        |           |      |
|--|--------|-----------|------|
|  | 東京警察病院 | 医事第一課課長補佐 | 日輝勝郎 |
|--|--------|-----------|------|
- ② ディスポーザブル医用材料の保険請求とその留意点
- |  |        |       |     |
|--|--------|-------|-----|
|  | 三井記念病院 | 医事課顧問 | 三上晃 |
|--|--------|-------|-----|
- 4) グループ討議
- 5) 事例解答例の説明
- 6) 全体討議
- (第2回)
- 1) 特別講演「行政改革の重圧に医療経営はどうか」
- |  |            |      |       |
|--|------------|------|-------|
|  | 学校法人東京文化学園 | 常任理事 | 落合勝一郎 |
|--|------------|------|-------|
- 2) 基礎医学講座(第21回)
- 「末期腎不全患者の治療の最近の進歩(人工透析・腎移植を中心に)」
- |  |       |      |     |
|--|-------|------|-----|
|  | 宮城野病院 | 外科医長 | 石川誠 |
|--|-------|------|-----|
- 3) 「保険請求システム」
- ① 漢字オンラインシステムの実例
- |  |        |      |      |
|--|--------|------|------|
|  | 東北労災病院 | 医事課長 | 葛西順三 |
|--|--------|------|------|
- ② 基礎システムからE D P化への道
- |  |         |       |      |
|--|---------|-------|------|
|  | 北品川総合病院 | 事務部顧問 | 加藤雄二 |
|--|---------|-------|------|
- 4) グループ討議
- 5) 「請求もれの実態と対策」
- ① 請求もれの実例
- |  |      |      |      |
|--|------|------|------|
|  | 織本病院 | 医事課長 | 岩瀬英二 |
|--|------|------|------|
- ② 請求もれの分析と対策
- |  |        |      |      |
|--|--------|------|------|
|  | 河北総合病院 | 医事課長 | 小松茂樹 |
|--|--------|------|------|
- 6) 「査定減と対策」
- ① 査定とその現状
- |  |            |      |      |
|--|------------|------|------|
|  | 健康保険宮城第二病院 | 医事課長 | 高城光雄 |
|--|------------|------|------|
- ② 査定減の実態
- |  |        |      |      |
|--|--------|------|------|
|  | 永寿総合病院 | 医事課長 | 小田博夫 |
|--|--------|------|------|
- ③ 院内審査と再審査請求
- |  |       |      |     |
|--|-------|------|-----|
|  | 虎の門病院 | 医事課長 | 別府勇 |
|--|-------|------|-----|
- 7) 「事例算定の解明」

① 事例解答例の説明

② 全体討議

## 6. 総 評

医事課職員が日頃抱えている諸問題を、テーマとして掲げることに留意したことを反映し、延253施設、419名の参加者と呼んだ。参加者のなかには、常時出席される方もあり、なごやかさとともに、グループ討議・全体討議では一転して終始熱のこもった質疑が交わされた。

参加者からは、「討議時間をもっと増やしてほしい。」あるいは「テーマが時宜にならなかった。」等々の声が寄せられ、これらの声に応えられるよう、なお一層の改善に励みたいと思う。

## 4. 全国庶務人事研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和57年10月21日(木)～22日(金)

3. 開催地 富山市 富山県医師会館

4. 参加者 61施設 146名

5. 演 題 1) 「日本医療の進むべき道」 富山県立中央病院 院長 村 田 勇

2) 「OA機器と事務合理化」

① ワードプロセッサを使って

聖路加国際病院 総務課次長 石 山 稔

② オフコンを使って

石和温泉病院 事務長 齊 藤 正 夫

3) 「病院の労務管理について」 西能病院 院長 西 能 正一郎

4) パネルディスカッション

「4週5休制と外来の応援体制」

済生会向島病院 事務長 稲 垣 武

聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子

富山県立中央病院 外来婦長 栖 川 龍 子

富山市民病院 副総婦長 戸 田 悦 子

厚生連高岡病院 総婦長 栗 原 令 子

5) 「病院賃金体系」 — やる気をおこさせる賃金体系 —

石和温泉病院 事務長 齊 藤 正 夫

6) 「病院経営の動向とその対応策」 — 人事・労務を中心として —

厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石 原 信 吾

## 6. 総 評

「病院を取り巻く新しい時代への対策」を念頭において、OA機器使用の事例、あるいは、庶務人事・労務両研究会委員の研究成果「病院賃金体系」の発表、さらに地元(社)富山県看護協会の協力のもとに、東京での定例研究会で好評を博した「4週5体制と外来の応援体制」を企画した。

従来にない地元の協力を得て、予想以上の参加者を呼び、熱っぽい雰囲気の中で終始した。

全国研究会を開催する際、いかに地元の協力が必要かを改めて痛感した。

なお、終了後、参加者から「短時間に数多くのことを学べ有意義であった。」等の声が寄せられ、なお一層充実させたいと思う。

## 5. 全国用度研究会

### 1. 総 評

誠に遺憾ながら、本年度全国研究会は中止のやむなきに至った。北海道札幌市を開催地として、10月21日(木)～22日(金)の両日を予定し、準備を整えたが、申込締切時点で参加者数20名不足ということで、開催の意義なしと判断したものである。事の是非については、賛否両論あろうが、諸般の状況を考慮したとき、開催を強行することが妥当とは思えなかった。

開催地の選定が適当でなかったことが、今回このような結果に終わった第一の原因と思われる。

全国研究会のあり方については、経済環境、社会状況等の面からも再検討の時期にきている。今後、経費的にも無理のない、合理的な開催方法を考慮しながら、今回の教訓は教訓として、将来を展望していきたい。

## 6. 全国施設研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和57年11月18日(木)～19日(金)

3. 開催地 京都市 京都府医師会館

4. 参加者 62施設 88名

5. 演 題 1) 「省エネ対策の方法と事例について」

① 省エネ対策について 自治医科大学 施設課長 倉持 一雄

② ソーラーシステムについて

近畿大学管理局 施設課長 上田 喜久男

2) 「病院の情報処理について」 倉敷中央病院 電算課長 岡崎 喜蔵

3) 「院内空気環境について」 —理想的な空調設備の維持管理をどうしたらよいか—  
和歌山県衛生研究所 所長 神木 照雄

- 4) 「院内相互間通信設備の近代化とその管理」  
北品川総合病院 施設課長 中 島 昭二郎
- 5) 「施設外注管理の実例」 自治医科大学 施設課長 倉 持 一 雄
- 6) 「病院の増改築に伴う設備の問題点と実施例について」  
聖路加国際病院 事務長 上 林 三 郎
- 7) 「防災対策について」 癌研究会付属病院 施設管理課長 松 岡 文 男
- 8) 「配管類の腐食による漏れとその対策について」  
東京都済生会中央病院 施設課長 辺 見 九十九
- 9) グループ討議
- 10) グループ発表

## 6. 総 評

参加者が単に講演を聞くにとどまらず、地元関係者の希望テーマにそって、各病院が抱える諸問題解決への糸口が見つけられるようなプログラム編成に配慮した。

テーマに即した各講師からの具体的な発表に対し、「非常に参考になった。」との声が届いている一方、グループ討議・グループ発表では盛り上がりには欠け、今後の運営の仕方に再検討が必要であると思われる。

## 7. 全国会計経理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年10月7日(木)～8日(金)
3. 開催地 神戸市 神戸市勤労会館
4. 参加者 78施設 112名
5. 演 題
  - 1) 「最近の経済情勢と今後の展望」  
太陽神戸銀行神戸本部 調査部次長 中 川 徹 夫
  - 2) 「病院の経営危機とその対策」  
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石 原 信 吾
  - 3) 「病院経営における経済性についての体験的見解」— 重装備化とニュービジネスとへの言及 —  
兵庫医科大学 常勤理事 藺 部 雅 一
  - 4) 「最近の病院税制の動き」 有澤総合病院 院長 有 澤 源 蔵
  - 5) 「未収金処理」 虎の門病院 会計課長 橋 本 レツ子
  - 6) 「経営分析集計結果の発表」 河北総合病院 事務長 酒 泉 春 雄
  - 7) 病院見学・神戸市立中央市民病院

## 6. 総 評

例年実施している「経営分析集計結果の発表」を中心に、神戸市立中央市民病院施設見学をプログラムに加えたことと、地元の協力を得て予想以上の参加者を呼んだ。

単に講演を聞くにとどまらず、施設見学においても質疑応答が熱心に行われ、時間不足を痛感した。

「短時間に数多くのことを学べ有意義であった。」との声が届き、その成果が期待されるところである。

## 8. 全国労務研究会

(今年度は、全て庶務人事研究会との合同開催として実施した。)

## 9. 全国看護管理研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和57年6月24日(木)～25日(金)

3. 開催地 北海道 北海道看護研修会館

4. 参加者数 54施設 105名

### 5. 演 題

① 講演 「看護の質を考える」 聖路加国際病院 総婦長 内田 卿子

② シンポジウム「高令化社会と病院の役割」

・医師の立場から 札幌市慈啓会病院 院長 浦 沢 喜 一

・事務長の立場から 北海道立札幌北野病院 事務長 川 田 義 一

・ケースワーカーの立場から 新篠津福祉園 園長 高 橋 謙四郎

・看護婦の立場から 日本専売公社東京病院 看護部長 須 谷 照 子

③ 講演 「現在の青年像」 北海学園大学 教授 後 藤 啓 一

④ 看護業務と診療報酬 元東京都済生会中央病院 医事課長 加 藤 雄 二

## 6. 総 評

地元北海道はもとより秋田、福島、埼玉、東京、京都、大阪、兵庫と南は福岡県まで広範囲な地域から105名の参加者を集めて終始熱心に研究会が続けられ、特にシンポジウムでは活発な質問、意見等が出され盛会裡に終わったが、(社)日本看護協会、北海道支部の大変な力添えがあり、深謝している。

## 10. 全国看護研究会

1. 開催回数 1回

2. 開催期日 昭和57年11月11日(木)～12日(金)

3. 開催地 岡山県 岡山県総合福祉会館

4. 参加者数 77施設 142名
5. 演 題 ① 講 演 「看護過程」 聖路加国際病院 総婦長 内 田 卿 子
- ② 「看護業務と診療報酬」
- そのⅠ 社会保険蒲田総合病院 事務長 安 藤 秀 雄
- そのⅡ 三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃
- ③ 講 演 「交流分析」 岡山大学教育学部 助教授 水 野 正 憲
6. 総 評

後援団体の(社)岡山県病院協会、(社)岡山県看護協会の甚大なるご協力により142名という多数の参加者を集め盛会裡に終了した。

内田講師の看護過程、安藤講師、三上講師の看護業務と診療報酬はともに日常業務の中で大切なことからであり、水野講師の交流分析は最近盛んに取り上げられている問題で参加者の関心も深く、内容的にも非常に充実した研究会であった。後援の2団体には深く感謝し厚くお礼申したい。

## 11. 全国薬事管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年10月28日(木)～29日(金)
3. 開催地 福島県 東亜栄養化学工業株式会社
4. 参加者数 89施設 105名
5. 演 題 1) 講 演 「薬剤作用性能の改善 — 硝酸イソソルビド製剤を中心として—」
- 東亜栄養化学工業(株) 開発研究部次長 辻 和 之
- 2) 講 演 「皮膚科療法を中心として」
- 福島県立医科大学 助教授(皮膚科) 長 尾 貞 紀
- 3) シンポジウム「1回量調剤について」
- 座長 国立東京第二病院 薬剤科長 吉 本 与 一
- ① 外来調剤 東京警察病院 部長 古 川 正
- ② 入院調剤 同愛記念病院 薬局調剤主任 山 中 久美枝
- 山形県立河北病院 薬局長 矢 萩 信 夫
- ③ 看護の立場から 山形県立河北病院 看護婦 佐々木 幸 子
- 4) パネルディスカッション「服薬指導について」
- 座長 聖路加国際病院 薬局長 片 山 孝 一
- ① 薬剤師の立場から 福島赤十字病院 薬剤部長 蛭 田 大 八
- 東邦大学医学部附属大森病院 副薬剤部長 近 藤 由利子
- ② 医師の立場から 福島県立医科大学 講師(産婦人科) 加 藤 敬 三

## 6. 総 評

本年度定例研究会において実施したテーマを全国研究会に集約する形で開催した。

「1回量調剤」といい、「服薬指導」といい、これらは病院薬剤師の実務の上で常に問題とされる事柄であり、投薬を効果的ならしむるために極めて重要な意義を有するものである。実務上の手法として、具体的に論議が展開され、医師、看護の立場からも問題が浮彫りにされたことは、本研究会の大きな収穫の一つである。

病院薬剤師の日常的努力(サービス)は、いわゆるホスピタルフィーの一つとして、現行医療制度の下では正当な評価を受けえないが、今後この点についての議論も展開してゆかなければならない。

(社)福島県病院協会、福島県病院薬剤師会には多大のご協力をいただいた。

会場を提供された東亜栄養化学工業株式会社には社長はじめ関係の方々にご心よりお礼申し上げたい。これら関係各位のご協力により、内容的にも、また運営面においても、この全国研究会が成功したものとなった。重ねて謝意を表したい。

## 12. 全国調理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年11月19日(金)～11月20日(土)
3. 開催地 東京都 太陽神戸銀行麴町支店会議室
4. 参加者数 78施設 118名
5. 演 題
  - 1) 講 演 「これだけは知っておきたい糖尿病の病態(理)と治療」  
東京都立豊島病院 内科医長 相 磯 嘉 孝
  - 2) 講 演 「新しい病院給食と調理師のあり方」  
千葉大学医学部附属病院 栄養係長 鈴 木 啓 二
  - 3) 講 演 「糖尿病と食事療法」  
北里大学病院栄養科 係長 野 口 球 子
  - 4) 事例発表「治療食を調理するにあたって」  
東京都済生会中央病院食養科 栄養士 丸 井 英 彦  
越ヶ谷市立病院栄養科 調理師 増 山 克 巳  
東京都立広尾病院栄養科 調理師 清 水 肇  
東邦大学医学部付属大森病院栄養部 調理師 小 坂 忠 彦
  - 5) シンポジウム「これからの治療食の調理について考える(病院調理師の心構えを含めて)」  
座長 聖徳学園短期大学 講師 佐 伯 節 子  
医師の立場から 東京慈恵会医科大学付属病院 第三内科 大 野 誠

栄養士の立場から 順天堂医院栄養部 栄養士 小山 正 博  
調理師の立場から 東京都立駒込病院栄養科 調理師 平 塚 啓

## 6. 総 評

参加者数が百名を越え、盛会裡に開催された。開催の意図はほぼ達せられたといえる。

病院調理師を対象とする研究会は、テーマの設定にむずかしさがあり、全国研究会ともなると、参加者に効果的に訴える全体のプログラムの組み立てが特に困難である。今回、治療食（糖尿病食）に着目したが、これは、病院調理師にとって比較的専門性を要求される方面であり、病態栄養学と調理技術にまたがる、病院調理師としての問題意識を喚起させる上で、適当なテーマであると判断したためである。

医療に占める「食」の重要性はいうまでもないが、今後も相互の啓発と研鑽に積極的に取り組んでいきたい。

最後に、時節柄会場難のおり、当研究会の趣旨を諒とせられ、快く会議室を提供された太陽神戸銀行麴町支店の支店長はじめ関係の方々に、厚くお礼申し上げたい。

## 13. 全国病院管理総合研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年2月17日(木)～18日(金)
3. 開催地 東京都 食糧会館
4. 参加者数 71施設 130名
5. 演 題
  - 1) 病院経営と診療報酬 三井記念病院 医事課顧問 三 上 晃
  - 2) 講 演 「看護の諸問題」 厚生省医務局 看護課長 清 水 嘉与子
  - 3) シンポジウム「老人看護の現状と今後の課題」
    - ・老人病院、病棟婦長の立場から  
セントラル病院老人病棟 婦長 井 上 雅 子
    - ・訪問看護婦の立場から  
ライフ・ケアシステム 訪問看護婦 紅 林 みつ子
    - ・老人看護、今後の課題  
東京都老人総合研究所看護学研究室 研究員 鎌 田 ケイ子
  - 4) 講 演 「超高齢社会に向ってのこれからの医療」  
NHK放送総局 担当部長 浜 上 安 司
  - 5) 講 演 「老年病の予防と管理」(循環器疾患を中心として)  
東京都老人総合研究所、疫学部第一研究室長 松 崎 俊 久

## 6. 総 評

一昨年の医療費改正以来病院運営も一段と厳しくなり、また高令化社会を背景に2月1日より老人保健法の実施等で老人医療は急速に社会的問題となってきたなかで、今回はメインテーマを老人医療にしぼり、これをあらゆる角度から取りあげ著名な講師を招聘しての研究会となった。17都府県から150名の関係者が参加し、盛会裡に終了した。

## 14. 全国放射線研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年7月17日(土)～18日(日)
3. 開催地 東京都 全国町村議員会館
4. 参加者数 32施設 42名
5. 演 題 1) 講 演 「医療人としての心がまえ」  
日本病院会副会長 富山県立中央病院 院長 村 田 勇  
2) 講 演 「最近の消化器診断について」  
国立がんセンター 院長 市 川 平三郎  
3) 「全体討議」 (1) (装置管理のポイント)  
4) 「全体討議」 (2) (放射線業務の合理化と質的向上)

## 6. 総 評

第8回日本病院学会と同時開催し、学会参加者を当研究会にも参加させる目的もあったが、関東地方は全県、その他、長野、愛知、岐阜、大阪、兵庫、和歌山、富山県と各方面からの参加者もあり、それなりの目的は達せられたと考えている。研究会内容は村田先生、市川先生の特別講演の他に全体討議を2題入れ、終始熱心な質疑応答が交わされ有意義な研究会であった。

## 15. 全国臨床検査管理研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年11月5日(金)～6日(土)
3. 開催地 広島市 みゆき会館
4. 参加者数 43施設 53名
5. 演 題 1) 講 演 「医の倫理」  
日本病院会副会長 新千里病院 院長 吉 岡 観 八  
2) 「臨床検査のシステム化」  
広島大学附属病院検査部 助教授 神 部 真 之

### 3) シンポジウム (緊急検査運用の実態)

- ① 緊急検査体制の問題点 順天堂医院 検査科 技師長 藤 沢 武 吉
- ② 緊急検査の現状 三井記念病院 検査科 技師長 水 野 映 二
- ③ 広島県病院緊急検査の実態

広島県臨床衛生検査技師会 副会長 磯 貝 元 男  
東洋工業病院 臨床病理研究検査科技師長

### ④ 緊急検査の成績管理

杏林大学病院 臨床検査科技師長 古 谷 信 滋

### 4) 「臨床検査の未来」

広島県病院協会会長 愛人会河村病院 院長 河 村 虎太郎

### 5) グループ討議

(検査技師にまつわる問題について)

## 6. 総 評

日本病院会・副会長吉岡観八先生の特別講演にはじまり、神部先生の臨床検査のシステム化。シンポジウム。広島県病院協会会長・河村先生の臨床検査の未来、最後は検査技師にまつわる問題についてのグループ討議と終始熱心な質疑応答が続き参加者数は例年に比べて若干少なかったが広島県病院協会並に広島県臨床衛生検査技師会のご協力により盛会裡に終了した。

## 16. 全国ハウスキーピング研究会

- 1. 開催回数 1回
- 2. 開催期日 昭和 58 年 3 月 11 日 (金)
- 3. 開催地 東京都 日本病院会会議室
- 4. 参加者数 46 施設 72 名
- 5. 演 題 ハウスキーピング業務のマニュアル(作業の手引き)の作り方  
(社)日本人事管理協会 理事・専任講師 酒 井 暢

## 6. 総 評

当研究会の全国研究会としては過去最高の参加者数を見、盛会裡に開催された。この全国研究会を企画するにあたって、二、三、留意した点があるので以下に述べてみたい。

まず、開催に伴う経費の問題であるが、ハウスキーピング研究会としては、日本病院会の経費節減的な方針に、極力協力する方向で、開催地を東京都とし、会場も病院会会議室とした。また開催日も、従来の全国研究会の形式にとらわれず、1日間のみとした。このように開催形式を簡略化したことにより、相当の経費削減がはかられたはずである。

次にテーマであるが、マニュアルの作成を取り上げたのは、単に実務上の観点からのみでなく、実は病院業務の全面外注委託問題というより大きな問題意識から出発している。ここで詳述する余裕はないが、たとえばハウスキーピング業務に限っていえば、高度なノウハウを有する外資系外注委託企業に対抗するには、各病院でしっかりしたマニュアルを作っておくことが必須条件であると思われたのである。はたして開催の意図が達せられたかどうかは、今後の審判に待つほかはないが、この問題については注意深く動向を見つめていきたい。

ともあれ、日本病院会のハウスキーピング研究会として、これからも、着実に、研究活動を積み重ねていきたい。

## 17. 全国図書室研究会

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年8月27日(金)～28日(土)
3. 開催地 大阪府 日生病院
4. 参加者数 64施設 69名
5. 演 題
  - 1) 病院図書室の実務
    - ① 「単行書の整理と利用」 住友病院 図書室 松本純子
    - ② 「逐次刊行物の整理と利用」 京都南病院 図書室 山室真知子
    - ③ 「レファレンス・サービス」 大阪回生病院 図書室 加島民子
    - ④ 「相互貸借」 社会保険神戸中央病院 図書室 林伴子
  - 2) パネルディスカッション「卒後教育に果たす病院図書室の役割」

大阪大学 名誉教授	水川 考
京都第一赤十字病院 脳神経外科部長	福間 誠之
兵庫県立こども病院 幼児病棟婦長	江上 芳子
住友病院 アイソトープ検査室主任技師	金尾 啓右
星ヶ丘厚生年金病院 司書	林 伴子

## 6. 総 評

本年度の全国研究会は、病院における図書室の位置付けを明確にという事で、病院図書室の実務を中心に再点検し、さらに卒後教育に病院図書室がどのような役割をはたすかを検討した。特に、パネルディスカッションでは、各界の第一人者に登場いただき、参加者各位と共に豊富な資料をもとに討論をかさねた事は、日頃、他部門との密な接触を、と感じている図書室担当者にとっては大変有意義であったと思われる。今後も実践的な内容のテーマを取り上げ、病院図書室の理想像へ向け、一步づつ近づくよう努力したい。最後に、今回の全国研究会の開催にあたって、絶大なるご尽力を賜った近畿病院図書室協議会並びに日生病院の関係者の方々に深謝申し上げる。

## 第9. 第一線リーダー研修会

1. 開催回数 3回

2. 開催概要 第1回（5日間コース）

期日 6月14日（月）～18日（金）

開催地 湯河原町 ちとせ荘

参加者 17施設 25名（修了証交付）

演題 1) 監督者の職務  
2) 仕事の管理  
3) 仕事の改善  
4) 部下の育成  
5) リーダーシップ  
6) 事例研究

第2回（3日間コース）

期日 11月11日（木）～13日（土）

開催地 日本病院会会議室

参加者 16施設 25名

演題 1) 職場リーダーのポジションと役割  
2) 職務管理のポイント  
3) 要求される創意工夫  
4) 職場研修のねらい  
5) リーダーシップと相互理解  
6) ケーススタディ

第3回（3日間コース）

期日 2月17日（木）～19日（土）

開催地 京都市 京都社会福祉会館

参加者 18施設 27名

演題 1) 職場リーダーのポジションと役割  
2) 職場運営のポイント  
3) 要求される創意工夫  
4) 職場研修のねらい  
5) リーダーシップと相互理解  
6) ケーススタディ

### 3. 総 評

従来の6日間コースを、JSTの内容改訂に伴い、今年度、5日間コースに変更した。

しかし、終了後、「非常に参考になった。受講してみて忘れていたことを再認識した。」との声が寄せられている。

また、昨年度6日間コースに参加した有志が、「研修成果をいかに職場に反映させることが出来たか話しあってみたい。」との趣旨で、東京に集まり、なごやかに懇談した。

このような出会いが、今後も数多くあることを期待するとともに、研修の実をあげるような一層充実させたいと思う。

## 第10. 第22回病院視察研究会

1. 開催地 広島県・山口県
2. 開催期日 昭和 57 年 11 月 17 日(水)～ 20 日(土) 3 泊 4 日
3. 視察病院 ① 広島県・広島市(市町村) 社会保険広島市民病院 (18 日)  
② 広島県・安芸郡府中町(会社) 東洋工業(株)東洋病院 (18 日)  
③ 山口県・下関市(全社連) 社会保険下関厚生病院 (19 日)  
④ 山口県・山口市(日赤) 総合病院山口赤十字病院 (20 日)
4. 宿泊所 ① 17日(水)広島リバーサイドホテル(兼集合場所)  
② 18日(木)宮島グランドホテル  
③ 19日(金)ホテル常盤
5. 参加者名 18名
6. 総 評

日本病院会の年間行事であるスタディ・ツアーも今年で22年目となり、広島・山口両県の4病院の見学会が行われた。

今回は広島県、山口県の病院協会の協賛をいただき、両県下でそれぞれ経営主体が異なる特色ある病院が選ばれた。

4病院とも運営方針において、院長の個性が随所にかかわれるものがあり、視察後の院内会議室での質疑応答は熱のこもったものになった。またバス移動の車中研究会でも、研究員から問題の提起などが行われ、熱心な討議が交わされた。

## 第11. 診療録管理通信教育

### 1. 入学状況

#### ○第21期生入学

- 1) 開講月日 昭和57年7月1日
- 2) 入学者数 112名(但し2名2年次編入含)
- 3) 受講料 54,000円

#### ○第22期生入学

- 1) 開講月日 昭和58年1月1日
- 2) 入学者数 142名(但し34名2年次編入含)
- 3) 受講料 54,000円

### 2. 卒業状況

#### ○第17期生卒業

- 1) 卒業者数 48名(男9名、女39名)
- 2) 卒業式典 昭和57年10月9日(土)
- 3) 同会場 ふくおか会館(東京千代田区)

#### ○第18期生卒業

- 1) 卒業者数 51名(男14名、女37名)
- 2) 卒業式典 昭和58年3月26日(土)
- 3) 同会場 ふくおか会館(東京千代田区)

### 3. 受講生員数状況

○入学者総数 1,902名(1～22期)

○卒業者総数 720名(1～18期)

○受講者総数 478名(58.3.26現在)

内 訳	19期生	100名	第一年次生	272名
	20期生	72名	第二年次生	206名
	21期生	166名		
	22期生	140名		

#### 4. 集中スクーリング実施状況

○昭和57年8月

基礎科目スクーリング			試 験	専門科目スクーリング		
第20・21期生			第17期生 第19期生	第18・19期生 第20・21期生の内 2年次編入者		
19日 (木)	20日 (金)	21日 (土)	22日 (日)	23日 (月)	24日 (火)	25日 (水)

東京地区 早稲田速記学校 567名

大阪地区 大阪府中小企業文化会館 280名

福岡地区 福岡大学医学部 112名

○昭和58年2月

基礎科目スクーリング			試 験	専門関連科目スクーリング		
第21・22期生			第18期生 第20期生	第19・20期生 第21・22期生の内 2年次編入者		
17日 (木)	18日 (金)	19日 (土)	20日 (日)	21日 (月)	22日 (火)	23日 (水)

東京地区 早稲田速記学校 639名

大阪地区 大阪府中小企業文化会館 332名

福岡地区 福岡大学医学部 141名

## 5. 医学セミナー実施状況

①	4月17日	統計学Ⅰ	日病会々議室	9名
②	4月24日	生理学Ⅰ	早稲田速記学校	13名
③	5月15日	統計学Ⅱ	日病会々議室	10名
④	5月29日	生理学Ⅱ	〃	11名
⑤	6月5日	統計学Ⅲ	〃	9名
⑥	6月19日	産科学Ⅰ	〃	11名
⑦	7月3日	産科学Ⅱ	〃	4名
⑧	7月24日	品質管理	早稲田速記学校	11名
⑨	9月18日	小児科学Ⅰ	日病会々議室	19名
⑩	9月25日	医学用語学Ⅰ	早稲田速記学校	21名
⑪	10月16日	医学用語学Ⅱ	日病会々議室	13名
⑫	10月23日	小児科学Ⅱ	早稲田速記学校	23名
⑬	11月20日	内科学Ⅰ	日病会々議室	22名
⑭	11月27日	医学用語学Ⅲ	番町共済会館	16名
⑮	12月4日	分類法Ⅰ	日病会々議室	7名
⑯	12月18日	内科学Ⅱ	〃	19名
⑰	1月22日	内科学Ⅲ	早稲田速記学校	16名
⑱	1月29日	分類法Ⅱ	〃	8名
⑲	3月19日	内科学Ⅳ	日病会々議室	16名

## 第12. メディカルクラーク通信教育部

<認定式・試験・スクーリング>

### 1. 第6回認定証授与式

昭和57年10月16日(土) 午後5時～8時

会 場 : 東京半蔵門・ふくおか会館

認 定 者 : 32名

追加認定者 : 9名 (58.3.15付)

### 2. 試 験

○第6期生後期試験 (57.8.22)

東京会場 : 24名

京都会場 : 12名

合格者 32名、 不合格者 4名

○第7期生前期及び延長生追再試験 (58.2.13)

東京会場 : 前期 32名、 後期 4名

京都会場 : 前期 13名、 後期 6名

合格者 (前期) 44名、 (後期) 9名

不合格者 (前期) 1名、 (後期) 1名

### 3. スクーリング (第7期生)

前期 (57.8.19～25)

8/19	20	21	23	24	25
(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)
東京会場 早稲田速記学校			京都会場 ビル葆光		
延受講者 118名			延受講者 78名		

後期 (58.2.10～16)

2/10	11	12	14	15	16
(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)
京都会場 ビル葆光			東京会場 早稲田速記学校		
延受講者 54名			延受講者 109名		

#### 4. 医学セミナー

57. 4. 3	医療事務Ⅰ	2名
5. 8	医療事務Ⅱ	1名
6. 12	医療事務Ⅲ	11名
7. 17	医療事務Ⅳ	8名
9. 25	医学用語学Ⅰ	34名
10. 16	医学用語学Ⅱ	23名
11. 20	内科学Ⅰ	27名
12. 18	内科学Ⅱ	26名
1. 22	内科学Ⅲ	20名
3. 19	内科学Ⅳ	16名

## 第13. 事務長養成課程通信教育部

<認定式・試験及びスクーリング>

### 1. 第3回認定証授与式

昭和57年7月17日(土)午後5時～8時

会 場：東京麹町 半蔵門会館

認定者：10名

### 2. 試 験

○第3回生第1年次追試験(5月22日)

於 日本病院会会議室

受験者 2名 ・ 合格者 2名

○第3回生第2年次再追試験(6月18日)

於 京都堀川会館

受験者 2名 ・ 合格者 2名

○第3回生最終試験(6月19日)

於 京都堀川会館

受験者 11名 ・ 合格者 11名

○第4回生第1年次後期試験(7月8日)

於 聖路加国際病院第2記念館

受験者 12名 ・ 合格者 12名

○第4回生第1年次前期再試験(7月9日)

於 聖路加国際病院第2記念館

受験者 1名 ・ 合格者 1名

○第4回生第2年次後期試験(1月9日)

於 聖路加国際病院第2記念館

受験者 12名 ・ 合格者 12名

○第5回生第1年次後期試験(1月16日)

受験者 6名 ・ 合格者 6名

### 3. スクリーニング

会 場： 聖路加国際病院第2記念館

#### 1) 前期 (57. 7. 9～24)

7/9	10	11	12	13	14	19	20	21	22	23	24
(金)	(土)	(日)	(月)	(火)	(水)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
第4回生第2年次前期 出席延人員 72名						第5回生第1年次前期 出席延人員 54名					

#### 2) 後期 (58. 1. 10～22)

1/10	11	12	13	14	15	17	18	19	20	21	22
(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)	(月)	(火)	(水)	(木)	(金)	(土)
第4回生第2年次後期 出席延人員 72名						第5回生第1年次後期 出席延人員 36名					

## 第14. セミナー

### 1. 病院管理者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年11月6日(土)
3. 開催地 徳島県 大塚製薬㈱ 徳島工場昆虫研ホール、大塚潮騒荘講堂
4. 参加者数 39施設 79名
5. 演題
  - 1)「激動下における病院経営」 ㈱川原経営総合センター社長 川原邦彦
  - 2)「死の社会学」 奈良女子大学教授 森幹郎
  - 3)「世界の医療制度からみた日本の医療」  
NHK家庭部チーフ・ディレクター 行天良雄

### 6. 総評

本年度は、従来の病院長セミナーを角度を変えて実施することで検討した結果、事務長、総婦長など管理者層にも広く呼びかけることにし、名称も「病院管理者セミナー」として、時宜に適した演題と演者を選定することに努めた。開催地も大塚製薬㈱の好意で、今回はじめて東京を離れ徳島県下に会場を設営した。

川原講師は、病院経営の管理と財務管理について、経営管理を行う専門職を置いて破綻のない経営を目指すこと、また銀行からの資金借入れはできる限り長期間の契約として、無理のない返済をすること、など財務管理のノウハウをまじえて啓発された。

森講師は、豊富な資料を示しながら、特に終末期医療について、臨終においても、家族のみとりに職業人のみとりに、という傾向が高まっており、病院の比重が大きくなっている現状を指摘、病院の対応について問題を提起された。

行天講師は、医療動向の底流として、医療財源の収支の失調現象による福祉財源の見直しが行われている。一方で医師の供給安定が見込まれており、このような状況下では患者側が医療機関を選定してくることも考えられる。現在主治医制度というライフケア・システムといったものも試験的に発足していると新しい動きが出ていることを紹介、今後の医療動向に言及して注目を集めた。

2日目の7日(日)は観光にあて、工場見学のあと、名にしおう瀬戸の渦潮を船上から眺めて、気分も新たに散会した。

今回の試みは、病院管理を時代の流れの中で適確にとらえ、その方向を見出そうとの意図からテーマの選定を行い、参加者から多大の好評を得たが、一面参加者の勧誘について企画担当者が苦勞した背景もあり、今後の本セミナーのもち方について、広く会員の理解と協力を得たい。

## 2. 総婦長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年8月19日(木)～20日(金)
3. 開催地 東京都 番町共済会館
4. 参加者数 82施設 130名
5. 演題
  - 1) 「看護過誤と法律問題」  
日本看護協会顧問弁護士・東京都医師会顧問弁護士 高田利広
  - 2) 「世界の看護」 NHK解説委員 東浦メイ
  - 3) 「平安時代の父親像」(栄花物語を資料として)  
独協大学教授 河北騰
  - 4) 看護業務と診療報酬
    - そのⅠ 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤秀雄
    - そのⅡ 三井記念病院 医事課顧問 三上晃
  - 5) 「看護の展望」 聖路加国際病院 総婦長 内田椰子
6. 総評

例年200名以上の参加者をみるこのセミナーも本年度は130名と大変少なく案内発送法にも考慮を要する点があることを痛感した。しかし北は北海道から南は鹿児島まで24都道府県からの参加者で内容的には申し分なく毎年このセミナーを心待ちしている人達も年々多くなり、このセミナーの今後の展望は大変大きなものがあると思う。

## 3. 事務長セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年2月18日(金)～19日(土)
3. 開催地 東京都 都道府県会館
4. 参加者数 76施設 86名
5. 演題
  - 1) 「病院経営破綻の類型とその実態」  
榊川原経営総合センター 社長 川原邦彦
  - 2) 「最近の賃金問題と今後の展望」  
日本賃金研究センター 代表幹事 孫田良平
  - 3) 「私の病院経営」 倉敷中央病院 常務理事 鷹取保三郎
  - 4) 「経営危機下における看護勤務体系の工夫」  
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石原信吾

5) 「診療報酬と病院経営」 社会保険蒲田総合病院 事務長 安藤 秀雄

#### 6. 総 評

本年度（通算13回目）のセミナーは「経営危機下の病院運営」を主題として各界の第一人者をお招きし、それぞれの立場より講演を願った。特に病院運営に対する危機意識が高まっている中での開催であり、病院運営に直接たずさわる事務長としての心がまえができた等の成果が強く感じられた研修会であった。今後の課題として、参加者間での意見交換の場を設定する必要性を強く感じた。

#### 4. 放射線技師監督者セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和57年9月30日(木)～10月2日(土)
3. 開催地 静岡県 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 23施設 27名
5. 演 題 1) 「医療人のありかた」

日本病院会常任理事 静岡厚生病院 院長 榎本 敏雄

- 2) 「3分間スピーチ」
- 3) 「フジ・インテリジェント・ダイアグノスティック・エックスレイ・システムについて」

商品開発センター 主任部員 村田 信吾

- 4) 全体討議(1)  
「人事管理」
- 5) 「画像診断技術の最近の進歩」  
国立放射線医学総合研究所 第三研究室長 館野 之男

- 6) 「病院の原価計算の仕方」（放射線科を中心にして）  
信愛病院 事務長 長沢 一男

- 7) 全体討議(2)  
「放射線部門の原価計算」
- 8) 「事例研究」
- 9) 「5分間感想」

#### 6. 総 評

- 12都府県から27名の参加者があり、2泊3日のこのセミナーも12回目を迎え内容も年々充実したものとなり、特別講演はもとより事例研究はグループ毎に深夜遅くまで研究が続けられ翌日の

発表に備えるというように最後まで熱心な討論、討議が重ねられ盛会裡に終了した。

## 5. 臨床検査管理セミナー

1. 開催回数 1回
2. 開催期日 昭和58年2月4日(金)～5日(土)
3. 開催地 静岡県 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 25施設 28名
5. 演 題
  - 1) 「業務の効率化」 (株)医総研代表取締役 菅 沼 源 二
  - 2) 「病院経済の動向(臨床検査を中心に)」  
厚生省病院管理研究所 経営管理部長 石 原 信 吾
  - 3) グループ討議(業務の効率化)
  - 4) グループ発表
  - 5) 特別講演 「遺伝子組換え技術の医学への応用」  
理化学研究所分子腫瘍学研究室 主任研究員 医学博士 井 川 洋 二

## 6. 総 評

関係者を含め約40名と参加者数は例年に比べて少なかったが、参加者は大変熱心に、特にグループ討議では深夜まで検討会が続き翌日の発表に備え、また業務の効率化、病院経済の動向、遺伝子組換え技術の医学への応用等については質問も多くこのセミナーに取り組む熱気が感じられ盛会裡に終了した。

## 第15. 病院幹部医会

### 総 会

(第4回総会)

11月28日(日) 日本病院会第一会議室

1. 昭和56年度収支決算(案)に関する件
2. 人事その他に関する件

### 常任幹事会

7月7日(水) 日本病院会第一会議室

1. 病院幹部医セミナー開催テーマ、講師等の選定について検討
2. その他

### 研 究 会

5月13日(木) 聖路加国際病院第二記念館

1. 聖路加国際病院見学
2. 晴海モダン・ホスピタルショー見学
3. 病院幹部医セミナー今後の進め方
4. 将来の医師過剰時代の進み方
5. 医療訴訟の問題

### 病院幹部医セミナー

1. 開催回数 2回
2. 開催期日 1) 昭和57年11月27日(土)・28日(日)  
2) 昭和58年3月12日(土)・13日(日)
3. 開催地 1) 東京都 日本病院会会議室  
2) 静岡県 湯河原厚生年金会館
4. 参加者数 1) 22病院 23名  
2) 18病院 23名
5. 演 題 1)
  - ① 見学・朝日新聞東京本社
  - ② 「ジャーナリストからみた医療事情」

朝日新聞東京本社 科学部医療担当記者 田 辺 功

- ③ 「医師過剰時代に向っての勤務医の対応」  
富山県立中央病院 院長 村 田 勇
- ④ 「開業医と病院との連けい」  
日本医師会 常任理事 神 津 康 雄
- ⑤ 「医事紛争と医師、病院」 弁 護 士 能 本 典 道
- ⑥ 「福利と年金制度」  
三井生命保険相互会社 法人業務部長 国 領 守

2)

- ① 「病院幹部医の今後の望まれる姿勢」  
北品川総合病院 院長 河 野 稔
- ② 「医療行政と病院」 厚生省 医務局長 大 谷 藤 郎
- ③ 「地域医療と病院との係わりあい」  
佐久総合病院 院長 若 月 俊 一

## 第16. 海外視察研究会

### 1. ソ連病院視察

6月10日(木)～6月24日(木) 15日間

シルクロード、モスクワ、レニングラード

		参加者	16名
コーディネータ	河野	稔	

### 2. アメリカ医療事情視察

6月27日(日)～7月8日(木) 12日間

アメリカ一周

		参加者	10名
コーディネータ	高杉	成一	

### 3. 中国病院視察

10月10日(日)～10月22日(金) 13日間

中国揚子江三峡下り

		参加者	21名
コーディネータ	高橋	勝三	

## 第17. 調 査 室

本年度は、56年度における公私病連との協力調査を一步進め「病院運営実態分析調査」を合同調査として実施、集計結果は本年度より項目等結果表を大きく改め「昭和57年病院概況調査報告書」として発刊。

また、56年度に協力調査として実施した「病院部門別原価計算調査」がまとまり公私病連より「病院部門別原価計算調査報告」として発刊、一方、ホスピタルショー開催時と「病院部門別原価計算調査報告」発刊時の2回、公私病連と共催で「病院原価計算講習会」を実施。

### 病院部門別原価計算講習会

1. 開催期日 昭和57年5月14日(金) 9:30～16:00
2. 会 場 東京ホテル浦島・菊の間(晴海)
3. 参加者 200名
4. テーマ講師  
原価計算のあらましとその活用 尾口平吉  
部門別・要素別の組み立て方と費用の計算方法 長沢一男  
収益および業務量の計算方法 西中正久  
院内における実施上の留意点 桜井健二郎

### 病院部門別原価計算講習会

1. 開催期日 昭和57年11月11日(木) 9:30～17:00
2. 会 場 池之端文化センター(上野)
3. 参加者 219名
4. テーマ講師  
病院原価計算の意義の効用 一条勝夫  
昭和56年10月病院部門別原価計算調査の結果について 吉崎芳雄  
原価計算と診療報酬体系 長沢一男  
原価計算の病院管理における活用 桜井健二郎

### 総 評

2回の講習会とも参加者の大半が原価計算を実施していない病院でテーマ等が十分に理解されたとはいえない。今後は原価計算の理解度によってグループ分け等の必要性があるように思われる。

## 第18. 病院大会

1. 名 称 病院医療費原価割れ是正全国大会
2. 開催日時 昭和57年11月16日(火) 13:30～16:00
3. 開催場所 第一生命ホール・東京都千代田区有楽町1-13-1
4. 主 催 病院診療報酬適正化推進会議
5. 呼びかけ  
団 体 社団法人日本病院会  
全国公私病院連盟(全国自治体病院協議会・全国公立病院連盟・全国厚生農業協同組合連合会・日本赤十字社病院長連盟・日本私立病院協会・岡山県病院協会・東京病院協会)
6. 来 賓 日本病院薬剤師会・日本栄養士会・国会議員 16名
7. 参加人員 637名
8. 次 第
  - 1) 開 会
  - 2) 議長団紹介
  - 3) 代表委員あいさつ
  - 4) 協賛団体紹介
  - 5) 来賓祝辞
  - 6) 推進会議経過報告
  - 7) 是正要請書趣旨説明
  - 8) 地方団体意見表明
  - 9) 大会決議
  - 10) 陳情団紹介
  - 11) 陳情団代表あいさつ
  - 12) 陳情団出発
  - 13) 閉 会

9. 陳情先 厚生省・日本医師会・中央社会保険医療協議会

〔総 評〕 昭和56年6月の医療費改正は実質的な医療費の引き下げとなっており、そのため各病院では、原価割れとなっている。そのような状況の中で、本会と全国公私病院連盟が呼びかけ、病院診療報酬適正化推進会議を結成し、原価割れ是正のための全国大会を開催したが、全国より637名の参加者があり、診療報酬の適正化を強く関係各方面に訴えた。

## 第19. 第8回日本病院学会

1. 学 会 長 丸毛 英二（東京慈恵会医科大学附属病院院長）
2. テ ー マ すすむ医学と医療の倫理
3. 開催期日 昭和57年7月15日(木)～17日(土)
4. 開催地 東京都千代田区
5. 会 場 日本都市センター
6. 演 題
  - 1) 学会長講演 1題 「外表奇形のみかた」  
東京慈恵会医科大学附属病院 院長 丸毛 英二
  - 2) 招請講演 1題 「高令化社会へ向っての健康」  
東京慈恵会医科大学 学長 名取 禮二
  - 3) 特別講演 1題 「今、求められている病院像」 作家 曾野 綾子
  - 4) シンポジウム 3題 （マラソン・シンポジウムとして）  
「日本の医療をとりまく倫理」  
（その1）「制度と医療 — 現行健保の功罪から」  
司会 河井病院 院長 河井 博  
演者 静岡厚生病院 院長 榎本 敏雄  
参議院 議員 大石 武一  
厚生省保険局 審議官 下村 健  
福岡県田川市 市長 滝井 義高  
衆議院 議員 橋本 龍太郎  
医事評論家 水野 肇  
（その2）「物と医療 — 業界とのかかわりから」  
司会 大森赤十字病院 院長 高橋 政夫  
演者 日本ME学会 理事 岩井 喜典  
京都私立病院協会 理事 岡本 隆一  
日経メディカル 編集長 高津 和子

東邦薬品株式会社 代表取締役社長 松谷 義範  
日本衛生検査所協会 会長 山本 義教

(その3) 「人と医療」

司会 富山県立中央病院 院長 村田 勇  
演者 共同通信社 編集委員 伊藤 正治  
龍沢寺 師家 鈴木 宗忠  
東京慈恵会医科大学 理事 田中 直樹  
済生会福岡総合病院 院長 土屋 呂武  
中村整形外科病院 院長 中村 了生

4) パネルディスカッション 1題

「これからどうなる日本の病院」

司会 高山整形外科病院 院長 高山 瑩  
演者 岩井総合病院 院長 岩井 宏方  
国立横須賀病院 院長 岩淵 勉  
織本病院 院長 織本 正慶  
筑波大学 社会医学系教授 紀伊国 献三  
保健同人社 取締役編集部長 小山 寿  
ベルランド病院 副総婦長 津山 寿子  
水原郷病院 院長 寺田 一郎  
長吉総合病院 院長 平山 正樹  
平塚市民病院 総看護婦長 松沢 孝子  
神奈川県医師会 理事 吉田 清彦

5) 教育講演 1題

「医療人の生涯教育」

東京慈恵会医科大学 教授 阿部 正和

6) 一般演題 160題

7. 参加者 延べ4,000名

8. プログラム (別揚)

## 第8回 日本病院学会 プログラム

第1会場 ー 都市センターホール

第2会場 ー 別館講堂

第3会場 ー 本館講堂

期日	会場	時間																		
		8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20						
第一日 (七月十五日(木))	第1会場		受付	開会式	一般演題 (看護Ⅰ)				休 休 休 み	学会長講演	招 請 演 講	休 憩	マラソン・シンポジウム その1							
	第2会場				一般演題 (放射線・RI 救急医療)															
	第3会場				一般演題 (地域医療 その他)															
	展示会場				モダンホスピタルショー (日本都市センター別館会議室、全共連ビル)															
第二日 (七月十六日(金))	第1会場		受 付	一般演題 (臨床・基礎的研究 事務管理)			特別講演	休 休 休 み	総 会	マラソン・シンポジウム その2			休 憩	パネルディスカッション		医療人の集い				
	第2会場	一般演題 (教育・研修)																		
	第3会場	一般演題 (給食・栄養)																		
	展示会場				モダンホスピタルショー (日本都市センター別館会議室、全共連ビル)															
第三日 (七月十七日(土))	第1会場		受 付	一般演題 (看護Ⅱ)			教育講演	休 休 休 み	一般演題 (病歴管理 情報管理)		休 憩	マラソン・シンポジウム その3			開 会 式					
	第2会場	一般演題 (病歴管理 病歴経営 防災管理 環境管理 病歴建築)			一般演題 (薬 劑)															
	第3会場	一般演題 (検査・診断)			一般演題 (老人医療)															
	展示会場				モダンホスピタルショー (日本都市センター別館会議室、全共連ビル)															

## 第20. 第23回人間ドック学会

1. 学 会 長 大内 清太 (青森県立中央病院長)

2. 期 日 9月9日(木)・10日(金)

3. 開 催 地 青森市 青森市民文化ホール

4. 参加者数 230名

5. 演 題 特 別 講 演

「人間ドックと糖尿病」 東北大第3内科教授 後藤 由夫  
シンポジウム(1)

「高血圧の疫学をめぐる問題」

司会 弘前大学医学部衛生学教授 佐々木 直 亮

1) 血圧情報の客観化

弘前大学医学部衛生 三 上 聖 治 竹 森 幸 一  
仁 平 将 佐々木 直 亮

2) 北海道の寒冷地と温暖地における高血圧発症、進展に関する疫学的研究

札幌医大第2内科 菊池健次郎 木島 敏明 飯村 攻

3) 高血圧の進展に及ぼす脂質、肥満度の影響について

— 生活環境の異なる都市、農村の比較 —

筑波大学社会医学系 嶋 本 喬 小 町 喜 男  
大阪府立成人病センター 飯 田 稔 小 西 正 光  
秋田県衛生科学研究所 児 島 三 郎

4) 食塩と高血圧

東北大学第二内科 阿部 圭志 樋渡 正夫 丹野 雅哉

5) 高血圧管理の問題点

独協医科大公衆衛生 森 沢 康 宇佐見 隆 廣  
小林 欣 也 山 川 和 樹

シンポジウム(2)

「一次健診(人間ドック)と二次検診の関連」

司会 牧田総合病院 笹 森 典 雄

青森県立中央病院 金 澤 鉄 男

1) 自動化総合健診における心電図の自動解析と二次検診の現況

東実総合健診センター 野 呂 光 子 伊 藤 健次郎

2) 糖尿病の判定規準の推移と精検 済生会中央病院内科 田 中 剛 二

3) 肺癌における集検の方向づけと二次検診のあり方

若柳町国民健康保険病院 佐 藤 博 俊

4) 胃疾患を中心として（人間ドック、自動化健診、胃集検など）

藤間病院 藤 間 弘 行

5) 人間ドックにおける大腸疾患検査法の方向づけ（大腸集検の立場から）

青森県立中央病院成人病内科 棟 方 昭 博

弘前大学第一内科 相 沢 中

一 般 演 題 48 題

## 第21. 第6回日本診療録管理学会

1. 学 会 長 犬塚 貞光 (福岡大学教授)
  
2. 期 日 昭和57年9月2日(木)・3日(金)
  
3. 会 場 福岡大学医学部大講堂 (福岡・城南区)
  
4. 演 題
  - 会長講演  
“本邦における診療録記載の実態” 犬塚 貞光
  - 特別講演 2題  
“医療精神と医療システム” 入江 英雄  
“法医学から見た医療事故” 牧角 三郎
  - シンポジウム  
“診療録の記載に関する教育の現状” 座長 犬塚 貞光  
“診療録管理における電算機応用の実際的効用” 座長 三宅 浩之
  - 一般演題 42題
  - 指定演題 11題
  
5. 参加者数 600名

## 第22. '82国際モダンホスピタルショウ

- 会 期 : 昭和57年5月13日(木)～16日(日)
- 開 場 時 間 : 午前10時～午後5時  
(最終日のみ午後4時30分終了)
- 会 場 : 東京国際貿易センター 南館1・2階
- テ ー マ : のびゆく医療住みよい社会
- 主 催 : 社団法人 日本病院会  
社団法人 日本経営協会
- 後 援 : 厚生省 通商産業省 外務省 東京都 日本貿易振興会 日本医師会  
社団法人日本看護協会
- 協 賛 : 全日本ベッド工業会 (社)日本電子機械工業会  
(社)日本冷凍食品協会 (財)日本医療食協会  
(社)日本厨房機器工業会 (社)日本病院建築協会  
日本病院寝具協会 日本病院設備協会  
(社)日本放射線機器工業会 日本薬科機器協会  
(社)日本病院薬剤師会 日本自動販売機工業会  
(社)リース事業協会 (財)日本医薬情報センター  
健康保険組合連合会 全国社会福祉協議会  
(社)日本火災報知器工業会 (社)日本消火装置工業会  
(社)日本消火器工業会 (社)全国消防機器協会  
日本避難設備工業会 フローレンス会  
(財)医療情報システム開発センター
- (順不同)
- 出 品 社 数 : 118社
- 展 示 面 積 : 展示小間面積 1,000 平方米  
特別企画システム展示会場面積 1,600 平方米
- 特別企画事業 : 「病院のシステム化を考える」システム展示
- コーナ－展示 : ① 事務管理コーナ－  
② 医療情報システムコーナ－  
③ 看護手術関連コーナ－  
④ 臨床検査コーナ－

- ⑤ 病院給食コーナー
- ⑥ リハビリテーションコーナー
- ⑦ 家庭看護・健康機器コーナー
- ⑧ 老人医療と福祉コーナー

特別事業：松屋特選品即売コーナー

付帯事業：① 麻酔器の歴史パネル展

② 医療関係図書即売コーナー

開会挨拶  
およびテープカット：三洋電機ビジネス機器㈱取締役副社長 矢川 豊

社団法人 日本経営協会理事長 高橋 松三郎

'82 国際モダンホスピタルショウ

実行委員長 河野 稔 (敬称略)

入場者実績：	第1日	5月13日(木)	1,390人
	2日	5月14日(金)	2,420人
	3日	5月15日(土)	5,240人
	4日	5月16日(日)	2,450人
		合計	11,500人

(ただしこの入場者は招待状持参者、有料入場者のみで、これ以外フリーの入場者は5万人強である)

## 第23. 老人保健法施行にともなう診療報酬等改定説明会

1. 日 時 昭和58年1月24日(月) 13:30～17:00 (京都会場)  
1月25日(火) 13:30～17:00 (東京会場)

2. 会 場 京都会場 京都府医師会館 (京都市)  
東京会場 山野ホール (渋谷)

3. 参加者数 京都会場 435名  
東京会場 490名  
計 925名

4. 講 師 厚生省公衆衛生局老人保健部老人保健課  
京都会場 南 沢 孝 夫  
東京会場 平 田 輝 昭  
厚生省保険局医療課  
東京会場 藤 崎 清 道

〔 総 評 〕 今回の説明会は老人保健法及び一般診療報酬の改定につき開催した。  
京都会場においては(社)京都私立病院協会の共催を得、医事研究会委員が中心となり、質疑応答につとめたが、十分な時間が取れず応答のなかった部分については、病院会ニュースで解答することとした。

## 第24. 病院防災セミナー

1. 日 時 昭和57年9月28日(火) 10:00～17:45  
9月29日(水) 9:00～16:35

2. 会 場 大東京火災海上保険㈱ 中央研修所(世田谷)

3. 参加者数 138名 103病院

4. 演 題
- 1) 病院組織体に於て火災などにより、死傷者を生じた場合の法律上の責任
  - 2) シンポジウム「誰が守る病院の建物」
  - 3) 病棟における災害対策
  - 4) 災害に対する合理的な損害保険の利用
  - 5) 話題提供「各部門における災害対策」
  - 6) 医療施設における防火・防災に関する通知の解説
  - 7) 病院防火管理者の心得
  - 8) 大規模地震対策特別法に対する病院の対応について
  - 9) 病院における防災安全に関する対応について

〔総 評〕 本セミナーは、多様化する病院災害につき、最も实际的である種々の防災方法を取り上げ開催すると共に、各病院の各部門における災害対策の実例を上げ、具体的な問題を取り上げ開催した。

# 要 請 書

殿

## 原価割れ診療報酬の是正に 関する要請書

病院の経営状況は、昨年6月の診療報酬改定にもかかわらず、少しも改善されないばかりか、月ごとに悪化の一途をたどっています。厚生省医務局調査による公的病院の移動年計をみても、これは明白な事実であります。(資料添付)

このような事態を招いた原因は、病院の原価構成に対する認識を欠き、病院経営の実態を無視した改定が行われ、原価割れ診療報酬が放置されたためにほかなりません。

そのため、昨年度末決算は、大幅な赤字に追い込まれ、職員の給与改定も遅れている実情であり、このままでは病院医療の維持が困難であるばかりでなく、国民医療水準の低下も必至であります。

国民医療の危機を回避するため、原価割れ診療報酬の是正に向け、緊急の措置をとられるよう、強く要請いたします。

要 請 者

(病院名)

(氏 名)

(住 所)

他

印

名

病院診療報酬適正化推進会議

(社団法人日本病院会・全国公私病院連盟)

# 声 明

昭和五十六年六月一日の診療報酬点数改定は、われわれの期待を全く裏切ったものであり、大多数の病院では、重大な経営危機に陥るにいたった。

これはホスピタルフィを正しく評価したのではなく、加うるに医師および看護婦、薬剤師等、医療技術者の技術料を不当に過小評価しているところにある。

現行診療報酬体系の中で点数の組替えを行っても、今日の経済実態に見合うだけの報酬が得られないことは明らかである。

よって、諸内容、諸条件を勘案し、速やかに、原価割れの診療報酬点数を是正し、病院経営を安定させ、わが国の医療水準を維持すべきである。

ここに、われわれ各病院団体は、国民の健康と福祉を守るため大同団結し、病院診療報酬の適正化をめざし、所信を貫徹することを決意するものである。

病院診療報酬適正化推進会議の発足にあたり  
右声明する。

昭和五十七年四月三日

## 病院診療報酬適正化推進会議

参加団体（下記の通り）

全国公私病院連盟

全国自治体病院協議会

全国公立病院連盟

全国厚生農業協同組合連合会

日本赤十字社病院長連盟

日本私立病院協会

岡山県病院協会

東京病院協会

社団法人日本病院会

社団法人日本医療法人協会

社会福祉法人恩賜財団済生会

済生会病院長会

社団法人日本海員掖済会

社団法人日本結核病院協会

社団法人福島県病院協会

栃木県病院協会

社団法人神奈川県病院協会

新潟県病院協会

静岡県病院協会

社団法人愛知県病院協会

社団法人三重県病院協会

社団法人滋賀県病院協会

社団法人京都府私立病院協会

社団法人大阪府病院協会

社団法人大阪府私立病院協会

奈良県病院協会

社団法人和歌山県病院協会

兵庫県病院協会

社団法人兵庫県私立病院協会

富山県公的病院長協議会

社団法人広島県病院協会

鳥取県病院協会

島根県病院協会

愛媛県病院協会

社団法人福岡県病院協会

長崎県医師会病院部会

社団法人横浜市病院協会

社団法人川崎市病院協会

(順不同)

# 声 明

国民医療を健全に確保するためには、適正なる診療報酬の維持が不可欠の要件である。

しかるに、健康保険診療報酬制度の矛盾と欠陥のまゝ、三年余に亘り据置かれていた間に、公共料金・諸物価・人件費等の上昇により、病院の経営はかつてない危機に直面し、病院存続の危殆を招来する事態となった。

政府は、漸く昭和五十六年六月一日診療報酬改定を、実に三年四カ月ぶりに行つたが、病院経営は、改善の兆しもなく、一層悪化へと拍車をかける趨勢をもたらしていることは、厚生省自らが発表する「一般病院移動年計による医業収支表」を見るまでもないところである。

このまゝ、推移するならば、国民医療の中核をなす病院の経営は破綻し、病院機能が麻痺することは必至である。

生命と健康にたいする国民の関心とニーズは年々高まっており、これに應えていくためには、医療の公共性から、社会的責任を自覚し、国民医療の担い手としての決意が必要である。

そのために、まず病院経営を安定させ、医療の健全化を強く望むものである。

ここに、当推進会議は、国民の健康と福祉を守るため一致団結し、病院診療報酬の再是正を速やかに実施されんことを強く要求するものである。

右声明する。

昭和五十七年五月二十九日

病院診療報酬適正化推進会議

中央・地方代表者会議(別紙の通り)

(別紙)

全国公私病院連盟

全国自治体病院協議会

全国公立病院連盟

全国厚生農業協同組合連合会

日本赤十字社病院長連盟

日本私立病院協会

岡山県病院協会

東京病院協会

社団法人日本病院会

社団法人日本医療法人協会

社会福祉法人恩賜財団済生会

済生会病院長会

社団法人日本海員掖済会

社団法人日本結核病院協会

山形県公的病院協議会

社団法人福島県病院協会

栃木県病院協会

社団法人神奈川県病院協会

長野県公的病院協議会

新潟県病院協会

静岡県病院協会

社団法人愛知県病院協会

社団法人三重県病院協会

社団法人滋賀県病院協会

社団法人京都府私立病院協会

社団法人大阪府病院協会

社団法人大阪府私立病院協会

奈良県病院協会

社団法人和歌山県病院協会

兵庫県病院協会

社団法人兵庫県私立病院協会

富山県公的病院長協議会

社団法人広島県病院協会

鳥取県病院協会

島根県病院協会

愛媛県病院協会

社団法人福岡県病院協会

長崎県医師会病院部会

社団法人横浜市病院協会

社団法人川崎市病院協会

(順不同)

昭和57年4月

陳 情 書

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



医療機関に対する事業税の取扱  
いについて（陳情）

このことについて、われわれ病院各団体は協議の結果、別紙のとおり陳情いたします。

臨時行政調査会第1部会の素案として、報ぜられるところによれば、医師優遇税制見なおしの一環として医療機関に対する地方税の特例措置、即ち、

1. 医療法人に対する事業税の軽減措置（地方税法第72条の22）
  2. 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置（同法第72条の14及び第72条の17）
- 等の廃止が提起されております。

現行税制のもとにおいて、公的医療機関に比較し、私的医療機関は税負担という差別を余儀なくされており、更にこれ以上の税負担の加重を強えられることは、私的医療機関に課せられた社会的責務をも、果せない結果になることを懸念するものです。

よつて医療の公共性、公益的使命と、その中における私的医療機関の果す役割りを自覚し、誠心努力しているわれわれ医療機関の実態をご理解いただき、従来の制度が維持存続されるよう、陳情します。

昭和57年4月16日

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

医療法一部改正による規制強化  
反対について意見

このことについて、われわれ病院各団体は協議の結果

別紙意見書の理由に基き反対することを表明します。

## 医療法の改正案要綱に対する意見書

### 1. 都道府県医療計画に関する事項

- (1) 医療法自体に、医療に対する国の基本理念が欠落している。改正するならば、枝葉の問題ではなく、医療法全体を見直すべきである。
- (2) 従来、日本の医療が、民間医療に依存してきた歴史を全く無視し、民間医療の育成を計る事なく国公立中心の医療圏を指向する医療の官僚統制であって、真に国民のニーズに応えるものとは言えない。

### 2. 医療法人の指導監督規定等の整備に関する事項

#### (1) 立入検査等

現行法においても、病院、診療所等に立入検査をすることができ（医療法25条）又医療法人に対しても必要な命令を発し、行政処分ができることになっている。（医療法63条～66条）あえて、法改正をするまでもない。

#### (2) 役員の資格及び解任等

医療法人の役員資格の制限及び解任命令は、法人経営に対する、不当介入を招きかねない。

必要な行政指導は、現行法で十分に対応が可能である。（医療法66条）

#### (3) 定款変更の禁止等

退社時の払戻額又は解散時の残余財産の帰属額を増加する部分にかかる定款の変更禁止規定も表現の不明確さと相まって、意図する相続税対策の準拠規定となり得るか、不明である。

われわれの期待するものは、医療法人制度を中心とする医療法全体の見直しであり、一部の応急的な手直しではない。

民間医療機関の自主性の尊重と、その健全な発展を阻害するが如き、法改正には、絶対に反対である。

昭和57年6月 日

殿

社団法人 日本病院会  
会長 内藤景岳

損害保険料率の消火設備割引適用に関する要望

病院における防火設備に対する法の適用は、消防法・建築基準法・医療法などにより規制され、それぞれの施行規則は一般業種に比べ極めて厳酷な適用を受けております。

また、一般の建造物は夜間無人化が進んでおりますが、病院はその省人件費化が許されず、医療の社会的使命を充足すべく、事情の許す限り夜勤医師・看護婦の増員に努め災害の絶無を期すべく関係者は昼夜努力いたしております。

しかしながら、昨年6月の診療報酬改定後、病院の経営状態は実質的なマイナスとなり今なお悪化の一途をたどっている中で高額な負担に耐え、関係省庁の定める消防規準を順守することは、財政的に極めて困難となっております。

以上のことをご配慮のうえ、また別紙資料をもご参考いただき、国の定める規準に合格したものは、すべて所定の割引を適用されますようお願いいたします。

資料

1. 普通物件火災保険消火設備割引

大蔵省告示第22号および第37号により、消火設備割引は、次のように定められている。(火災保険一般物件料率表もほぼ同一の内容である。)

9. 消火設備割引

算定会の定める規則に合致し、かつ、算定会の検査に合格した消火設備を有する場合は、この割引をする。この場合、2以上の設備が併設されたときは、それぞれの割引率を加算したものを適用する。ただし、割引率は40%を限度とし、自動火災報知設備とスプリンクラ設備とが併設された場合は、これらを加算しない。

消防設備の種類		割引率(%)
屋外消火栓設備	甲	10
	乙	5
屋内消火栓設備		5
消防ポンプ設備		5
自動火災報知設備		5
スプリンクラ設備		30

2. 消火設備の設置数

消火設備の全国における設置状況は、次のとおりである。

(昭和52年3月31日現在 消防庁調)

消火設備の種類	設置数(金業種)	設置数(病院)
屋外消火栓設備	9,530	154
屋内消火栓設備	133,637	5,661
消防ポンプ設備	5,351	90
自動火災報知設備	419,364	22,605
スプリンクラ設備	4,915	399

3. 消火設備割引の適用状況

消火設備割引の適用状況は、公表されていないので不明である。

しかし、二三の保険会社に質問したところ、推定割引物件数は極めて少なく、前述の設置数の1%以下、または1%前後でないかと仄聞している。弊会でも、相当数の病院に照会してみたが、保険料割引の適用は皆無であった。

また、割引率も、例えばスプリンクラ設備の場合、所定の30%割引は極めて稀で、実際は算定会および保険会社の「内規」で、数パーセントの割引しか適用されていないとのことである。

4. 病院業界における消火設備に対する取組み

病院は今日経営上極めて困窮の状況にある。経営を圧迫している要因の一つに、過酷とも言えるべき消防火設備に対する防

火基準がある。この基準は、周知のとおり、百貨店・ホテル等と同等である。

また、病院は夜間無人化にすることによる省人件費化が、一般の建物のようにできない。むしろ、事情の許す限り、医療の社会的使命と防災のため、夜間の当直医師・看護婦増員の努力をしている。

他方、ハード面に於ても、保険料割引の要素にはならない防火区画・排煙設備・避難設備に膨大な設備改新を行っている。

次の表は、主として、献身的な看護婦の成果と信じたい。  
(消防白書統計より)

火災損害のうち病院・診療所の占める比率

年次	区 分	出火件数	焼損面積 千 $m^2$	損 害 額 億円
昭和 45 年	全国・全建物	39,845	2,706	771
	病院・診療所	247	12	3
	対全建物比率	0.6%	0.4%	0.4%
昭和 50 年	全国・全建物	38,455	2,083	1,064
	病院・診療所	210	6	4
	対全建物比率	0.5%	0.3%	0.4%
昭和 55 年	全国・全建物	38,014	2,128	1,450
	病院・診療所	74	2	1
	対全建物比率	0.2%	0.1%	0.1%

#### 5. 火災保険料割引に対する要望

消火設備に対する火災保険料割引の実態が、設置数の1%にも満たない消火設備割引であれば、かかる制度を設けた意味は、事実上無いと考える。また「算定会の定める規則」は、国で定める消防法等の基準より更に厳重な規準にしている。しかもこの基準は、公表されているものの、実際には、保険消費者の手許には届いていない。現状は、一握りのマンモス病院、超大ビル建物にのみ与える恩典でしかない。

国の定める規準すら、苦しい経営の中から、爪で火をともし努力をして、やっと実行していることを素直にご理解いただき、規準に合格したものは、すべて所定の割引の適用ができる運営をお願いしたい。

また、火災保険料率表には、職業による割増が定められているが、職業による割引も併せてご高配くださることをお願いする。

以 上

昭和57年7月

陳 情 書

殿

社団法人 全日本病院協会



社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



医療機関に対する事業税の取扱  
いについて（陳情）

このことについて、われわれ病院各団体は協議の結果、別紙のとおり陳情いたします。

臨時行政調査会第1部会の素案として、報ぜられるところによれば、医師優遇税制見なおしの一環として医療機関に対する地方税の特例措置、即ち、

1. 医療法人に対する事業税の軽減措置（地方税法第72条の22）
  2. 社会保険診療報酬にかかる事業税の非課税措置（同法第72条の14及び第72条の17）
- 等の廃止が提起されております。

現行税制のもとにおいて、公的医療機関に比較し、私的医療機関は税負担という差別を余儀なくされており、更にこれ以上の税負担の加重を強いられることは、私的医療機関に課せられた社会的責務をも、果せない結果になることを懸念するものです。

よつて医療の公共性、公益的使命と、その中における私的医療機関の果す役割りを自覚し、誠心努力しているわれわれ医療機関の実態をご理解いただき、従来の制度が維持存続されるよう、陳情します。

## 税制に関する要望書

昭和57年 月 日

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

医療業は、業務の基本的性格から高い公益性を要請されており、また、われわれ医療従事者もこれを自覚し、その社会的使命の達成に努力しております。

医療の原点とも言うべき救急医療又は措置医療に関しても、これに積極的に取組みその責務を果しているのは、民間医療機関であります。

しかしながら、税制面におきましては、一般産業と比較して、その公益的側面に対する考慮が殆どされてなく、また公的医療機関と比較しても、その業務の同質性からみて著しく均衡に欠けるものがあります。

医療業の公益的側面に見合った税制の確立のため、別紙の通り、昭和58年度の税制改正要望事項の実現について格別のご配慮の程要望申し上げます。

昭和58年度 税制改正要望事項

1. 国 税 関 係

(1) 所得稅，法人稅關係

1. 剰余金の配当の禁止と業務範囲が制限されている医療法人について、協同組合等と同様の法人税率を適用すること。

法人税法第66条  
第3項

(理由) 医療法人は、その法人組織、運営のすべてに亘り、民法第34条の公益法人のそれを準用している。しかも、剰余金の配当禁止と業務上附帯業務についての制限等があり、医療事業の公益的性格と併せて、協同組合等と比較し、その位置づけに即応した同率の25%の税率を適用されたい。

2. 病院用建物および建物附属設備について、法定耐用年数を短縮すること。

耐年省令別表第1

(理由) 病院の施設基準は患者等の収容に適応した環境条件を要求している。老朽化した設備については、耐用年数未滿でも改善命令による更新が義務づけられ、国際登録ホテル等と比較しても、その耐用年数はより短縮されるべきである。

建物鉄筋コンクリート造36年、  
建物附属設備12年等登録ホテル等  
等の耐用年数と同等以下の年数に短縮されたい。

3. 非常勤医師の給与所得源泉徴収額は所得税法第204条の適用を可能にすること。

所得税法第204条  
第1項

(理由) 現在は、乙欄適用による高度の累進税率適用になっているため、雇用者の負担は極めて高いものとなっている。必要な法令通達の改正により、報酬又は料金の10%税率適用を可能にされたい。

4. 医療用機器の特別償却制度の適用  
期限を昭和58年4月以降も引続き  
延長すること。

(理由) 医療設備の近代化と整備充実  
を促進するため、昭和58年4月以  
降も特別償却制度を引続き延長され  
たい。

## (2) 相 続 税

1. 医療法人社団の出資持分に対する  
評価を払込済出資金額とすること。

(理由) 医療法人の剰余金の配当禁止、  
附帯業務範囲の制限等その財産処分、  
評価上の制約並びに医療そのものの  
公益性を考慮し、協同組合等と同様  
に、社団の出資持分の評価を払込済  
出資金額とされたい。

## 2. 地方税関係

### (1) 固定資産税

1. 救急病院等の救急医療用機器の課

措置法第12条の2  
第2項

措置法第45条の2  
第3項

相, 評基通195

地方税法附則  
第15条第17項

税標準価格6分の5に関する適用期  
限を昭和58年4月以降も引続き延  
長すること。

(理由) 救急医療の拡充を促進するた  
め、救急医療用機器の償却資産税軽  
減を目的とする課税価格の特例を昭  
和58年4月以降も引続き延長され  
たい。

記

昭和 57 年 9 月 11

国 税 庁 直 税 部 長

角 辰 一 郎 殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

派遣医の給与所得について適用する源泉徴収税額表の区分等  
について、下記のとおりご照会申し上げます。

現在、多くの医療機関では、大学病院の医局等から教職員  
又は研修生たる身分を有する医師又は歯科医師の派遣を受け  
て診療業務に従事させており、これらの派遣医に対する給与  
の支払いについては、いわゆる手取契約で、かつ、派遣を受け  
た都度行う慣行が広く行われてきました。

そして、このような慣行によって支払う派遣医の給与につ  
いて源泉徴収を行う場合には、給与所得の源泉徴収税額表  
(日額表)の乙欄を適用することになりますが、手取額のい  
かんによっては、各医療機関の負担する税額が高額となるこ  
ともあって、正規の源泉徴収を行わず、税務当局により是正  
を求められる事例が少なく、当会としても早急に取扱いの  
適正化を図る必要性を感じております。

そこで、各医療機関に対し、派遣医に支払う給与について  
次の支払い基準による場合には、給与所得の源泉徴収税額表  
(月額表)の適用がある旨を周知し、派遣医に支払う給与の  
源泉徴収の適正化を図りたいと考えていますが、このような  
取扱いで差し支えないか御照会申し上げます。

なお、以上の周知と同時に、派遣医の適正な確定申告が図  
られるよう各医療機関に対し、法令に基づく給与所得の源泉  
徴収票の本人交付と税務署への提出の確実な実施について、  
改めて周知したいと考えていますので、念のため申し添えます。

〔支払い基準〕

- ① 月間の給与総額をあらかじめ定めておき、これを月ごとに又は派遣を受ける都度分割して支払うこととするもの
- ② 月中に支払うべき給与をまとめて月ごとに支払うこととするもの

パート医師に対する国税庁からの返事



直法 6 - 8

昭和 57 年 10 月 25 日

社団法人 全日本病院協会 殿  
社団法人 日本医療法人協会 殿  
社団法人 日本精神病院協会 殿  
社団法人 日本病院会 殿

国税庁 直税部長  
角 農 一 郎



派遣医の給与所得について適用する源泉徴収  
税額表の区分等について（昭 57.9.20 付照  
会に対する回答）

標題のことについては、貴見のとおり取り扱うこととして差し  
支えありません。

昭和 57 年 10 月 27 日

医療金融公庫の存続に関する要望書

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

われわれ四団体は、さきに医療金融公庫の統廃合に反対する旨の要望書を関係各方面に提出したところでありますが、臨時行政調査会におかれては、引きつづき特殊法人のあり方の一環として同公庫の存廃につき御検討中と承っております。

今更申し上げるまでもなく、私的病院、診療所はわが国医療体制の支柱をなしており、その充実発展を図るために同公庫の存在は必要不可欠なものであります。

ここに、重ねて御理解を得たく下記のとおり医療金融公庫の存続と充実を強く要望いたします。

記

1. 日本の医療体制は、病院の80%、診療所の90%を私的機関が占め、これら私的医療機関は救急医療及びプライマリーケアをはじめとした地域医療を通じ、国民の健康の確保に責任をもって日夜努力しているところであります。

今後に限られた資源を有効に活用しつつ、地域医療体制の充実を図って行くためには、その経営に熱意と活力を有する私的医療機関が中心とならざるを得ません。

なお、現在国、公立病院をはじめとする公的病院の多くは、その運営の硬直性、非効率性から多額の赤字を抱えており、これら国公立を将来の日本の医療の支柱とするならば、第二の国鉄化の道をたどることは必至であります。

2. わが国の医療機関は今後人口構造の老令化や、医療技術の革新に対応した質的向上が一層強く求められるが、医療経営をとりまく環境の悪化、医療機械・病院用地・建築費等の高騰は施設整備に必要な資金の調達を極めて困難にしている現状であります。これらの資金をまかなうには、民間資金や自己資金のみでは自ら限界があり、医療金融公庫による資金の供給が不可欠であります。
3. 今後医療金融公庫は、私的医療機関の果たすべき役割と現下の厳しい医療経営環境に対応し、土地取得資金の新設や融資限度額の引上げなど、制度と内容を中心とし

て一層の充実を図るべきであります。

医療機関は、医療法により従事者や施設等に対し特に厳しい規制を受け、経営主体についても営利目的の株式会社等が禁止されると同時に、私的医療機関にあっては累進課税による税負担も多く、かつ、医療独特の資本回転の遅い性格から、経営面や資金調達に多大の制約を受けております。このように一般企業と性格の全く異なる医療機関を一般営利企業を対象としている他公庫で取り扱うことは不合理であるばかりか不適當であります。この意味で医療金融公庫の統廃合は絶対に行うべきでないことを確信いたします。

昭和57年12月6日

殿

社団法人 全日本病院協会



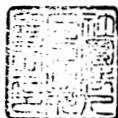
社団法人 日本医療法人協会



社団法人 日本精神病院協会



社団法人 日本病院会



(五十音順)

要 望 書

薬価基準と医療費の改訂を同時に実施するよう四病院  
団体の総意により要望いたします。

(理 由)

政府は医療費抑制策の一環として薬価基準の引き下げを近く実施し、これに伴う医療費の改訂は若干その時期を遅らせて実施する方針と伺います。昨年の医療費の改訂はわれわれ医療機関の要望に反したものとなり、医療の原価を割り、このために病院経営が困難となる現象がすでに現れている状況にあります。今回医療費改訂に先んじて薬価基準の引き下げを実施することは、診療報酬算定はトータルで行っているとする政府方針にもとるばかりでなく、病院経営をさらに悪化させるものであり、薬価基準の引き下げは医療費の改訂と同時に実施すべきであります。

昭和 57 年 12 月 23 日

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

## 要 望 書

今次の老人保健法の成立にあたり既に公表された「老人の診療報酬に関する検討項目(メモ)」を医療機関、就中病院が忠実に実施するとすれば、本来、憲法で保障されているすべての国民が、健康で文化的な生活を営む権利を根底より否定することとなり、人生の大半を社会の生産活動にささげ、漸く老境に入って余生の憩いを求めようとする老人に対し、全く“老人いじめ”以外の何物でもない。

いま詳細にメモを各項目毎に検討した結果

1. 「入院期間の短縮及び注射、点滴等の適正化」は、たとえ如何なる美辞麗句を使おうとも、技術料の無視、制限診療につながり、診療報酬の出来高払いを否定するものである。
2. 「地域や家庭における医療並びに指導を重視した医療への転換」といいながら、慢性疾患指導管理料の廃止及び退院患者継続看護指導料の設定等、有病率の多い老人を医療から切り離し福祉への無責任な転換委譲であり、特にたとえ主治医の指導のもとにという前提をおくとしても無資格

者の医療行為を助長するおそれがある。

3. 「いわゆる老人病院の診療報酬の合理化」は老人病院を特定した規準のもとにおくことにより、いわゆる第二種病院的なものを容認する事となり、医療の水準を低下させる。また、老人病院における別個の診療報酬体系を設定することは将来、一般保健医療をも、その枠内に統一しようとする意図が明白であるという結論を得た。

われわれは以上の見地より断乎これに反対する。関係当局はさらに各病院団体の意見を十分に聴取し尊重し善処される事を強く要望する。

昭和 57 年 12 月 23 日

医療法一部改正について当面の意見

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

医療法は制定後三十有余年を経過し、時代の推移とともに大巾な改訂を必要とされます。

しかしながら改訂は慎重を要し、このため、なお多くの検討時間が必要とされます。

したがって、緊急を要するとされる下記 2 点についての当面の意見を提出します。

記

1. 地域医療計画

- (1) 地域医療計画は民間指導型であるべきである。
- (2) 計画の立案に当っては、地域医師会のみならず公・私両病院団体の意見を聴くべきである。

2. 医療法人の監督

医療法人の指導監督は、現行法令の規定により行政指導の強化によって充分目的を達せられるはずである。

立入検査又は役員了解等の法にうたうことは不必要である。

昭和58年1月18日

社団法人 全日本病院



社団法人 日本医療法人



社団法人 日本精神病院



社団法人 日本病院



(五十音順)

#### 医療法人の相続税問題について

四病院団体は「持ち分のある社団法人医療法人」の相続税を、出資金額に限定するようお願いしておりましたことについて、必ずしもこれにこだわるものでなく、円滑に事業承継ができるよう適切な税制の改正をお願いいたします。

それにつきまして四病院団体において、「医療法人法」を検討中ですので追って提出いたします。

## 声 明 書

臨調第4部会では、1月17日特殊法人等及び現業等の在り方についての部会報告をまとめ、この中で医療金融公庫を廃止し、その業務は厚生省所管の他の機関を改組して引き継ぐとの見解を明らかにした。

われわれ病院団体は、かねて医療金融公庫の存続の必要性について強く要望し理解を求めてきたところであるが、わが国医療供給体制の中で私的医療機関の果たしている役割と現下のきびしい医療経営の実態、更に急速な人口構造の高齢化と医療需要の多様化等変動する医療環境に対処し、国民医療を確保してゆくためには医療金融公庫の存続は絶対に不可欠なものであって、むしろその機能を高めるための諸条件の改善をこそ求めてきたものである。

医療金融公庫は、設立以来医療における専門的立場にたって政策金融機関としての機能を果たしてきたものであって、医療需要の急速な増大と国民医療費の増高が予測される今日、病床不足の解消状況をもって廃止するとするならば今後における国民の適正な医療の確保は困難と

なり、行財政改革の意図にも反する結果を招くことは明らかである。

われわれ病院団体は、今回の医療金融公庫廃止の第4部会報告に反対し、その存続を強く求めるものである。

昭和58年1月20日

社団法人 全日本病院協



社団法人 日本医療法人協



社団法人 日本精神病院協



社団法人 日本病院



(五十音順)

昭和58年1月24日

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

## 申 入 書

我々はさきに老人保健法にかかる診療報酬に関し、要望書を作成、提出したが、去る12月29日中医協に於いて決定、発表された一連の診療報酬改定の内容を詳細に検討した結果、国民の医療を守る我々の要望は全く容れられていないとの結論に達したので、各項目ごとの意見、並びに現下の病院が直面する危機の実情を述べここに再度申入をする。

### I 老人の医療に要する費用の額の算定に関する基準

#### 1. 老人特掲診療料

- (1) 入院時医学管理料の若干の横上げは一見、アップに見えるが、入院期間に伴う減額は、ともすれば長期に亘りがちの入院をこれによって規制しようとする意図ながら老人医療の本質を全く弁えていない。
- (2) 点滴注射の注射液量を500CCと訂正したことは、前回医療費改定時の不合理を見直したものとして評価出来るが、入院中の者については注射看護料を入院時医学管理料に包含させたことは「まるめ」を認め、然もそれにより管理料の実質的減額となりかねてよりの我々の主張を大きく後退せしめたものといえる。
- (3) 生活指導管理料の新設は慢性疾患指導管理料の廃止と相

殺したものである。

- (4) 退院時指導料はその新設の医学的論拠が明らかでなく、またこれによって在院日数の短縮を図るのは的はずれといえよう。
- (5) 退院患者継続看護・指導料は前回の要望書にも言及した通り無資格者の医療行為を誘発するおそれがないとはいえない。
- (6) 老人の収容比率が著しく高い病院又は病棟に収容されている者に係る診療料の特例は、その各項目を通じて、「有病の老人いじめ」そのものであり、特に(4)項の老人収容比率が6割以上のものについての老人検査料、老人注射料、老人処置料等の低額まるめは医療の本質を破壊することもさることながら、該当する病院に対する行政指導を医療費の圧縮による収入減という懲罰的なものへのすりかえであり、医療費体系の中での議論ではない。

#### 2. その他の診療料

- (1) 初回再診料
  - (2) 特定疾患治療管理料
  - (3) 検査料
  - (4) 理学療法
  - (5) 精神病特殊療法
  - (6) 処置及び手術
- の各項目は新設又は増点となっているが、疾患或は方式が限定されているため該当する症例は極く僅かであり、一般医療機関に及ぼす経済的影響は少ない。

## II 「一般の医科点数表における改正の内容」

1. 初回再診加算は技術料を評価したものとして意義はあるがその点数も低く薬価引下げに対する策としては何等みるべきものはない。
  2. 特定集中治療室管理加算の増点及び無菌治療室管理加算の新設は評価されるとはいえ、これが適用出来る医療機関の数は少ない。
  3. 特定疾患治療管理料の手直しもまた評価に値いするが、小児特定疾患カウンセリングの新設はその年令、期間が制限されるうえ、標榜科目を小児科にのみ限定するなど診療所の実態に目を掩っているといえる。
  4. 検査料      5. 注射料      6. 理学療法
  7. 精神病特殊療法      8. 処置及び手術
- は前項と同様に評価される。
9. 骨髄移植の新設は評価に値するがこれに対応し得る医療機関は極く少数に限定される。

また現在の医業経営は、病院と診療所との間に遙かな格差のあることを何びとも否定することはできない。特に今回の改定が臨調答申の厳しい姿勢のためとはいえ、最近の物価、人件費の高騰に目を掩い、且つ1月より実施された薬価基準の引下げによる経済的打撃により医療水準の向上乃至は拡大再生産は望むべくもな

い事実を直視すべき責任を当局はもたねばならない。

制定以来30年余を経て、既に陳腐化した医療法施行規則による医療従事者の定数及び健保法による基準看護の指定基準はこの際、大幅に変更されることを全病院人は望んでいる。各地に於いては経営困難、或はそれに端を発した労働問題等のため倒産、廃院となった事例が相次いでいる実情である。従って部屋代の差額徴収を認めるなどせめて国際基準にまで達せしめることが望ましい。

以上の見地より今回の点数表の改正は3年半の空白期間において漸く実現した一昨年6月の医療費改定が我々の期待を裏切り、結果的には医療収入の増加には程速く全く減収につながった実態の是正に何等寄与することなく、再び失望と無力感を味うに終り、然も今回の改正はそのターゲットを専ら病院に指向したものと断ぜざるを得ない。

以上に我々は断乎これに反対し、再び申入を行い、関係方面の猛省を促すものである。

昭和58年1月26日

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

出資持分のある医療法人社団の  
中小企業事業承継税制に関する要望書

1. 伝えられるところによれば、本年4月に改正される事業承継税制について、従来、純資産価額のみで評価されていた所謂「小会社」の株式評価が、類似業種比準価額方式を併用し、純資産

価額50%、類似業種比準価額50%で評価されるやにきいておられます。

2. これに対して持分の定めある医療法人社団の出資評価は、通常の事業会社とは別に、相続税財産評価基本通達196により、同通達188(6)を準用し、純資産価額のみで評価されることになっています。しかし、今回の事業承継税制の改正にあたって、所謂「中会社」の中グループ(L=0.50)の類似業種比準価額方式の併用が適用されるやにきいておられます。
3. 医療法人は資産規模、取引規模及び資本金規模において所謂「大会社」「中会社」(L=0.75)に匹敵するものが多いにもかかわらず、純資産価額方式で評価されていたため、一般事業会社と比べて相続税負担が著しく重くなり、事業承継を困難にしていたのが実情であります。

よって、今回の事業承継税制の改正にあたり医療法人を、合名会社・合資会社・有限会社等と同様、全面的に類似業種比準価額方式の適用を受けられるように、相続税財産評価基本通達194を改正されることを要望いたします。

(現行) 合名会社、合資会社又は有限会社についての出資の価額は、株式の評価方法に準じて計算した価額によって評価する。

(改正要望) 合名会社、合資会社、有限会社又は医療法人についての出資の価額は、株式の評価方法に準じて計算した価額によって評価する。

医療法人の相続税についての要望書

昭和58年3月7日

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

(五十音順)

医療法人の出資持分に対する相続税評価は純資産価額方式で評価されているため、円滑な医療法人の承継が困難となっている。国民の福祉のためにも現行法は医療法人にはなじまない制度でありますので次により昭和58年度税制改正に当りご配慮下さいませよう要望申し上げます。

1. 医療法人の出資持分の相続税評価は、今回の中小企業の相続税の改正に合せ、類似業種比準方式も選択できることとされたい。
2. このため現行の相続税財産評価基本通達/96の適用区分を/94に変更されたい。
3. 比準すべき業種は、同通達にある業種番号/00のその他の産業とされたい。

なお、四病院団体は「持ち分のある社団医療法人」の相続税を、出資金額に限定するようお願いしておりましたことについては撤回いたします。

また、厚生省が現在医療法改正について検討中であり  
ます「社団たる医療法人の継続性を図るため、社員に対  
する退社時の払戻額及び解散時の残余財産の帰属額を出  
資額の範囲内に定めた定款については、その後における  
当該規定に関する定款変更を認めないものとする」と  
につきましては同意できません。

昭和58年3月15日

医療金融公庫の廃止反対  
についての要望書

殿

社団法人 全日本病院協会

社団法人 日本医療法人協会

社団法人 日本精神病院協会

社団法人 日本病院会

臨時行政調査会は3月14日の答申において、医療金融公庫を社会福祉事業振興会に統合し、同公庫を廃止することを答申しているがこの答申内容は誠に遺憾である。

国は財政再建の一環として医療費の抑制を行っており、病院の健全な運営が空前の危機に直面している現在、国民の福祉、医療を確保するためには政策金融機関としての医療金融公庫は絶対必要であり廃止には反対である。

よって、四病院団体協議会の総意により、医療金融公庫の存続を要望します。

(五十音順)

社団法人 日本病院会役員名簿 (自昭和55年4月1日 至昭和58年3月31日) (順不同)

昭和56年7月25日現在

職名	都府道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
長	大阪府	内藤景岳	総合病院南大阪病院	医療法人	(559)	大阪市住之江区東加賀屋1-18-18	06-685-0221
会長	長野県	若月俊一	佐久総合病院	厚生連	(384-03)	南佐久郡田代町大字臼田197	02678-2-3131
"	東京都	河野稔	北品川総合病院	公益法人	(140)	品川区北品川1-23-19	03-474-0023
"	大阪府	吉岡観八	新千里病院	"	(565)	吹田市津雲台1-1-D6	06-871-0121
"	富山県	村田勇	富山県立中央病院	都道府県	(930)	富山市西長江220	0764-24-1531
任理事	埼玉県	秋山博	済生会川口総合病院	済生会	(332)	川口市西川口5-12-1	0482-53-1551
"	"	池谷亘	蕨市立病院	市町村	(335)	蕨市北町2-12-18	0484-32-2277
"	千葉県	諸橋芳夫	国保旭中央病院	"	(289-25)	旭市イ-1326	04796-3-8111
"	東京都	北原哲夫	東京通信病院	国その他	(102)	千代田区富士見2-14-23	03-238-7000
"	"	野村秋守	野村病院	医療法人	(181)	三鷹市下連雀8-3-6	0422-47-4848
"	"	高山瑩	高山整形外科病院	"	(125)	葛飾区金町3-4-5	03-607-3260
"	神奈川県	大野松次	京浜総合病院	"	(211)	川崎市中原区新城1-2-5	044-777-3251
"	"	平野一彌	港北耳鼻咽喉科病院	個人	(222)	横浜市港北区菊名7-1-11	045-421-8945
"	静岡県	榎本敏雄	静岡厚生病院	厚生連	(420)	静岡市北番町23	0542-71-7177
"	"	堀川一郎	静岡赤十字病院	日赤	(420)	静岡市追手町8-2	0542-54-4311
"	愛知県	岡山義雄	岡山病院	医療法人	(460)	名古屋市中区栄1-30-1	052-221-1851
"	大阪府	二本杉皎	大阪赤十字病院	日赤	(543)	大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-53	06-771-5131
"	"	有澤源藏	有澤総合病院	医療法人	(573)	枚方市中宮東之町12-14	0720-47-2606
"	兵庫県	北村行彦	優生病院	個人	(660)	尼崎市杭瀬大崩1	06-488-1851
"	岡山県	榊原宏	榊原十全病院	医療法人	(700)	岡山市丸の内2-1-10	0862-25-1921
事	岩手県	金子保彦	岩手県立中央病院	都道府県	(020)	盛岡市本町通1-1-1	0196-53-1151
"	宮城県	安田久	石巻赤十字病院	日赤	(986)	石巻市吉野町1-7-10	0275-95-4131
"	秋田県	竹本吉夫	秋田赤十字病院	"	(010)	秋田市中通1-4-36	0188-34-3361
"	山形県	安藤静男	山形市立病院	済生館	(990)	山形市七日町1-3-26	0236-22-5201
"	福島県	星源之助	総合会津中央病院	医療法人	(965)	会津若松市一箕町大字鶴賀字船ヶ森東181-1	02422-5-1515
"	東京都	原俊夫	公立昭和病院	市町村	(187)	小平市天神町2-450	0424-61-0052
"	"	小林隆	日本赤十字社医療センター	日赤	(150)	渋谷区広尾4-1-22	03-400-1311
"	"	丹羽直久	武蔵野赤十字病院	"	(180)	武蔵野市境南町1-26-1	0422-32-3111
"	"	堀内光	東京都済生会中央病院	済生会	(108)	港区三田1-4-17	03-451-8211
"	"	丸毛英二	東京慈恵会医科大学附属病院	学校法人	(105)	港区西新橋3-19-18	03-433-1111
"	神奈川県	小野肇	大口病院	医療法人	(221)	横浜市神奈川区大口通130	045-401-3861
"	新潟県	亀山宏平	中央総合病院	厚生連	(940)	長岡市福住2-1-5	0258-35-3700
"	山梨県	中沢忠雄	加納岩病院	医療法人	(405)	山梨市上神内川1309	05532-2-2511
"	長野県	小口源一郎	昭和伊南総合病院	市町村	(399-41)	駒ヶ根市上穂栄町23-1	02658-3-2121
"	岐阜県	藤掛敏	藤掛第一病院	個人	(500)	岐阜市一番町1	0582-65-5255
"	静岡県	長谷川豊男	静岡市立静岡病院	市町村	(420)	静岡市追手町10-93	0542-53-3125

役職名	都府県	道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話番号
理事	愛知県		下村尚一	海南病院	厚生連	(498)	海部郡弥富町大字前ヶ須新田字南本田	05676-5-2396
"	"		太田元次	名古屋掖済会病院	公益法人	(454)	名古屋市中川区松年町4-66	052-652-7
"	三重県		村田清	伊勢市立伊勢総合病院	市町村	(516)	伊勢市楠部町316-2	0596-28-5
"	"		遠山豪	遠山病院	医療法人	(514)	津市南新町17-22	0592-27-6
"	大阪府		豊島正忠	大阪府済生会中津病院	済生会	(530)	大阪市北区芝田2-10-39	06-372-0
"	"		河崎茂	水間病院	医療法人	(597-01)	貝塚市水間51	0724-46-1
"	"		田中治	東大阪病院	"	(536)	大阪市城東区中央1-7-22	06-939-1
"	兵庫県		安東三郎	神戸市立西市民病院	市町村	(653)	神戸市長田区一番町2-1-4	078-576-5
"	"		白井潤	神戸掖済会病院	公益法人	(651)	神戸市中央区中山手通6-2-5	078-341-7
"	"		小原知次郎	小原病院	医療法人	(652)	神戸市兵庫区荒田町1-9-19	078-521-1
"	"		平野明	共立会病院	"	(675)	加古川市米田町平津596	0794-31-0
"	奈良県		南溢	秋津鴻池病院	"	(639-22)	御所市池之内1064	07456-2-2
"	和歌山県		遠藤香苗	和歌浦中央病院	"	(641)	和歌山市塩屋6-2-70	0734-44-1
"	"		中村了生	中村整形外科病院	"	(640)	和歌山市友田町2-28	0734-31-0
"	島根県		石倉愧	松江赤十字病院	日赤	(690)	松江市母衣町200	0852-24-2
"	高知県		近藤慶二	高知県立中央病院	都道府県	(780)	高知市桜井町2-7-33	0888-82-1
"	福岡県		欽塚登喜郎	福岡赤十字病院	日赤	(815)	福岡市南区大楠3-1-1	092-521-1
"	熊本県		三浦義一	済生会熊本病院	済生会	(860)	熊本市段山本町4-38	0963-54-9
"	長崎県		岩永光治	十善会病院	その他法人	(850)	長崎市籠町7-18	0958-21-1
監事	神奈川県		太田清一	太田総合病院	医療法人	(210)	川崎市川崎区駅前本町3-1	044-244-0
"	茨城県		戸川潔	茨城県立中央病院	都道府県	(309-17)	西茨城郡友部町鯉湖6528	02967-7-1
代議員会長	滋賀県		財津晃	長浜赤十字病院	日赤	(526)	長浜市宮前町14-7	07496-3-2
代議員会副会長	東京都		河井博	河井病院	個人	(161)	新宿区西落合1-27-10	03-951-9

職名	都府道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
〃	北海道	嘉戸達也	浦河赤十字病院	日赤	(057)	浦河郡浦河町東町230	01462-2-5111
〃	〃	野田潔	白石中央病院	医療法人	(062)	札幌市白石区平和通3丁目北2-3	011-861-8171
〃	青森県	中村登喜雄	中村整形外科病院	個人	(037)	五所川原市一ツ谷160	01733-4-3315
〃	岩手県	倉光宏	北上済生会病院	済生会	(024)	北上市花園町1-6-8	01976-4-7722
〃	〃	遠山美知	遠山病院	医療法人	(020)	盛岡市下ノ橋町6-14	0196-51-2111
〃	宮城県	丹野三男	仙台市立病院	市町村	(980)	仙台市一番町4-6-1	0222-66-7111
〃	〃	女川浩	仙台赤十字病院	日赤	(980)	仙台市五橋2-12-2	0222-27-1311
〃	秋田県	峯木照夫	秋田組合総合病院	厚生連	(011)	秋田市土崎港中央4-5-45	0188-45-0161
〃	〃	瀬戸泰士	中通病院	医療法人	(010)	秋田市南通みその町3-15	0188-33-1122
〃	山形県	篠田秀男	篠田総合病院	医療法人	(990)	山形市桜町2-68	0236-23-1711
〃	福島県	本宿尚	公立藤田総合病院	市町村	(969-17)	伊達郡国見町大字塚野目字三本木 <sup>14</sup>	02458-5-2121
〃	〃	渡辺正光	渡辺内科胃腸科病院	医療法人	(960)	福島市北町1-40	0245-22-9156
〃	茨城県	三宅和夫	県西総合病院	市町村	(309-12)	西茨城郡岩瀬町大字鎌田604	02967-5-3171
〃	〃	丹野清喜	水戸済生会総合病院	済生会	(310)	水戸市末広町1-1-8	0292-24-2121
〃	〃	会沢孝	大洗海岸病院	医療法人	(311-13)	東茨城郡大洗町大貫町915	02926-7-2191
〃	〃	鈴木達也	水戸協同病院	厚生連	(310)	水戸市宮町3-2-7	0292-31-2371
〃	栃木県	斉藤達郎	大田原赤十字病院	日赤	(324)	大田原市住吉町2-7-3	02872-3-1122
〃	〃	松本清一	自治医科大学附属病院	学校法人	(329-04)	河内郡南河内町薬師寺3311-1	02854-4-2111
〃	群馬県	長洋	前橋赤十字病院	日赤	(371)	前橋市朝日町3-21-36	0272-24-4585
〃	〃	山崎学	慈光会病院	医療法人	(370)	高崎市上佐野町501	0273-22-5140
〃	埼玉県	高木紹夫	深谷赤十字病院	日赤	(366)	深谷市大字上野台856-1	0485-71-1511
〃	〃	井上寿一	上福岡中央病院	個人	(356)	上福岡市上福岡1-14-7	0492-62-3131
〃	千葉県	小林愿之	小見川中央病院	市町村	(289-03)	香取郡小見川町南原地新田438	04788-2-3161
〃	〃	柏戸正英	柏戸病院	医療法人	(280)	千葉市長州2-21-8	0472-27-8366
〃	東京都	高橋政夫	大森赤十字病院	日赤	(143)	大田区中央4-30-11	03-775-3111
〃	〃	織本正慶	織本病院	医療法人	(180-04)	清瀬市旭が丘1-261	0424-91-2121
〃	〃	河井博	河井病院	個人	(161)	新宿区西落合1-27-10	03-951-9116
〃	〃	野村益朗	第一病院	〃	(125)	葛飾区東金町4-2-10	03-607-0007
〃	〃	前沢伯彦	東京前沢整形外科病院	〃	(166)	杉並区阿佐谷南2-14-3	03-314-5429
〃	神奈川県	藤森一平	川崎市立川崎病院	市町村	(210)	川崎市川崎区新川通12-1	044-233-5521
〃	〃	大内正夫	済生会神奈川県病院	済生会	(221)	横浜市神奈川区富家町6-6	045-432-1111
〃	〃	熊田正春	日吉病院	個人	(223)	横浜市港北区日吉本町1966	044-631-7373
〃	〃	土屋章	湖野辺病院	医療法人	(229)	相模原市湖野辺3-2-8	0427-54-2222
〃	新潟県	寺田一郎	水原郷病院	市町村	(959-21)	北蒲原郡水原町岡山町13-23	02506-2-2780
〃	〃	桑名昭治	桑名病院	医療法人	(950)	新潟市古川町6-4	0252-73-2251
〃	〃	鈴木寛	新潟県立新発田病院	都道府県	(957)	新発田市大手町4-5-48	02542-2-3121
〃	富山県	西能正一郎	西能病院	医療法人	(930)	富山市五福1130	0764-41-2481
〃	石川県	道下忠蔵	石川県立高松病院	都道府県	(929-12)	河北郡高松町字内高松マ36	0762-81-1125
〃	〃	神野正一	恵寿病院	医療法人	(926)	七尾市富岡町94	07675-2-3211
〃	福井県	藤沢正清	福井県済生会病院	済生会	(910)	福井市中央2-8-6	0776-23-1111

役職名	都府県	道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話番号
代議員	山梨県		安田 宏	大月市立中央病院	市町村	(401)	大月市大月町花咲 1225	05542-2-1
"	"		島津 寿秀	甲州中央温泉病院	医療法人	(406)	東八代郡石和町四日市場 2031	05526-2-3
"	"		飯田 文良	山梨県立中央病院	都道府県	(400)	甲府市富士見 1-1-1	0552-53-7
"	長野県		関 守	城西病院	医療法人	(390)	松本市城西 1-5-16	0263-33-6
"	静岡県		中山 耕作	総合病院聖隷浜松病院	その他法人	(430)	浜松市住吉 2-12-12	0534-74-2
"	滋賀県		財津 晃	長浜赤十字病院	日赤	(526)	長浜市宮前町 14-7	07496-3-2
"	"		加藤 明	琵琶湖病院	医療法人	(520-01)	大津市坂本本町 660	0775-78-2
"	愛知県		緒方正	豊橋市民病院	市町村	(440)	豊橋市松葉町 3-1	0532-52-6
"	"		富永 健二	名古屋第二赤十字病院	日赤	(466)	名古屋市昭和区妙見町 2-9	052-832-11
"	"		伊藤 研	総合大雄会病院	医療法人	(491)	一宮市桜 1-9-9	0586-72-1
"	"		加藤 健	三九朗病院	"	(471)	豊田市小坂町 7-80	0565-32-0
"	三重県		小山 士郎	松阪市民病院	市町村	(515)	松阪市殿町 1550	0598-23-1
"	"		田中 矩夫	田中病院	個人	(519-01)	亀山市西丸町 539	05958-2-1
"	京都府		塩津 徳晃	公立南丹病院	市町村	(629-01)	船井郡八木町大字八木小字上野 25	07714-2-2
"	"		中野 進	京都四条病院	その他法人	(600)	京都市下京区東堀川四条下ル	075-361-5
"	大阪府		上月 景光	高槻赤十字病院	日赤	(569)	高槻市阿武野 1-700	0726-96-0
"	"		西田 茂樹	大阪府済生会野江病院	済生会	(536)	大阪市城東区中央 2-11-18	06-932-0
"	"		大道 学	大道病院	医療法人	(536)	大阪市城東区東中浜 1-3-17	06-967-7
"	"		加納 繁美	総合加納病院	医療法人	(531)	大阪市淀川区天神橋 7-5-26	06-351-5
"	"		岸口 繁	府中病院	"	(594)	和泉市肥子町 1-10-17	0725-41-1
"	"		中野 博光	中野小児病院	"	(535)	大阪市旭区新森 4-13-17	06-952-4
"	兵庫県		岡田 康男	姫路赤十字病院	日赤	(670)	姫路市龍野町 5-30-1	0792-94-2
"	"		依藤 省三	済生会兵庫県病院	済生会	(651)	神戸市中央区日暮通 5-5-17	078-251-8
"	"		安田 俊吉	広野高原病院	医療法人	(673-02)	神戸市垂水区押部谷町西盛 566	078-994-1
"	"		元原 利武	明舞中央病院	"	(673)	明石市松が丘 4-1-32	078-917-2
"	"		多胡 楯祐	城南多胡病院	"	(670)	姫路市本町 15	0792-25-2
"	奈良県		久米 道雄	済生会奈良病院	済生会	(630)	奈良市杉ヶ町 24	0742-22-6
"	"		沢井 陽一	沢井病院	公益法人	(630)	奈良市船橋町 8	0742-23-3
"	和歌山県		古田 浩二	国保日高病院	市町村	(644)	御坊市藪 116-2	07382-2-1
"	"		内藤 行雄	和歌山赤十字病院	日赤	(640)	和歌山市小松原通り 4-1	0734-22-4
"	"		瀬藤 光仁	瀬藤病院	医療法人	(640)	和歌山市岡山丁 9	0734-24-3
"	"		神保 勝俊	宮本病院	"	(641)	和歌山市塩屋 3-6-1	0734-44-0
"	"		月山 和男	月山病院	個人	(640)	和歌山市小松原通り 1-3	0734-23-2
"	鳥取県		岩宮 緑	鳥取県済生会境港病院	済生会	(684)	境港市米川町 44	08594-2-3
"	"		野島 鉄之助	野島病院	医療法人	(682)	倉吉市瀬崎町 2714-1	08582-2-6
"	"							
"	島根県		森本 正紀	森本産婦人科病院	個人	(690)	松江市雑賀町 82	0852-25-2
"	岡山県		大和 人士	岡山済生会総合病院	済生会	(700)	岡山市伊福町 1-17-18	0862-52-2
"	"		宮本 祥郎	総合病院津山中央病院	公益法人	(708)	津山市二階町 67	08682-2-6

職名	都府県	道名	氏名	病院名	経営主体	〒	病院所在地	電話
議員	岡山県		木田 恵三	新見中央病院	医療法人	(718)	新見市新見 827-1	08677-2-2110
〃	広島県		岡田 泰二	岡田病院	個人	(734)	広島市元字品町 26-19	0822-55-3911
〃	山口県		吉富 正一	総合病院山口赤十字病院	日赤	(753)	山口市八幡馬場 53-1	0839-23-0111
〃	〃		村田 寿太郎	村田博愛病院	医療法人	(747)	防府市三田尻 1-1-24	0835-22-2310
〃	香川県		萱田 静海	香川労災病院	その他公的	(763)	丸亀市城東町 148	08772-3-3111
〃	〃		藤原 憲和	総合病院回生病院	医療法人	(762)	坂出市室町 3-5-28	08774-6-1011
〃	愛媛県		土屋 定敏	総合病院松山赤十字病院	日赤	(790)	松山市文京町 1	0899-24-1111
〃	〃		松尾 慎一郎	十全総合病院	公益法人	(792)	新居浜市北新町 1-5	0897-33-1818
〃	徳島県		中西 修	中西整形外科病院	医療法人	(770)	徳島市中通町 1-29	0886-26-3822
〃	高知県		岡村 一雄	岡村病院	医療法人	(780)	高知市入明町 1-5	0888-22-5155
〃	福岡県		兵働 貞夫	浜の町病院	その他公的	(810)	福岡市中央区舞鶴 3-5-27	092-721-0831
〃	〃		井手 一郎	聖マリア病院	医療法人	(830)	久留米市津福本町 422	0942-35-3322
〃	〃		原 安彦	香椎原病院	〃	(813)	福岡市東区香椎 3-3-1	092-662-1333
〃	〃		弓削 静彦	大牟田市立病院	市町村	(836)	大牟田市不知火町 3-3	09445-3-1061
〃	〃		土屋 呂武	済生会福岡総合病院	済生会	(810)	福岡市中央区天神 1-3-46	092-771-8151
〃	佐賀県		鶴丸 廣長	佐賀県立病院好生館	都道府県	(840)	佐賀市水ヶ江 1-12-9	0952-24-2171
〃	〃		山口 弾之	至誠会病院	医療法人	(840)	佐賀市田代 2-7-24	0952-24-5325
〃	長崎県		福井 順	福井病院	〃	(851-03)	長崎市深堀町 1-11-54	0958-71-1515
〃	沖縄県		比嘉 實	沖縄赤十字病院	日赤	(902)	那覇市古波蔵 113	0988-53-3134

社団法人 日本病院会委員会委員名簿

自 昭和57年4月1日  
至 昭和58年3月31日

1. 医療制度委員会

小西 宏	委員長	神奈川県済生会業務担当理事	神奈川県	045-662-4721
河野 稔	委員	北品川総合病院	東京都	03- 474-0023
諸橋 芳夫	委員	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
大野 松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
小野 肇	委員	大口病院	神奈川県	045-401-3861
鈴木 憲輔	委員	八千代中央病院	千葉県	0474-83-1555
左奈田 幸夫	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
佐分利 輝彦	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03- 203-5327
行天 良雄	委員	日本放送協会	東京都	03- 465-1111
渡辺 茂夫	委員	社会保険中央総合病院	東京都	03-999-0287(自)
紀伊國 献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-2111
井上 昌彦	委員	北里大学	東京都	03- 444-6161
津田 豊和	委員	厚生省病院管理研究所	東京都	03- 203-5327
尾崎 恭輔	委員	東海大学	神奈川県	0463-93-1121
矢野 正子	委員	都立神経病院	東京都	0423-23-5111
荒井 蝶子	委員	聖路加看護大学	東京都	03- 543-6391

2. 社会保険委員会

諸橋 芳夫	委員長	国保旭中央病院	千葉県	04796-3-8111
一条 勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
大野 松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
小笠原 道夫	委員	河北総合病院	東京都	03- 339-2121
尾口 平吉	委員	全国自治体病院協議会	東京都	03- 261-8555
落合 勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03- 381-0196
北村 行彦	委員	優生病院	兵庫県	06- 448-1851
黒田 幸男	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211

高橋政夫	委員	大森赤十字病院	東京都	03-775-3111
吉崎芳雄	委員	厚生連	東京都	03-279-0311
有澤源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606

### 3. 医療経済委員会

有澤源蔵	委員長	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
遠山豪	委員	遠山病院	三重県	0592-27-6171
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
土屋章	委員	淵野辺病院	神奈川県	0427-54-2222
深瀬邦雄	委員	日比谷病院	東京都	03-502-7231
園部雅一	委員	兵庫医科大学	兵庫県	0798-45-6500
酒泉春雄	委員	河北総合病院	東京都	03-339-2121
星源孝	委員	総合会津中央病院	福島県	0242-25-1515
森久雄	委員	森会計事務所	東京都	03-970-2127
伊藤寛	委員	伊藤会計事務所	愛知県	052-541-0166

### 4. 病院管理委員会

野村秋守	委員長	野村病院	東京都	0422-47-4848
北村行彦	副委員長	優生病院	兵庫県	06-488-1851
榊原宏	副委員長	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
岡山義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
池谷亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
榎本敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
小原知次郎	委員	小原病院	兵庫県	078-521-1222
菱山博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031

### 5. 教育委員会

村田勇	委員長	富山県立中央病院	富山県	0764-24-1531
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111

榊原 宏	委員	榊原 十全病院	岡山県	0862-25-1921
三宅 浩之	委員	関東通信病院	東京都	03- 448-6537
菱山 博文	委員	福岡城南病院	福岡県	092-531-7031
川北 祐幸	委員	順天堂医院	東京都	03- 813-3111
落合 勝一郎	委員	東京文化学園	東京都	03- 381-0196
内田 卿子	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
吉武 香代子	委員	千葉大学看護学部	千葉県	0472-22-7171
土井 正	委員	山田総合病院	東京都	03- 962-5051

## 6. 臨床予防医学委員会

二本杉 皎	委員長	大阪赤十字病院	大阪府	06- 771-5131
鈴木 豊明	副委員長	東京警察病院	東京都	03- 263-1371
藤間 弘行	副委員長	藤間病院	埼玉県	0485-22-0600
安藤 幸夫	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
飯田 晶	委員	東芝中央病院	東京都	03- 764-0511
宇津 典彦	委員	久留米大学病院	福岡県	0942-35-3311
榎本 敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
小関 忠尚	委員	京都第二赤十字病院	京都府	075-231-5171
金沢 鉄男	委員	青森県立中央病院	青森県	0177-26-8302
清瀬 闊	委員	三井記念病院	東京都	03- 862-9111
笹森 典雄	委員	牧田総合病院	東京都	03- 762-4671
高橋 春雄	委員	愛知県総合保健センター	愛知県	052-962-5371
田中 剛二	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211
丹野 三男	委員	仙台市立病院	宮城県	0222-25-7111
寺田 由紀夫	委員	大阪赤十字病院	大阪府	06- 771-5131
日野原 重明	委員	聖路加看護大学	東京都	03- 543-6391
松岡 研	委員	P L 病院	大阪府	07212-4-3100
三木 徹	委員	丸山病院	兵庫県	078-642-1031

## 7. 通信教育委員会

高橋政祺	委員長	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
田中敏行	副委員長	大阪通信病院	大阪府	06-771-0545
犬塚貞光	委員	福岡大学病院	福岡県	092-801-1011
大町文子	委員	元日本パプテスト病院	京都府	075-701-8016
落合勝一郎	委員	聖路加看護大学	東京都	03-543-6391
笠井良一	委員	元日本パプテスト病院	京都府	075-701-8016
栗田静枝	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
酒井隆子	委員	京都市立病院	京都府	075-311-5311
竹中喬	委員	大阪府立 母子保健総合医療センター	大阪府	0725-56-1220
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111

## 8. 学術委員会

北原哲夫	委員長	東京通信病院	東京都	03-261-8211
一条勝夫	副委員長	自治医科大学	栃木県	0285-44-2111
秋山博	委員	済生会川口総合病院	埼玉県	0482-53-1551
鎌田利雄	委員	北品川総合病院	東京都	03-474-7730
高橋政祺	委員	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03-972-8111
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537
山本修	委員	都立看護専門学校	東京都	03-941-9321
渡辺進	相談役	成田赤十字病院	千葉県	0476-22-2311

## 9. 広報委員会

高山瑩	委員長	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
江本俊秀	委員	東海病院	東京都	03-999-1131
岸口繁	委員	府中病院	大阪府	0725-41-1646
浅見信子	委員	蒲田総合病院	東京都	03-738-8221
宇井美代子	委員	聖路加国際病院	東京都	03-541-5151
後藤清	委員	駿河台日本大学病院	東京都	03-293-1711
益田啓作	委員	横浜赤十字病院	神奈川県	045-622-0101

木村千枝子	委員	東京日立病院	東京都	03- 831-2181
平和夫	委員	東京都済生会中央病院	東京都	03- 451-8211
行天良雄	参与	日本放送協会	東京都	03- 465-1111

#### 10. 情報センター委員会

細川一郎	委員長	静岡赤十字病院	静岡県	0542-54-4311
三宅浩之	副委員長	関東通信病院	東京都	03- 448-6537
青木禧和	委員	前日本病院団体連合会	神奈川県	
池田博	委員	東京慈恵会医科大学	東京都	03- 433-1111
一条勝夫	委員	自治医科大学	栃木県	02854-4-2111
岡田行雄	委員	電々公社データ通信本部	東京都	03- 509-4529
土井義行	委員	舞子台病院	兵庫県	078-782-0055
水野精巳	委員	元豊洲厚生病院	東京都	
三宅史郎	委員	日本大学医学部	東京都	03- 972-8111

#### 11. 国際委員会

河野稔	委員長	北品川総合病院	東京都	03- 474-0023
吉岡観八	委員	新千里病院	大阪府	06- 871-0121
高橋勝三	委員	武蔵野赤十字病院	東京都	0422-32-3111
国重信彦	委員	佼成病院	東京都	03- 383-1281
紀伊國献三	委員	筑波大学	茨城県	0298-53-3067
関武矩	委員	聖路加国際病院	東京都	03- 541-5151
久保文苗	委員	日本医薬情報センター	東京都	03- 406-1811
三宅浩之	委員	関東通信病院	東京都	03- 448-6537
高橋政祺	委員	杏林大学医学部	東京都	0422-47-5511
波多野誠	委員	九段坂病院	東京都	03- 262-9191
高杉成一	委員	東京大学医学部	東京都	03- 812-2111
樋口康子	委員	日本赤十字社	東京都	03- 498-2995

(特別委員会)

医療費対策特別委員会

吉岡 観八	委員長	新千里病院	大阪府	06-871-0121
榎本 敏雄	副委員長	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
有澤 源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
池谷 亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
大野 松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
岡山 義雄	委員	岡山病院	愛知県	052-221-1851
北原 哲夫	委員	東京通信病院	東京都	03-261-8211
高山 瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
三宅 浩之	委員	関東通信病院	東京都	03-448-6537

諸規定検討委員会

野村 秋守	委員	野村病院	東京都	0422-47-4848
大野 松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
池谷 亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
榎本 敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177
高山 瑩	委員	高山整形外科病院	東京都	03-607-3260
財津 晃	委員	長浜赤十字病院	滋賀県	07496-3-2111
高橋 彦太郎	委員	(社)日本病院会	東京都	03-265-0077

会員増強対策委員会

河野 稔	委員長	北品川総合病院	東京都	03-474-0023
榊原 宏	委員	榊原十全病院	岡山県	0862-25-1921
大野 松次	委員	京浜総合病院	神奈川県	044-777-3251
池谷 亘	委員	蕨市立病院	埼玉県	0484-32-2277
有澤 源蔵	委員	有澤総合病院	大阪府	0720-47-2606
榎本 敏雄	委員	静岡厚生病院	静岡県	0542-71-7177

# 会 員 状 況

昭和58年3月31日現在

都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数	都道府県名	会 員 数
北 海 道	36	新 潟	48	鳥 取	8
青 森	12	静 岡	49	島 根	11
岩 手	10	愛 知	107	山 口	25
秋 田	26	岐 阜	24	香 川	10
山 形	10	三 重	32	徳 島	4
宮 城	15	滋 賀	21	高 知	22
福 島	25	京 都	49	愛 媛	20
栃 木	10	大 阪	160	福 岡	61
茨 城	25	奈 良	32	佐 賀	5
群 馬	22	和 歌 山	67	長 崎	36
埼 玉	41	兵 庫	155	熊 本	14
千 葉	37	富 山	12	大 分	6
神 奈 川	83	石 川	12	宮 崎	8
東 京	237	福 井	8	鹿 児 島	7
山 梨	33	岡 山	77	冲 縄	2
長 野	15	広 島	31	合 計	1,760
昭和57年4月1日					
		昭和57年4月1日	昭和58年3月31日	増 減	
正 会 員		1,768	1,760	- 8	
賛 助 会 員 A		141	145	+ 4	
B		115	119	+ 4	
C		14	14	0	
D		99	107	+ 8	
計		2,137	2,145	+ 8	